

## 令和6年度 第3回珠洲市復興計画策定に係る意見交換会 協議記録

日 時	2024年12月4日(水) 18:00~20:00
場 所	若山小学校 体育館

参加者(人数):46名

報道関係者:5社程度

泉谷市長

区長会長 北風 八紘(出田区長)

市議会議員 森井 洋光

市役所担当

総務課 女田室長

環境建設課 大宮課長、川角課長補佐、新係長、高橋主幹、樋口主任技師、和田主任技師、本多専門員、檜原主任技師、井上主任技師

福祉課 三上所長

教育委員会 吉木教育長

復旧・復興本部 濱野局長、西次長、河原係長

計画情報研究所 米田

### 【開会のあいさつ】

北風区長会長:

夕食時でお忙しい中、大勢の方にお集まりいただき、ありがとうございます。地震が終わってから間もなく1年が経とうとしている。バタバタしているうちに早一年かと感じている。復旧・復興に向けて市役所、国、県が一生懸命頑張っている。ちょっと周りを見ると世の中の景色が変わってきたなど思っている。これからお話することは、若山町をどうするかということである。皆さまのご意見をたくさんいただければ嬉しいと思う。よろしくお願い申し上げます。

森井市議会議員:

お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。もう1年が経とうとするが、こうして皆さんお顔を見ると感無量である。本当に大きな地震、そして豪雨災害で年に2回も酷い目に遭った。大変な中で皆さんにお集まりいただいて本当にうれしく思う。これから先のことを考えると、本当に辛い思いもたくさんあるが、何とかここを乗り越えて一歩でも前進し、こういう時にこそ若山の力を発揮して、お互いに結集していきたい。ぜひ皆さんの想いを市長や職員の皆さんにぶつけて、一歩でも前進するようにお互いに頑張っていきたいと思う。一日でも早く、珠洲市が、若山町が素晴らしいまちになるようにお互いに努力していきたい。よろしくお願い申し上げます。

市長:

まだまだ厳しい状況が続いている。9月の豪雨災害では若山地区の被害は大きかった。皆さんの気持

ちを察すると辛いものがある。そうした中、第3回意見交換会を迎えた。これまでも復興計画の説明をしてきたが実現性を踏まえて、さらなる修正を行った。10地区、細かくいうと24地区それぞれで「新たなまちのかたち」をどう進めていくかが何より大事だ。皆さんの意見を絵に落とし込むことが大事であり、活発な意見交換会が行われている。かなり煮詰まった内容になってきている。今日の意見交換会でさらに意見交換を進めていきたい。10月の臨時議会、12月の定例会で更なる補助制度を図る予定だ。若山小学校の横に建設される応急仮設住宅34戸も年内に整備できそうだ。農業の復旧（土砂排除）は来年の春の作付けに間に合うよう全力で取り組んでいく。

## 【復興計画案の説明】

### 復旧・復興本部：

策定委員会や意見交換会等でいただいた意見をできるだけ反映させる形でとりまとめを進めている。この計画は、今後、珠洲市が進める総合的な施策を整理している。早いものは今年度から取り組む。復旧と復興を同時に進めていく。

<資料に基づいて復興計画案の施策内容を説明>

<若山地区の復興まちづくり内容を説明（計画情報研究所）>

<年明けからの意向調査ご協力をお願い（計画情報研究所）>

<住まいの再建と災害公営住宅について説明（環境建設課）>

## 【参加者からの意見】

### 参加者：

中田の加曾神社の下に災害に遭った河川がある。地震で護岸がやられ、測量しているところに豪雨災害があった。護岸高が2mあったが、土砂が溜まり、川底まで20cmになっている。このままの状態ではまた雨が降ったら酷いことになる。この川の現況は見られたか。

### 環境建設課：

ご指摘の河川の現状は把握できている。道路や河川など、市管理のものについて追い付かない部分もあるが、なるべく全て復旧できるように努力している。

### 市長：

来年の出水期に二次災害とならないよう応急復旧を進めていきたい。

### 参加者：

仮設住宅が当初の予定より遅れていた。上黒丸も年内になんとかと聞いていた。なんとか無事に入居することができて感謝している。元の集落の要望を聞くのはこれからだが、一緒に話し合っていきたいと考えている。先日、環境建設課と総務課にお礼に伺った際に細かい要望を出した。喫緊の課題は雪対策だ。体育館の屋根から雪が滑り落ちる所に駐車場がある。近隣の方から土地の提供があり駐車場の整

備を進めている。

**市長：**

豪雨災害の応急仮設住宅については 22 戸整備を始めている。2 月完成の予定で進めている。上黒丸地区には美しい棚田もある。農業の再生についても共に取り組んでいきたい。上黒丸のグラウンドに応急仮設住宅を建設したが、それぞれの地区で分散して災害公営住宅が必要であれば、その旨も教えてほしい。

**環境建設課：**

駐車場については現場を確認しており、今後対応する予定。仮設住宅の全体的な除雪については、市道を優先して除雪し、その後仮設住宅敷地内の除雪を行う。仮設住宅敷地内の舗装された車が通れる道路は除雪させていただく予定だ。仮設住宅の棟と棟の間は機械除雪が難しい。小さな除雪機やスコップを準備したので、皆さんのご協力を頂きたい。駐車場のアスファルト舗装も石川県の基金の方で進めていくが、道路の舗装もまだ追いついておらず、冬までには難しい。雪が解けた段階で駐車場の対応もしていく。

**参加者：**

被災者の宿命として未来につなげること。市長の集落の集約ありきで進めないという意向に同意している。より良い生活をしたい訳ではなく、元の生活に戻りたい。現状、国から集約に向けた働きかけがあるのかないか聞きたい。

**市長：**

財政審から集約化という話はあった。財務省の想いではなく財政審の想いだという説明はあった。復旧・復興に向けて、コスト低減や集約を求めるのはよくないと考えている。大谷に石破総理が来られて、実際に現地を確認いただいた。外浦は裏山が崩れて厳しい状況になっており、被災者の厳しい状況に支援いただきたいと伝えている。石破総理が本部会議で、国の事業と市の事業を一体的にやりなさいと指示されたという話が出ている。集約化、コンパクト化という国の動きはないものと理解している。国道 249 号は国の方で応急復旧と対策工事を進めてもらっている。国から手厚い支援、配慮を頂いていると考えている。珠洲市としても地域の再生をしっかりと果たしていきたいと考えている。北山は厳しい状況。これまで自前で水を確保していたと思う。珠洲市の水道施設ではないが支援していきたいと考えている。

**参加者：**

元に戻す指針のもとに動いているのは良いと思うし、この後もそうあるべきだと思っている。この地域は元に戻す、この地域は元に戻さないという事例は作るべきではない。税込の中で、東日本大震災では 2037 年まで所得税から 2.1%程度を復興に充てている。財政的に地方は不利で苦労している。災害対応を地方自治体に丸投げしているのが気に入らない。国にもっと働きかけていただきたい。

**市長：**

同じ想いである。日本のこれからのあり方を指し示すような復旧・復興を目指していきたい。こうあるべきだということまで国に働きかけていきたい。これまで働きかけたことは概ね実現している。雇

用調整助成金も当初1年間だったが、更に1年延長に向けて補正予算に計上してもらった。土砂の撤去も同じ。災害公営住宅も補助対象の拡充を石破総理が指示している。

**参加者：**

仮設住宅の除雪で、除雪機を借りた場合の油代はどうなるのか。

**市長：**

集会所がある応急仮設住宅はライオンズクラブのご厚意で小型除雪機を頂戴できそうで、こちらの油代については応急仮設住宅の管理費を活用することが考えられるのではないかと。環境建設課の除雪機は自主防災組織にお渡ししている10万円から捻出してもらおうという選択肢もある。冬間近なので早々に検討が必要である。

**福祉課：**

仮設住宅に入居されている方、在宅の方、様々である。在宅の方は満タンにして返す、仮設住宅の方は何らかの経費でというのは少し違う気がする。コミュニティで相談して管理費から、在宅なら区の中で相談して地域コミュニティ活動支援金の活用を検討いただくと助かる。

**市長：**

こちらでも色々考えるが、基本的にはそれぞれで工面していただくということで良いか。

**参加者：**

在宅は今まで通りそれで良いと思うが、仮設住宅の狭いところは違う。

**市長：**

集会所のある応急仮設住宅には小型の除雪機をお渡しする。集会所のない仮設住宅には除雪機がない。応急仮設住宅を管理する人を決めていない仮設住宅もある。決め事ができなくて困るかもしれない。あまり時間もないが考えていく。

**参加者：**

個人的な話だが、8月に申請した農機具補助の交付決定書が届かない。

**市長：**

奥能登農林総合事務所や石川県、国を回って珠洲市に戻ってくるため、手続きに時間がかかっている。もう間もなく届くと思うので、随時交付決定をしていく。

**参加者：**

吉ヶ池の用水路の復旧はいつ頃か。説明された図面では要望となっている。

**市長：**

基本的に農地、農業施設の復旧は全部実施する。

**珠洲市土地改良区：**

吉ヶ池は石川県が施工することとなった。現在、石川県で測量と設計を進めている。発注については年明けからとなる。

**参加者：**

来年の作付けに間に合うように復旧が進むのか。

**市長：**

何とかなる農地に関しては、来春の作付けに間に合うように復旧を進めたい。非常に被害が大きい所は現実的に難しいところもある。現在、石川県の方で早急に復旧できる、2年かかる、5年かかるところを色分けしている。早急にできるところは、国・県と連携して復旧する。全てという訳にはいかないが、珠洲市としても農業の再生、復旧は一番のベースとして考えていて進めていきたい。

**参加者：**

地域コミュニティ施設の支援について1,200万円、最大4分の3の補助がある。コミュニティ施設が全壊し、代わりに大規模半壊になっている神社を直してコミュニティ施設として使いたい。宗教施設と捉えられると難しいのではないかと考える。復興計画の基本方針に祭りの再建支援がある。どのように考えているかを聞きたい。

**市長：**

お宮が地域の拠り所、そこで色々な話し合いをしていて、単に宗教的施設ではないというところをどう出していくか、そこが微妙である。集会所を兼ねた神社の再建がどこまで認められるのか。財産がどういった名目になっているのか、ケースバイケースになる。ある程度こちらでも探っていきたい。県でもしっかりと線引きされておらず、判断が中々難しいところである。こうすれば何とか補助の対象になるのではないかと等、一緒に考えていきたい。

**参加者：**

上黒丸について、各集落に1本ないし2本、どちらかを何とか県道につながる道路にしてほしい。北山は1本しかないので、輪島に出られる道路を作ってほしい。抜けられるようにしていただきたい。

**市長：**

道路復旧に精一杯なところもあるが、全く入れない集落は無くなった。洲巻も通れるようになった。こっちの道路が通れなくても、こっちから行けるというようにしていく。実現不可能なものは復興計画(案)に載せていないと冒頭に言い切ったので、これから考えて実施していく。

**参加者：**

若山小学校の仮設グラウンドはどうなっている。

**教育長：**

若山小学校前の耕作放棄地を仮設グラウンドとする計画で進めている。設計が終わり、測量に入る予定である。

**参加者:**

飯田高校下の四差路の集水柵が壊れており、以前もどうにかならないかという要望はしているが、柵が置いてあるままである。これから冬になり、子どもが交差点を歩くとなると危険である。鉄板を引くなどの対応が必要である。

**環境建設課:**

県管理になり、何かしらの対応はしているが、こちらでも確認して要望しておく。

**市長:**

児童・生徒のためにも強く要望しておく。

**参加者:**

みなし仮設に住んでいる。行く行くは若山に帰ってきたい。自宅は中規模半壊。市道に面した崖が崩れ、その上に家が建っていた。修繕は 2/3 補助と聞いている。自宅を直しても崖が非常に危険なので、業者さんからも大丈夫ですかと心配される。どうして良いか悩んでいる。

**環境建設課:**

ご自身の宅地にある擁壁であれば、被災宅地の補助金が使える。

**市長:**

県の 2/3 補助に珠洲市が上乘せして、2割負担まで軽減している。まずは業者から見積もりをいただいて、環境建設課に申請の相談をして欲しい。

**参加者:**

若山に大きな断層できたというのはニュースでも有名になり、貴重な断層と聞いている。珠洲市としては今後残すことを検討しているのか。残すとなると土地の使い方も変わってくるのでお聞きしたい。

**市長:**

震災遺構を観光に活かすことは復興計画にも位置付けている。段差 2m×4 k mあるのでどこまでを震災遺構として管理していくかについては、まだ方針が決まっておらず、今後の課題となるが想いはある。所有されている方も話し合いが必要。隆起した海岸についても奥能登全体で残していこうと同様に考えている。見附島をどうするかということもある。まだ何も決まっていないので勝手なことは言えないが、色々とまた取り組んでいきたい。

**参加者:**

3ヶ月ほど前に買物に行ったらコンビニが満員だった。70代くらいの人が「珠洲市は地震があって、水害もあってもう駄目だ」という話を大きな声でしていた。金沢から来た人のようだ。珠洲市を貶めるような発言をされ残念だ。人口減について、将来の人口動態について、どう考えているのか聞きたい。

**市長：**

残念ながら人口流出が続いているのは事実だ。これまでは毎年、大体 350 人ほど減少しており、色々な取り組みをしてきた。大規模災害が人口流出に拍車をかけている。この 1 年で 1,000 人ほど減っている。復旧・復興を早く進めていくというのも大事だが、珠洲市を誇らしく思えるようにしていく必要があると考えている。解体撤去も 43%まで進んでおり、街並みも変わっている。震災遺構も含めて、何をプラスにしていくか、「災い転じて」の形にしていかなければならない。

**参加者：**

住むところが無くなって出ていった人が、一日でも早く帰れるようにしてほしい。受け皿をしっかりと作って欲しい。

**市長：**

災害公営住宅は皆さんの議論を踏まえながら計画を進めていきたいし、必要な戸数を整備していきたい。来年 1 月から意向調査も始まるので、皆さんの意向を丁寧に確認しながら進めていきたい。

**参加者：**

豪雨後 1 つの（携帯）キャリアが繋がらなくなった。珠洲市として要望を出してもらえないのか。

**市長：**

儲かるのであればキャリアがアンテナを設置する。儲からない所は、珠洲市が負担して設置しなければならない。半島振興法の法律改正の中にも通信基盤の強化が含まれているので、今までよりも補助率が高くなると思う。復興計画にも通信基盤の強靱化は位置づけている。

**参加者：**

水道水が突然飲めなくなった（P F A S 検出）報道があったが、この先、珠洲市はどうなのか。

**市長：**

今のところ全く問題ない。リスクも見当たらない。そういう物質が見付かれば皆さんにお伝えする。豪雨の後、一時、宝立浄水場の運用も不安定で断水にもなった。改めてお詫びを申し上げる。現在は安定しているため、いきなり断水するというリスクは無いと考えている。事前に断水が見込まれる際にはお伝えし、改善していくところはしていきたい。

以上

## 令和6年度 第3回珠洲市復興計画策定に係る意見交換会 協議記録

日 時	2024年12月12日(木) 18:00~20:10
場 所	直小学校 体育館

参加者:32名

マスコミ:4社程度

泉谷市長

区長会長 樋爪 一成 (大島田区長)

市議会議員 番匠 雅典

市役所担当

総務課 女田室長

環境建設課 大宮課長、川角課長補佐、新係長、高橋主幹、和田主任技師、井上主任技師

福祉課 三上所長

復旧・復興本部 濱野局長、西次長、河原係長

計画情報研究所 米田、田村

建設技術研究所 伊藤

### 【開会のあいさつ】

樋爪区長会長：

9月に起こった豪雨災害によって復旧・復興も遅れている。今回の意見交換会も当初の予定より1ヶ月遅れての開催となった。3回目となる今回が最後になるかと思う。皆さんの復興に対しての想いや要望、質問をたくさん出して頂けたらと思う。行政の方から直地区の復興やまちづくりについて、住民同士で考えてほしいとボールを投げられている状態。行政側としては、私たち直地区の意見を踏まえて復興を進めていきたいという配慮のもとだと思っている。区長会として2回ほど、主に災害公営住宅をどこに作ったらいいのか、まちづくりの話を行政のアドバイザーやコンサルと交えて話した。区長会だけでは対応できないことも多いと思っていたが、若い方々も来てくれて一緒に話をすると、区長会だけでは出ないような内容もたくさん出た。そういう場を設けないといけないと感じた。災害公営住宅に関してもまだ全然決まっていないし、まちづくりを進めていく上で、若い方だけでなく、色々な層の方々の話を聞くことが必要。今後も話し合いの声掛けをしていくので、参加のご協力をお願いしたい。

番匠市議会議員：

復興を考える上で10年先以上を見た時、これから先をどう考えるかを試されている状況。直地区においては地震、豪雨の被害もあったが経済の中心地でもあり、観光の窓口でもあり、人が集まるような中心的な位置にある。珠洲市の復興において、直地区の復興が核となると思うので、本日は皆さんの忌憚のない意見を多く賜りたい。

市長：

発災から間もなく1年となるが厳しい状況が続いている。1月の地震に加えて、9月の豪雨災害も受

けた。6月と8月に続いて3回目の意見交換会となる。豪雨災害の影響により1ヶ月遅れた。復興計画そのものについては様々なご意見をいただき、実現性を踏まえて、さらなる修正を行った。実現不可能なものは削除しており、今日改めてご説明したい。10地区細かく分けると24地区で「新たなまちのかたち」をどう進めていくかが何よりも大事だ。今日の意見交換会で、さらに議論を進めていきたい。住宅再建に向けて、珠洲市として新築については上限200万円の1割補助、子育て世帯については上限300万の15%補助、800万円以上が対象となるが新たな制度を作った。大規模修繕についても同じ。小規模な修繕については、12月の定例会で更なる補助制度を図る予定だ。災害公営住宅は700戸程度必要になるものと見込んでいる。今後、記名式のアンケート調査を進めながら煮詰めていきたいと考えている。どこに建てるかにおいても各地区で議論いただいている「新たなまちのかたち」についての要望を聞き、最大限対応していきたい。

### 【復興計画案の説明】

#### 復旧・復興本部：

策定委員会や意見交換会等でいただいた意見をできるだけ反映させる形でとりまとめを進めている。この計画は、今後、珠洲市が進める総合的な施策を整理している。復興方針図に基づき、優先順位をつけながら各地区のまちづくりを進めていく。優先順位が高いものは早いものは、今年度から取り組んでいく。

<資料に基づいて復興計画案の施策内容を説明>

<直地区の復興まちづくり内容を説明（計画情報研究所）>

<年明けからの意向調査ご協力をお願い（計画情報研究所）>

<住まいの再建と災害公営住宅について説明（環境建設課）>

### 【参加者からの意見】

#### 参加者：

配布の地図に直小学校の仮設グラウンドの記載がない。場所、広さ、整備時期等について教えて欲しい。

#### 環境建設課：

仮設グラウンドの建設候補地は直公民館の道路を挟んで海側にある、キリコ倉庫のそばにある砂地の空地が候補地となっている。工事については、年内に工事の入札を行う予定。広さは手元に資料はないが、砂地のところで了解を頂いて整備する。完成時期は年度内を目標として事務処理を進めているが、雪の影響などにより遅れる可能性はある。

#### 市長：

広さも十分ではない可能性があるが、できるだけ早く整備していきたい。

#### 参加者：

間もなく入札との事だが、間取りなどの設計は終わっているのか知りたい。

**市長：**

先程の（入札の）話は仮設グラウンドの話です。

**環境建設課：**

災害公営住宅は報道にあった通り、馬縹地区と飯田地区が先行しており、今年度中に基本計画を策定し、来年度着手する方向。他の地区については、今年度中に候補となる土地を決めたい。珠洲市として700戸整備する必要がある、どのように整備するかという方針を定めようと考えている。その方針に基づいて、来年度に各地区の基本計画を策定していきたい。

**参加者：**

入居者の人数だけでなく、入居者の駐車台数も考慮して欲しい。

**環境建設課：**

公営住宅なので贅沢なものにはできないが、1世帯1台は確保する。ただ、珠洲市の生活スタイルは把握しているので、駐車場として整備できないかもしれないが、1世帯2台程度は考えていきたい。

**参加者：**

復興方針図の5番から質問したい。本江寺に住んでいる。液状化への対応と道路の高さの見直しが記されているが、具体的な内容について知りたい。

**環境建設課：**

本江寺の液状化については、地滑りも発生していてかなり地盤が痛んでいる。ボーリング調査なども行なっているが、個人個人で宅地を直していただくのが一番良いと考えている。地域全体でやろうとするとかなり時間がかかるとの検討結果も出ているため、補助金制度等を充実させ、各自でやってもらうよう検討を進めている。道路の高さは、住宅の再建に合わせて、道路の高さを示していく方向で進めていきたいと検討している。

**参加者：**

中町も地滑り（液状化）が示されており、住まない人が多くなりそうだ。

**市長：**

エリアとして液状化対策はできるが、かなり期間もかかる。熊本地震の際の液状化対策も、8年経っているが未だに工事中。エリアとして液状化対策はできるが、そこに新たに家を建てるとなると相当時間がかかってしまう。自分も気になっており、国土交通省に問い合わせたところ、宝立、飯田、直、正院、蛸島地区は液状化の調査をすること。エリアで対策しなければならないかということ、そういうことではなく、エリアでもできるし、個別でも対応ができること。リスクが高いほど地盤強化に要する費用も大きくなるかもしれない。県と珠洲市独自に上乘せした被災宅地の地盤強化、傾きの修繕、法面の補強等の補助制度がある。宅地にかかる部分の50万円を除き、個人負担は2割で済むようにしている。最大919万円ほどの補助金となり、強化や修繕はできると思うので、そういった形で進めてほしい。浜側の街道沿いの辺りは、地盤の問題もあって倒壊率も高い。そこにもう一度建てられるかどうか

かといったことも含めて対応できればと思う。

**参加者：**

そこに住めるかどうか判断するのは、状況を見てということで良いか。

**市長：**

ある程度のことは国土交通省の方で調査はするが、そこに住むか住まないかの判断は個人になる。珠洲市としてこうすれば大丈夫という判断は難しい。

**計画情報研究所：**

家を建てる前に、建設会社が地盤を調査し、どれくらいの対策が必要か検討される。その対策について、補助制度を充実させ、建て替えるように検討している。次にまた地震があり、隣地が対策していないため、被害が大きくなる恐れがある件については、ものすごく地盤が弱い所であればあり得るが、現在調べている中では、基本的に個別の対応で大丈夫だろうと判断している。

**参加者：**

意向調査を1月に実施するとあるが、実態や町内の様子を踏まえて、最終的に皆さんで判断すると思う。この調査が最終ではないということで良いか。

**環境建設課：**

最終ではなく、何回も繰り返して意向を聞く。今住んでいる方がどれくらい住み続ける予定か、しっかり把握したいため、まずは1月に行いたい。今後、何回も調査するので、途中で考えが変わっても大丈夫。

**市長：**

自分は再建しようと考えても、隣近所の様子によっては判断を変える場合もあり得ると思う。個人情報の問題はあるが、繰り返し行う意向調査の中で、そうした情報も提供していきたいと考えている。全体像がイメージできないとどうすれば良いか判断できないところもある。意見交換会はこれで一旦終わりとなるが、継続的な協議の場は必要と考えている。

**参加者：**

本江寺の自宅は液状化で全壊し、公費解体した。野々江地区は中心地に近く環境が良い。他地区からの住宅再建の受け皿、あるいは災害公営住宅の候補地としてはどうか。

**市長：**

お住まいだった場所での再建を基本としているが、市全体の問題として意向調査の内容を見ながら、市全体で考えなければならないことは考えていく必要があると自分も思っている。

**参加者：**

半壊だったが全壊扱いで新しい家を建てようと頑張っている。書類は提出済みで200万円くらいの差額は振り込まれた。補助金や支援金の国や県からの支払いはいつ頃になるのか。工事が完了しないとも

らえないのか。

**市長：**

230万円の振り込みが早かったというのは義援金であり、県からは180万、全壊の方に対して珠洲市からは50万円、できるだけ早くお渡ししたいという思いがあった。一方で、国の方からの200万円というのは全壊の方で、新築した場合の加算支援金のことだと思う。

**総務課：**

加算支援金（国）は一旦書類を提出いただき、県でチェックしてから書類を国に渡し、支払い手続きとなるので3～4ヶ月、地域福祉特例給付金（県）は加算支援金の手続きが完了してから、という条件があり、加算支援金の1ヶ月後くらいになるので、（申請後）4～5ヶ月後と思われる。

**環境建設課：**

住まい再建の珠洲市の事業については、工事が完了してから振込の形になる。

**参加者：**

直小学校の緞帳が破れていてひどい。これこそ市の義援金等で直せないのか。

**市長：**

子供たちが明るい気持ちになれるよう教育委員会と協議する。義援金は被災者に配分するが支援金や見舞金は珠洲市の復旧に充てていく。義援金は配分額を決めて振り込みしているが、8億円集まった時点で14億円を配分するという計画を立てた。残りの6億円は、ふるさと納税や支援金で補うしかないと思いながら、かなり多めに義援金の配分を決めたが、ようやく14億円に追いついてきたところもある。こちらもご理解いただきたい。

**参加者：**

災害公営住宅の家賃の目安は年間所得額によるとあるが、保有資産や預貯金は関係ないのか。高齢者で保有資産が多いが収入が低い場合は家賃が低く、若者で所得があって保有資産がない場合は家賃が高くなるのか。

**建設技術研究所：**

国で定められた算定方法であり、おっしゃる通りだ。

**参加者：**

市議会を傍聴した。災害公営住宅については理解した。まちづくりについて、直地区全体で考えるのは範囲が広すぎるのではないかと。参加メンバーは、もう少し広げた方が良いのではないかと、という点を区長に聞きたい。あと学校の仮設グラウンドは大事。私が住む仮設住宅のために、グラウンドが無くなり心苦しい。仮設グラウンドの計画は理解できたが、それで良いのか疑問が残る。子供の発達や運動に関わることなので、早く仮設グラウンドを作ってほしい。

**樋爪区長会長：**

今後どのような直地区にしていくかについては、これからだと思っている。先日、若い人たちに集まってもらった。今後は女性に入ってもらい、町会単位で話し合うなどを考えていきたい。何が大事か、どうしていききたいかを皆さんの意見を聞きながら対応していきたい。

**市長：**

早く再建したいという方もいらっしゃるのですが、どこの道を広げた方が良いかなど、ちぐはぐにならないように進めていきたいという思いがある。コミュニティ単位で集まってもらいたいが、集まりにくいという問題もある。進め方は地区ごとに相談して決めて欲しい。蛸島地区は区長も集まるのが難しいという問題もあったが、解体ペースが早く、3分の2が完了している。直地区は直地区のやり方で良いので、継続して進めて欲しい。

**参加者：**

災害公営住宅の候補地が要望として5箇所示されている。液状化、津波、洪水にしっかり対応してもらいたい。

**市長：**

地盤全体が隆起したこともあり、石川県で河川の氾濫に関するハザードマップの見直しを進めることとなった。河川については、しっかりと復旧する。海岸堤防も国の直轄工事でしっかりと復旧してもらえることになっている。災害公営住宅の候補地は挙げてもらっているが、もう少し工夫ができるようにも思える。行政としては、まとめて建ててもらった方が効率は良いが、それぞれの町のコミュニティにおいて、どうなのかと思うところもあるだろう。100%対応できる訳ではないが、効率性ばかりではなく、皆さんと煮詰めていきたい。

**参加者：**

町内に20年以上の空き家があり、持ち主も解らない。行政が追跡して解体に持っていけないか。見栄えもあるし、どうにかしてほしい。

**市長：**

所有者不明ということで、手続きを進めることはできる。これだけ大きな被害を受けたので、復興に関しては「災い転じて」になったら良いと思っている。

**環境建設課：**

具体的な場所を把握し、道路にかかって危ないなどの問題があれば、所有者不明管理制度を使って公費解体するか検討したい。

**参加者：**

ベルメゾンへの出入り口は一本道で抜け道がなく、震災前から渋滞していた。もう一本道がないと何かあった時に逃げられない。波が入って土嚢が積まれているところは、国の管轄工事と言われたが連携はうまくいかないものか。

**市長：**

国の管轄工事であっても情報共有を怠らないよう国と連携して進めていく。ベルメゾンが被災しているので、外構を含めて復旧を進めていく。出入り口をもう一本、となった時に新たに用地の取得が必要なのか、工夫すれば、もう一本道を作れるのか、見直しについても検討していきたい。

**参加者：**

土地を手放したい方の土地を取得して、災害公営住宅を建設するという話だったが、手放す方に代替え地を斡旋することは出来ないのか。

**市長：**

理想としてはそういうふうに進められたら良いが、現実的には難しい。必ずしも無償譲渡される土地だけに災害公営住宅を建てる訳ではない。無償譲渡された土地だけだと、「まちのかたち」が歪になるのではないかという恐れもある。どうやったら早く進められるのか、色々な手法があるので考えながら進めていきたい。

**建設技術研究所：**

東日本大震災でも色々な事業手法がたくさんあった。まずは、どういった「まちのかたち」を望むのかを明確にして、個々の事象に応じて最適な手法を示したい。

**市長：**

手放したい土地と交換したい土地の取次に対して、行政が間に入ることはできない。

**建設技術研究所：**

手っ取り早いのは、対象の所有者同士で話し合ってもらうのが一番早いですが、相手が同意しないと入れ替えることができない。何が有利かは、個々の事象を見ていくしかない。

**市長：**

うまくマッチングしていくのが一番良いが、行政が入らなくても進められる方法を考えていく。

**参加者：**

ダンプカーが多く行き来している農免道路沿いの仮設住宅に居る。道路の痛みが急激に進むようになったので対応願いたい。また国会で能登の復興に対して、補正予算がついたというニュースを聞いた。それに対して補助金が出るとか、助成されるとか決まったら SNS を使って発表してほしい。

**市長：**

国の方で補正予算はついたが、これまでも予備費で対応していただいている。さらに補正予算ということだが、お一人お一人に届くような予算としては見えていない。予備費の 5,000 億円のうち、1,000 億円を能登に充てるとのことだったので、できるだけ珠洲の復興に活用していきたい。おっしゃられた正院のラインセンター前の道路を行ったり来たりしている解体業者のトラックは 2,000 台/日となっている。雪に慣れない解体業者の労災も心配している。鉢ヶ崎の仮置き場も満杯になっており搬出が必要。1～2月 は少し解体のペースを落として、道路の補修なども考えたい。珠洲市全体でも解体申請に対し

て50%の解体は完了しており、1～2月はペースを落としても、4月以降にペースを戻せば10月には100%終わられる見込み。解体の申請はできるだけ年内にしてほしいが、3月末までは受け付けている。

**参加者：**

縁切りして解体したが、残った部分が大きく傾いているので追加で解体したい（公費解体は完了している）。再度、解体申請できるのか。縁切りすると補助金も少なくなるし、支援金が減る（半壊扱い）ことも知らずに進めてしまった。

**環境建設課：**

半壊解体で一部（縁切りして）残してしまうと（支援金は）全壊扱いにならない。公費解体した後に、追加で申請となると制度的には非常に難しい。

**福祉課：**

被災者支援部会の方で個別に対応させていただく。

**市長：**

色々なボランティアの方が来られているので、アドバイスもできると思う。気が変わって、後から全部壊すとすると制度的には難しい。

**参加者：**

珠洲市のシンボルである見附島を見ると何とも言えない気持ちになる。なんとか修復できないのか。

**市長：**

自分としてもどうしたものかと同じ気持ちである。震災遺構にはなるかもしれないが、今の状態で絵になるのか。修復することができるかと考えると、莫大な金額を要するので難しい。隆起した海岸については、震災遺構として残したらどうだという話もある。色々な方向で考えていきたい。

**参加者：**

農協の前、病院周りの消雪について聞きたい。現在、ため池にクラックが入りブルーシートで養生している。先日の豪雨のようなものがあると危ないが、改修の予定はあるのか。

**珠洲市土地改良区：**

亀ヶ谷の池は堤体にクラックが入っている。防災重点ため池として石川県で対応している。使う時は低水位をお願いしているが、現在測量中で設計を進めているところ。災害査定も終わったので、順次復旧工事を進める。今しばらく低水位をお願いしたい。

**市長：**

消雪装置は、この冬の稼働は難しい。消雪装置だけ早く復旧しても道路の復旧と合わせると二度手間となる。一緒に直せるのが一番良い。今は応急復旧で何とかなっているが、優先度の議論も含めてやっていきたい。

**参加者：**

津波の浸水想定について、どのように考えておけば良いのか知りたい。

**市長：**

専門家ではないので断言はできないが、公表している津波のハザードマップの想定津波高について、非現実的だと言われる専門家もいる。どれぐらいが現実的かお聞きしたところ、能登半島沖の断層がずれた場合でも4～5mの津波と言われた。専門家でも予想は難しいと思う。1月の震災でも3か所の断層がずれて、これ以上にまた活断層がずれるのかお聞きすると、数千年に一度の出来事と言われる。県の方でハザードマップの見直しを行うので、それに合わせて市としても対策を講じる。災害公営住宅についても津波の想定があるところは1階部分を駐車場にして、住居は2階からと考えていきたい。

**参加者：**

通学路のカーブミラーが傾いており、見えないので危ない。

**環境建設課：**

場所が確認できたので、一旦基礎からの工事が必要になるが早急に対応する。

**市長：**

まだまだ復旧も不十分で申し訳ないが、できるだけ対応はしていく。

以上

## 令和6年度 第3回珠洲市復興計画策定に係る意見交換会 協議記録

日 時	2024年12月14日(土) 18:00~20:00
場 所	三崎中学校 体育館

参加者:44名

マスコミ:1社程度

泉谷市長

区長会長 辻 一(寺家川上本町区長)

市役所担当

総 務 課 女田室長

環 境 建 設 課 大宮課長、川角課長補佐、新係長、高橋主幹、樋口主任技師、檜原主任技師

福 祉 課 三上所長

復旧・復興本部 濱野局長、西次長、河原係長

計画情報研究所 米田

建設技術研究所 伊藤

### 【開会のあいさつ】

辻区長会長：

意見交換会が始まった時は暑くて、暑くてどうしたものかと思っていたが、今は寒くて、寒くてと時間の経過を感じる。それでもこの場に集まってきてくれたのは自分の住んでいる三崎を良くしようと思っているからこそだと思う。寒さを吹き飛ばせるような意見を出して、三崎の良い方向を見つけていきましょう。

市長：

震災から間もなく1年となるが、9月の豪雨災害で被害が拡大しており、厳しい状況が続いている。復興計画については皆さんから頂いた多くの意見を反映して修正を加えている。実現が不可能な事業に関しては見直しを行なった。こちらは半分固まってきたと思うが、また皆さんの意見を聞きたいと思う。一番大事なのは「新たなまちのかたち」をどうしていくかだ。今回の意見交換会は、豪雨災害の影響により後ろ倒しになったが、その間にまちづくりの議論も進んだのではないかと思う。後ほどまた説明するが、それぞれ「新たなまちのかたち」を落とし込んだが、今日初めて見る方もいらっしゃると思う。今日の意見交換会でさらに意見交換を進めていきたい。公費解体も珠洲市全体でほぼ半分の3,600棟ほど解体が進んだ。三崎地区は56%まで完了している。更地も増えてこれからどうしていくかという想いも強くなっていると思う。住宅再建に向けて珠洲市として新たな制度を作った。800万円以上の新築、あるいは大規模修繕については1割補助。新築は上限200万円、大規模修繕は100万円、子育て世帯は15%の補助があるので活用してほしい。復興計画は年度内に定めたいが、地区別の「まちのかたち」はもう少し時間がかかっても良いと考えている。土地のやり取りなど具体的な話も出てくるだろう。行政とキャッチボールをしながら進めていけたらと思う。

## 【復興計画案の説明】

復旧・復興本部：

策定委員会や意見交換会等でいただいた意見をできるだけ反映させる形でとりまとめを進めている。この計画は、今後、珠洲市が進める総合的な施策を整理している。復興方針図に基づき、優先順位をつけながら各地区のまちづくりを進めていく。

<資料に基づいて復興計画案の施策内容を説明>

<三崎地区の復興まちづくり内容を説明（計画情報研究所）>

<年明けからの意向調査ご協力をお願い（計画情報研究所）>

<住まいの再建と災害公営住宅について説明（環境建設課）>

## 【参加者からの意見】

参加者：

災害公営住宅の話が出たが、分譲する土地について考えてはいないのか。

市長：

皆さんの方からここを造成して宅地として分譲してくれないかと具体的な話があればできるだけ対応したいと考えている。どれだけの予算がかかるのか、国の補助制度があるのか、そういうことを検討しながらできるだけ対応していきたい。その際に分譲単価について、今話すことはできない。

参加者：

持ち出すお金がどうしてもかかるので、分譲（無償）してもらえると助かる。

建設技術研究所：

東日本の事例では、津波で被災した方の移転先として分譲する例はあるが、それ以外だと分譲宅地を整備して、移転されたい方へ分譲するというのは行政として対応することはなかった。無償ではなく、評価額などをベースに分譲価格を決めていくこととなる。行政の土地と等価交換するという事例もない。ただし、民間分譲地や民間同士の等価交換はあったと思う。

参加者：

津波が怖い。

市長：

災害公営住宅を整備するにあたって、1階は駐車場にして、2階から住宅にするなどの対策で津波をかわせるか、そういうことも含めて考えていきたい。色々な選択肢があった方が良い。空き家だったところを解体して、持ち主の方が執着しなければ、そこを活用するなど、色々できればと思う。

参加者：

珠洲市復興計画について「災害に強いまちづくり」で支援物資の受け入れが記されていないと思う。登山家の野口健さんから飲料水を支援するというお話に対し、自衛隊からの給水を理由に（珠洲市は受入を）断ったと聞いている。1家庭20リットルの給水では、子どもがいる家庭では足りずに困った。また、子育て世帯への更なる充実と言うが、支援金や補助金について記載がない。若い世代へ手助けしない地域は、高齢化が進んで廃れていく。連日疲れていると思うが、この場であくびをしている職員がいるということは、どういうことだ。

**市長：**

野口さんからの支援の話は初めて聞いた。こちらでは承知していない。発災直後に寝袋の話もあったが、情報が錯綜していた。結果的には配ることができたが、飲料水の件も、どこかで行き違いがあったのかもしれない。断水の対応として、色々進めてきたが不十分なこともあったと思うので、今後対応していきたいと思う。また、子育て支援については、現在、保育園における給食費、保育料は減免している。学校給食費も免除している。できるだけ子育て世帯への経済的な支援をこれからも継続していきたいと考えている。

**参加者：**

解体も進み、行政の苦労は理解する。寺家にある畑で気分転換しているが、解体が進むと灯りが無くなる。海岸沿いが真っ暗になって、残った家も少なくなり、灯りが少なくなった。子どもが帰る時間に不安もあるだろうし、イノシシやシカも出てきている。できるだけ外灯を増やして欲しい。これから雪が降るとのことなので、除雪はしっかりして欲しい。災害公営住宅に関しては、説明を聞いて良いイメージを持つことができた。現在は、一人用の仮設住宅に入っているが、狭くて、キッチンでは、まな板を広げることもできない。災害公営住宅はゆったりと暮らせるものにしていただきたい。

**市長：**

解体が進むと暗くなり寂しい感じとなる。家々の灯りが減ると暗く感じる。道路の交通量に応じて外灯を設置するので、四角四面に比べると（設置は）難しい。しかし、気持ちは分かる。灯りが点くと、希望にもつながると思う。発災直後から全国各地から駆け付けた警察官が倒壊家屋からの窃盗事件が起きないようにパトロールしてくれていた。防犯という観点から考えていきたい。災害公営住宅の間取りが説明資料と異なることの無いようにしていきたい。

**福祉課：**

応急仮設住宅に入って、キッチンが狭くて料理ができない、今までできていたのにやる気が無くなったという話を聞いている。健康増進センターでは仮設住宅に入っている方にアンケートをとって各地域でクッキングを行なっている。狭い台所で料理がしたくなる提案をしている団体もある。狭い中でどのように工夫して作るかは大変だと思う。今日声を大切にして色々な地域に広げていきたい。

**参加者：**

珠洲神社の周辺は灯りをつけてほしい。

**参加者：**

外灯があると嬉しい。県と相談してはどうか。

**市長：**

県に頼む場合は、交通量見合いとなるので防犯の面から考えていきたい。地域の皆さんと連携していきたい。地震の前から防犯上、ここにつけてほしいなどの話はあった。これまでも町内の皆さんと連携していたと思う。

**参加者：**

個人的な事だが、新築する予定にしている。息子世帯が建てるのか、2世帯住宅にするか考えている。それまでの期間、納屋を改修して住む予定にしている。住むにしても水回りを作らないといけない。補助はどれくらいでなのか。

**市長：**

住まい再建の補助制度がある。小規模修繕の補助制度もある。納屋と新築と別々に、となると難しい。重複で補助が活用できない場合は、新築の方で補助が使われた方が良い。

**総務課：**

納屋の方に仮で住みたいとのことだが、被災者生活再建支援金に基礎支援金と加算支援金がある。家が被災してダメになったから、代替りの納屋や倉庫を改修する場合にも使えるが1回しか使えない。どちらか1回で使える。新築で200万円もらう方が有利となる。

**市長：**

申し訳ないが、色々作戦を練って対応してほしい。

**参加者：**

住まいの再建について、坪単価が80万円とあるが、いつの単価か。

**市長：**

直近のものとしているが、昨今ものすごい勢いで上がっていて100~120万円/坪という話も聞く。最高で180万円/坪という話もある。資材の高騰と人件費、そして穴水までは良いが珠洲になると遠隔地になるので職人の滞在費もかかるという話も聞く。行ったり来たりの交通費もあり、金沢では2,000万円のところ、珠洲で建てると2,300万円という話も聞く。住まいの再建として制度はあるが、80万円/坪で家は建たないだろうと思う。(80万円/坪は)奥能登2市2町の今年度の単価となるが、去年の数値ではと思う。理不尽だと思う。全国的に上がっている上に、離れているので割高となってしまう。今年度の数値として挙げているが、実態と合わない部分もある。120万円/坪で計算すると5割増しになる。借入も5割増になったら再建の計画が変わるところもある。

**参加者：**

工務店も見積りをはっきり出せないようで、再建に時間がかかってしまう。

**市長：**

石川県にも、もう少し抑えた価格で動いてくれるところがないか要望しているところだ。もう少し抑

えた価格で家を建ててくれる業者を揃えてもらえないか要望していく。どんどん上がってくるとどうしようもない。地元の工務店も2～3年は修繕で手一杯で、新築まで手が回らないようだ。ハウスメーカーだと景観が変わってくる。かといって条件を満たす家じゃないと補助金が出ないということもよくない。悩ましいところである。県とか国で動いてもらえないところがないか確認する。着工まで2年待つとか時間がかかるところはあると思う。自分も何かできないものか考えていきたい。

**参加者：**

私の家の横で地滑りがあり、作業小屋が潰れた。地滑りに対しては行政の方でやってもらえるのか、それともそのまま放置なのか。

**市長：**

誰にも影響のない山の奥ならそのまま（放置）の場合もある。

**環境建設課：**

作業小屋は解体の方向で申請するとのことで、その時に土砂も撤去する。恒久的な対応となると別になる。

**参加者：**

三者面談の時に、（現在の場所で）家は建てられないと言われた。

**環境建設課：**

土砂災害特別警戒区域ということならば移転していただくか、（コンクリート）壁を作るなど土砂災害に対応できる構造にしないと原則家は建てられない。土砂災害特別区域から移転したい場合、あるいは住み続けるのでコンクリートの壁を作る場合は補助を受けられるので相談に来て欲しい。

**参加者：**

道路を重点的に直すと復興計画にある。お祭りのことも書いてある。県道になるがいつ直るのか。

**市長：**

祭りの時期までに応急復旧が現実的か。

**参加者：**

他地区と違いキリコが大きい。今年は我慢したが、来年は祭りをしたい。

**市長：**

国道249号の大谷道路と沿岸部については、国による権限代行が決まっており、どんどん進めると思う。県道と市道については年内に査定が終わりそうで、査定が終わってから復旧工事になるので、早くて年明けからだと思う。石川県の方は分からないところがあるが、3年で工事を終えるスケジュールが求められる。しかし、3年で全て終わるのは難しいところもあり、3～5年かかると思う。現時点で、来年の祭りに間に合うとは約束できないが、できるだけ急いでやってもらえるよう石川県と連携していきたい。応急的に直せばなんとかできるのであれば、対応していきたい。

**参加者：**

応急的という話が出たが、この地震で道路が全体的に沈下したように思う。波返しが邪魔して道路排水が悪くなった。

**市長：**

応急的な対応となるが対応していきたい。具体的な場所を教えてください。

**参加者：**

高齢の方で足がなくて物資等を受け取りに来られない人がいる。豪雨の時も給水所に行けなかったので、今後、災害のあった場合は、巡回訪問するようなことを位置づけて欲しい。若い人たちがこれからまちを作っていくように、若手支援をお願いしたい。珠洲に来たいという人も結構いると聞くが、移住者用の住宅が足りない。以前から言っているスタートアップの支援も含め、若手のサポートをお願いしたい。

**市長：**

移住者も住んでいた住宅が倒壊して住めなくなってしまった。仮設住宅に入って頑張っている方もいるが、色々ややこしい問題があると聞いている。現在、珠洲市に移住してきた方の住宅の確保が非常に難しくなっている。仮設住宅を移住者に提供することも県や国に相談しているが、中々道が見つからない。現状では、はっきりこうすると言えず、難しいところだが今後対応していきたい。若手のサポートも課題になっており、考えていきたい。スタートアップの支援が具体的にどういうもので、どういう成果が出るのか、なかなか掴めないところがある。良いアイデアがあったら教えて欲しい。給水サポートも翌日からペットボトルの水を持って回ったが、行き渡らなかったところもあったかもしれない。9月の豪雨の後、断水したと思うが、できるだけのことをしても中々手が回らなかった。防災体制の見直しを考えていく必要もあるし、分散型の上下水道など、新しい技術もあるので取り入れられるものは取り入れていきたい。

**参加者：**

何かあったら言ってくださいとのことだが、相談先を教えてください。

**市長：**

市役所4階に復旧・復興本部があるので気軽に来ていただきたい。スタートアップや移住定住などは同じ4階の企画財政課でも良い。

**参加者：**

基本方針3のスマート農業の導入について、補助金などあるのか。

**市長：**

これから検討していくこととなる。ドローン一つの導入でもかなりのお金がかかる。震災前から県の方に話をしていた。県の対応もさることながら、市としても考えていきたい。具体的にやりたいことがあれば言っていただきたい。復旧・復興本部、または2階の産業振興課に言っていただきたい。

**参加者：**

水産業に携わる人に対して、ソナーなどに対する補助金はないのか。

**市長：**

魚探は皆さんつけていると思うので、それ以外の部分で考えていきたい。良い制度を設けられたらいいと思う。となると農地も漁港もやられているから、まずは復旧を急がないといけない。

**参加者：**

水戸からボランティアで来ている。若い人が色々やりたがっているがうまくいっていないように思う。行政としてできることは限られているので、ストレートに言ってもらった方が良いのかなと思う。県が対応する海岸堤防の高さは決まっている、早く整備してはどうか。安全性はどうなのか。安全性もしっかりと伝える必要があるのではないかと。

**市長：**

石川県の考え方は防潮堤ではなく、これまで通りの高さで復旧するという。各地区、前と一緒な高さで良いのかということもある。宝立から正院までは国の直轄、それ以外は県になる。その辺りも早くしてもらうことで安心感につながる。

**参加者：**

三崎地区は低いと聞いている。早く計画高に整備すべきだ。

**市長：**

珠洲市の海岸線だけで 64km くらいあるので、一気に整備するという事は難しいと思うが、進めてもらうようにする。珠洲の若い方々が何かやろうとした時に、こういう方法があるよとアドバイスやサポートをいただけることはありがたいと思う。そういう意見を取り入れていけるようにしたい。

**参加者：**

道路の復旧について、復旧したところが再度痛んでいる。考えるに舗装の下に空洞があるのではないかと。

**市長：**

そういう危ないところは表面を直しても再度陥没してしまう。県道、市道について空洞調査を終え、現在解析中。問題があったところは対応していく。特に、ここがひどいなどあれば具体的にまた教えて欲しい。

**参加者：**

災害公営住宅に関心がある。解体が進み、不在地主から土地の提供について内諾をもらっている。そこに戸建ての災害公営住宅を建ててもらいたい。土地は、市に安く買い上げてもらえれば良いとのこと。

**市長：**

馬縹地区でも地元で独自に意向調査を行い、(災害公営住宅建設候補地の) 段取りまでしていただいている。現在、詳細設計に入る前の基本計画策定に着手しており、できるだけ早く着工したいと思っている。地元で用地選定を進めてもらえれば、早く進められる。地区別復興まちづくり計画に反映してもらえるとありがたい。地元での話し合いを進めてもらえると、こちらもやりやすい。全ての要望が可能かどうかキャッチボールをしながら進めていきたい。

**市長：**

三崎地区は4ブロックに分けて議論しているが、進め方や今後について何かないか。

**辻区長会長：**

マップを示してもらっているが、もう少し地域を狭めて、小さい範囲で検討を進めてもらった方が良いと思う。事情が全然違うので、違った人と話しても同じ方向を見られない。

**市長：**

今後のやり方をどうするかというのはある。具体的に道幅のことや災害公営住宅をどこに建てる、また、地域の中で土地をやり取りするとなると、もう少し狭い範囲で議論する必要も出てくる。そういう議論をどういうふうに進めるかとなると中々難しい。色々なやり方はあると思う。

**計画情報研究所：**

現在 24 地区に分けているが、必要に応じて細かく調整していくことになると思う。相談しながら進めていきたい。

以上

## 令和6年度 第3回珠洲市復興計画策定に係る意見交換会 協議記録

日 時	2024年12月15日（日） 18:00～20:50
場 所	日置公民館

参加者:20名

マスコミ:2社程度

泉谷市長

区長会長 糸矢 敏夫（狼煙町第1区長）

市役所担当

総 務 課 古矢主幹

環 境 建 設 課 大宮課長、川角課長補佐、樋口主任技師、和田主任技師、高濱主幹

福 祉 課 三上所長

復旧・復興本部 濱野局長、西次長、河原係長

計画情報研究所 米田、喜多

建設技術研究所 伊藤

### 【開会のあいさつ】

糸矢区長会長：

この意見交換会はこれで最後となる。色々な思い、疑問、要望があると思う。直接話をする機会は最後になるので、忌憚のない意見を出して欲しい。3回目は11月開催の予定だったが、豪雨があって少し伸びた。日置地区も豪雨により1か月くらい水道が止まった。今は少し落ち着いてきたような状況。10～12月にかけて、地区ごとにまちづくり協議会を開催し、勉強しているところ。狼煙でいうと更地がだいぶ広がってきている。住民の方も住宅を再建するか、公営住宅に入るか、そろそろ住まいを考える時期になってきている。狼煙ではお宮が壊れ、キリコ、神輿、それらを入れる倉庫も壊れている。どうやってまちづくりしていくか、そういうことも含めて考えていかなければならない。やることばかりだと思う。港は浚渫が進み、来年春から使えると聞いている。豪雨後に土地改良区や北陸農政局の方々と田んぼの被害を見て回った。前川の奥の方まで土砂崩れにより川が曲がり、田んぼが川になっている状況だ。来年の田んぼの耕作に向けて、漁業や林業、農林水産業の生業もやっていかないと、人が帰って来ようにも仕事が無ければ帰って来られない。考えなければならぬことがたくさんあるが、意見を言っていただければと思う。

市長：

まだまだ厳しい状況が続いている中、各地区での意見交換会はこれで3巡目となる。発災から間もなく1年となる。豪雨災害により被害が広がった。折戸浄水場も被災して、再び断水することになり、不便な思いをさせた。復興計画は皆さんからいただいたご意見を反映させながら見直しを行った。実現性を踏まえて見直しをしている。大体煮詰まってきたのかなと思う。「新たなまちのかたち」も議論していただいている。本日お示しするが、初めて見る方もいらっしゃると思う。こうした方が良いのではないかなど活発な意見をいただきたい。自力再建に向け、珠洲市住まい再建支援金制度を設けた。公費解

体は日置地区で3分の1程度完了した。更地が広がると、これからどうしようという考えが生まれてくると思う。意向調査を進めながら議論を重ねていきたいと思っている。意見交換会は最後だが、「まちのかたち」については、これからも継続して議論を重ねて欲しい。道路の拡幅や災害公営住宅の配置について具体化していきたい。今までより快適な町になるようにしていきたい。行政としても皆さんとキャッチボールをしながら煮詰めていきたい。

### 【復興計画案の説明】

#### 復旧・復興本部：

策定委員会や意見交換会等でいただいた意見をできるだけ反映させる形でとりまとめを進めている。この計画は、今後、珠洲市が進める総合的な施策を整理している。復興方針図に基づき、優先順位をつけながら各地区のまちづくりを進めていく。早いものは今年度から進めていく。来年1月にはパブリックコメントを実施して、皆さんのご意見をいただきたい。年度内には復興方針図をある程度固め、復興計画の資料編として公表していきたい。ただ、その後も復興方針図については、引き続き議論を進めていきたい。

<資料に基づいて復興計画案の施策内容を説明>

<日置地区の復興まちづくり内容を説明（計画情報研究所）>

<年明けからの意向調査ご協力をお願い（計画情報研究所）>

<住まいの再建と災害公営住宅について説明（環境建設課）>

### 【参加者からの意見】

#### 参加者：

公費解体が1～2月の間止まると聞いている。公費解体のトラックにより道路の中央線と側線が消えていて危ない。1～2月の間に引き直しができると思うが、状況を教えてほしい。

#### 市長：

先日、健康増進センター前で解体業者のトラックによる事故があった。これから雪が降る。沖縄から来ている業者もいる。業者も雪により作業がストップになることについて懸念をもっている。鉢ヶ崎の仮置き場も満杯になっている。珠洲道路ではトラックが1,600台/日走っており、かなり傷んでいるため、応急対応しなければならない。今のところ、申請のあった半分は解体が終わっている。他の自治体と比べても早いペースで公費解体が進んでいる。よって1～2月はペースを落とすことで調整する。震災前からセンターラインや路側線が消えているところがあった。上下水道、道路の復旧と優先順位をつけながら進めていく。その上で白線も、となるとかなり時間がかかると思う。しかし、交通量が多くて危険な箇所には対策が必要で、ガードレールが無い所もあるので安全対策は優先して進めていきたい。この冬が非常に心配だ。内浦側と外浦側を結ぶ道路をどう安全対策していくかが大きな課題だ。大谷道路については、一部迂回しながらとなるが、凍結しないよう溝切りの工事をしてくれた。まだ心配なところがあれば言っていただきたい。全てのセンターラインを引き直すのは難しいと思う。

**参加者：**

全て消えている所もある。10mおきなどでも良いので、引き直して欲しい。飯田から宝立の区間が特に見えない。端を走ると落ちる心配がある。

**環境建設課：**

珠洲道路になると思うが、側線を引く場合、上下線で必要となるためセンターライン1本になるかもしれない。石川県と調整したい。

**市長：**

10mおきでも線を引く時の手間（作業量）は変わらないので難しい。里山海道も同じ状態だ。これから雪も降り、走りにくくなると思う。夜は出来るだけ走らないことも大事だ。

**参加者：**

復興計画について、書いてあるようになってきたら良いと思う。短期的なものは2年間、長期的なものは6年間とあるが、本当にできる見通しがあるのか。珠洲市の予算、財政状態で大丈夫なのか。マンパワーも十分なのか。見通しを聞きたい。

**市長：**

復興計画に実現が難しいものは入れていない。自分の感覚では出来ると思っている。予算とマンパワーには心配はある。予算については簡単な話ではなく、石川県の復興基金などを活用しながら対応していきたい。マンパワーが一番の問題。特に復旧の部分。現在、85名ほど応援職員として珠洲市役所に来てもらっている。年内に災害査定を終わらせるところまできている。いざ本復旧に向けて発注しても、落札するか難しいところもある。

**環境建設課：**

通常であれば3年以内に原形復旧。大規模災害の場合は5年を超えることもある。発注の量についてもさることながら、元に戻す復旧工事と同時に、元に戻す以上の工事も含まれるので3年以上かかるという見通しだ。

**市長：**

農地、農業用施設の復旧は来春の作付けに間に合わせる必要がある。死活問題でもあるため、優先的に復旧していきたい。「まちのかたち」についても、皆さんで詰めていただき、本復旧と合わせて、まちづくりを進めていければなお良い。日置地区では3つに分かれて議論していると思うが、もう少し範囲を狭めても良いと思う。土地のやり取りを行政が全部するのは難しいので、意向調査の結果を踏まえながら、具体的に進めていけたらと思っている。

**参加者：**

みんなの家とは何か。

**市長：**

日本財団がお金を出して、世界的に有名な建築家が被災地支援として設計し建てられる建築物。運営は地元で行うことになる。最初の2年間は運営費について財団からの支援はあるが、3年目からは自分たちで採算が合うように運営していく。みんなが集って交流できるイメージ。設計にもよるが、入浴施設を配置することもできる。

**糸矢区長会長：**

東日本大震災や熊本地震でも作られた、みんなが集まれる集会所、交流施設である。今回も作りたいという話が来て、日本財団がスポンサーで作ることになった。例えば、居酒屋などの営利事業は、県としてはできないと聞いている。営利事業を実施した場合は、不動産取得税がかかるようだ。例えば、子ども食堂のような非営利のものは、不動産取得税を支払うことなく運営が出来るようである。金をどうやって持ってくるか考えないといけない。狼煙、蛸島（鉢ヶ崎）、飯田、大谷の4地区が計画中で、狼煙は申請が通ったが施工業者が決まらないという状況。

**参加者：**

営利目的で使ってはいけないという話を聞いて興味を失った。みんなの家プロジェクトの対象地はどのように選出されたのか。

**糸矢区長会長：**

頭を使って、使い方はみんな考えていきたい。

**市長：**

選んだのはみんなの家プロジェクト側であるため、行政としては何ら関与していない。行政の予算も通らない。ただ土地をどうするかなどの支援は今後もしていきたい。

**参加者：**

折戸は11月1日時点で、在宅が21戸（44人）いる。仮設住宅には24戸で43人、市外には15戸で27人。20%強は戻らないのではないかと。折戸の浄水場は川から1kmくらい離れているはずで、1月の地震で650mを仮配管で復旧。9月の豪雨でその仮配管が土砂崩れで壊れた。木ノ浦浄水場から狼煙までの区間は既に耐震化になっているので、上水道の耐震化は復旧・復興に限らず是非進めて欲しい。また、仮設住宅（日置ハウス側）に上がる3本の道路は勾配が急なので、そのうち1本だけでも良いから改良して幅を広くして欲しい。

**市長：**

道路については復旧と合わせて、勾配を緩くできるかどうか取り組んでいきたい。上水道の耐震化は地震を機に、国も施策メニューで耐震化の促進を準備しているようである。これまで上水道管は、厚生労働省の管轄だったが、4月から国土交通省になった。珠洲市の震災においては、1月から前倒して国土交通省から支援してもらっている。私も今回知ったが、下水道の予算は多いが、上水道の予算は少ない。復旧に向けた国の支援制度も渋い。上水道についても、珠洲市の負担を少なくしながら耐震化を進めていきたい。国の方にも働きかけていく。在宅、仮設住宅、市外に出られた方がいる中で、折戸の災害公営住宅の建設地について、県道沿いのJAの所はいかがかという話もあるので議論していただきたい。橋のところでクランクしている道路についても、しっかり取り組んでいきたい。

**参加者：**

川浦集落の入り口の道路が土砂でドロドロだ。土も堆積している。みんなで片付けた。土砂をどうにかしてほしい。自分たちでするから重機を貸して欲しいと言ったら、貸し出せる重機も無いと言われた。あと、川浦から上がるところは道路に穴があいていて20cmくらい下がっている。

**環境建設課：**

明日、現場確認して早急に対応する。

**参加者：**

お宮も被害を受け、キリコなども傷んでしまった。コミュニティ再建支援のお金を使って、何とか修繕だけでもしたいと考えている。解体してしまうと全てを失う。役所に行って申請書類をもらった。書類に保険が下りれば、その分を差し引くと書いてあった。下りた保険金はコミュニティ支援の対象にならないものに使おうと考えていた。

**市長：**

政教分離の話もあり、お宮さんの再建は難しい話がある。聞けば聞くほど対象範囲が狭まるようだ。熊本の地震に習って、石川県の復興基金のメニューにも上がっているが、実際どうなのかなというところもある。お宮さんの再建は地域としても何とかしたいだろう。皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

**復旧・復興本部：**

地域の皆さんからの話を受けて、対象となるかどうか、市から県に相談することとなる。総務課が窓口なので、地域の考えを総務課にお伝えいただき、県と調整していくことになる。

**市長：**

採択になるよう支援していきたい。下りた保険を別のところに使いたいという気持ちも分かるが、まずは4分の3補助の採択になるのか、簡単ではないので作戦会議しながらやっていくしかない。地域の伝統と集落の拠り所であることを申請書で伝えなければならない。

**参加者：**

公費解体が進んでいる。横山の中心的なところがまとまって無くなっていく。更地になると雑草が生え荒れ地になっていく。今後の管理をどうしていくか、これからの課題だと思う。

**市長：**

難しい問題だ。横山も大変だろうが、宝立町の春日野、蛸島の浜側のひどい所などは、1/10程度しか建物が残らないのではないかと危惧している。基本的に草刈りなど土地の管理は、土地の所有者が対応すべきこと。しかし、市外に出てしまえば管理できないこともある。町内で草刈りといってもマンパワーの問題があり、行政の対応も難しい。一番良いのは、「新たなまちのかたち」でそのような土地のやり取りも含めて利用方法を話し合えるのが良い。災害公営住宅の建設地とするか、地域の皆さんで何か活用するのか、まずは地域で話し合ってもらいたい。

**糸矢区長会長：**

狼煙は1月11日に地域の方々を集めて、細かい話をする。そこで、理解を求め、何か良い方向性が出たらと思っている。

**市長：**

川浦は上から見ると家は大丈夫そうに見えるが、よくよく見ると厳しいか。

**参加者：**

川浦に空き家がないかと思に見に来る人が多い。移住者向けの災害公営住宅を建てて欲しいと思っている。土地を提供するという人もいる。

**市長：**

移住者向けには整備できない。復興を支援する人向けの住宅整備などの支援制度は国の政策には無い。難しいが何か良い方法がないか、風穴を作らないといけないと思っている。

**参加者：**

川浦の神社の鳥居も傾いている。業者には、処分場所が決まれば、安く対応すると言われている。

**環境建設課：**

公費解体ではないが、生活安全上の理由から行政で撤去できるが時間はかかる。昨年5月の地震の際にもやっている。

**市長：**

相談してほしい。明日道路も見に行くので確認する。

**参加者：**

転入・転出の状況はどのようなものか。10年後の財政のことを考えると不安になる。

**市長：**

復旧に際して、国の災害復旧に係る補助金を活用して、最新のインフラにすれば、後々のメンテナンス費用を抑えられる。そう進めるための財源については、心配しているし、重要視している。復旧を進めるにあたって、何とか財源を捻出し、その後あまりお金がかからなくなるようにしたい。現在、転出が942人、転入が168人で厳しい状況だ。転出については、これまで年間200人ほどだったので、例年の5倍ほどになっている。年代別というところまで把握していないが、把握した上で対策を検討していきたい。人口の流出は防ぎたい。そのための生活再建、ライフラインの復旧が重要だ。生業の再建も大事だ。移住者向け住宅の確保も同じ。

**参加者：**

子育て世帯の移住者仲間は金沢に行っているが、将来的には珠洲に戻りたいと言っている。小さい子がいるので今は難しい。

**参加者：**

住まいの再建資料5ページの坪単価は、いつの単価なのか。補正予算が組まれると単価が更に上昇するという話もある。発災前はどうかだったのか。

**市長：**

坪単価は奥能登4市町の工事届データ（2024年4月）を用いている。ただ、色々話を聞いていると、120万円／坪という状況も聞いており、乖離があると感じている。金沢のハウスメーカーだと穴水を超えると割増しになるという話も聞いている。あまりにも行き過ぎている。補正予算が成立したからといって、住宅再建に支援が手厚くなる訳ではない。補正と価格高騰の関連は推測の世界ではないか。

**参加者：**

推測ということは理解した。ただ事実として、地元業者が少ない、見積もりもなかなか出てこない。業者がいないので外から来てもらわないといけない。旅費、交通費のこともあり、単価が上がるというロジックだと思う。発災前の坪単価まで住民負担とし、超えた分を支援できないか。国にお願いしてもらいたい。

**市長：**

自力再建を目指している方が多いが、単価がどんどん上がってくると再建も難しくなる。国にお願いして坪単価を下げてというのも難しい。お手元にある珠洲市住まい再建支援金交付事業はこうしたことを見越して、できるだけ珠洲市で再建してもらえるよう思い切った政策として打ち出した。新築を隣近所分まとめて発注し、価格交渉している地域もある。生業再建も4分の3補助だか、珠洲市は5%上乘せしているので頑張って再建していただきたい。

**参加者：**

公費解体のトラックだが、荷物を積み過ぎだ。単管を組んで、木材を積み上げているのは良くない。改善してもらえるように働きかけてほしい。

**市長：**

過積載までは無いと思うが養生が良くない。これまでずっと言っているが、中々改善されない。そういうところも含め、1～2月のペースダウンしている時にしっかりと調整したい。

**参加者：**

自宅を解体している。解体工事の車両は、東山中ルート（県道52号線）を通ってはいけないと聞いているが、通っている業者はたくさんいる。通っている車両は市役所や警察に通報して良いのか。

**環境建設課：**

折戸・飯田線の通行について、市の方で制限していることはない。日常生活の方で危ないなどあれば（通行制限を）検討するので言って欲しい。

**市長：**

業者間の取り決めがあるのかも知れないが、公には大丈夫だ。

**参加者：**

個人的な感想だが、住まいの再建資料5ページのローン返済額が7.8万円となっているが、珠洲でこの額を払う人はない。5万円台くらいにしないと、若者世代はみんな金沢に出て行くと思う。この金額なら金沢市内に家が建てられるので、真剣に考えないと若者世代は流出すると思う。珠洲市に住むメリットが感じられない。

**市長：**

厳しいと思う。子育て世帯は300万円を珠洲市で補助すると言っても、それより安く、金沢市で家を建てられるなら対抗できない。ただ、ローンの返済額を絞ったところで、金利は決まっている。あとは、どれだけ借入額を減らせるかということだと思う。

**参加者：**

住宅金融支援機構の金利も少し高いと思う。

**福祉課：**

借りやすさもあるので、比較検討いただきたい。

**市長：**

シミュレーションであって、一つの目安として考えて欲しい。住宅金融支援機構の融資を必ず使わなければならないという訳でもない。できるだけ多くの方に、珠洲市で暮らしてもらうことが大前提。色々と課題はある。

**参加者：**

川浦の壊れている公衆トイレの復旧（使用はできる）は、いつ頃になりそうか。

**市長：**

石川県管理の施設なので石川県に伝えていく。県も手が回らず、直ぐにという話にならないと思う。

**参加者：**

使えるトイレだが電球が切れていて暗い。

**市長：**

県に伝える。

**参加者：**

公費解体で出た材料（古材）を残すようなことをしていないのか。サイディングボードの家が珠洲なのかなという気持ちもある。

**市長：**

建築家の坂茂さんのプロジェクトで、能登瓦を残す動きはある。ただ、保管する場所が難しい。長野県で取組んでいる会社があり、そこも巻き込んで検討しているが、中々難しいようだ。回収した能登瓦を応急仮設住宅の集会所の屋根瓦に利用するなど、再生を部分的に進めている。坂井防災担当相も視察に来られた際に興味を示されていた。古材を活用できたらいいね、という話になるが、仮置き場を見て「この中から良い材料を見つけるのは厳しそう」となる。自然災害で家を再建するにあたって、画一的にハウスメーカーになるのは否めないと思う。

**建設技術研究所：**

否めない。業者の数や皆さんの再建スピードがあるので、そうなる傾向がある。東日本大震災では地元の木材を活用すると、森林組合で上乘せ補助を行った事例はあるようだ。工夫次第だと思う。

**市長：**

県が自力再建者向けのモデルや、災害公営住宅のモデルを今年度中に示す予定のようだ。坂茂さんも高くない金額で、こういう家が建てられる、というようなことを提示できないか検討をしているようである。

**参加者：**

下見板張は、板材を外すときに割れやすく、立派な梁や柱を次に使えるようにと考えると解体業者が嫌がる現実もある。

**糸矢区長会長：**

復興計画にロングトレイルの話を書き加えて欲しい。輪島までとなっているが、なぜ珠洲まで伸ばさないのか。震災遺構の話は書いてあるが、ロングトレイルについて書いてない。あと、住宅再建が先なのは分かるが、施設関係はできることから復旧して欲しい。自立エネルギーについて、国から補助金も出るので、公民館などはソーラーを付けようなどの話になると思う。問題は、今回みたいな集会所だ。日置地区はほとんど集会所が避難所になる。ソーラーパネルや蓄電池、スターリンクなどを指定避難所だけではなく、集会所にもできるだけ整備して欲しい。公民館を拠点にして、と言うが公民館は非常勤の館長と主事が1人だけだ。学校がない地区はこんなものだ。1人くらい日置地区に、まちづくりの計画などに動いてもらえる人が欲しいとずっと言っている。せめて学校のない日置地区に置いて欲しい。これまでずっと言っているが変わらない。役所が忙しいのは分かる。役所は異動があるが、区長会長は変わらない。組織体制を変えて欲しい。せめて人的スタッフくらいは宛てがって欲しいし、役所との連携を公民館に頼ってはいけない。

**市長：**

震災前から一人暮らしの高齢の方がいっぱいいる。そのような方の色々なケアなどを、応急仮設住宅の集会所を通して、ささえ愛センターの方で動いている。これまでの各地区の公民館が色々と機能したら良いなという想いはある。県の官民連携復興センターに言い続けており、職員は4名ほど採用したようだが、人がいないという話だ。能登復興推進隊は、公民館のお世話をするものではない。私も言い続けていく。地盤隆起した海岸などをロングトレイルとして活用できないか、県としてやるとのことなので敢えて珠洲として手を挙げずにいるつもりだったが、それだと心許ないとのことなので復興計画に入れておく。

**復旧・復興本部：**

避難所だけにスターリングなどを置くことについては、日置地区だけでなく、他の地区からも要望があり、各地区の復興方針図に記載されている。現在いただいている要望について、できるかできないのか庁内で照会をかけているところ。やるのであれば、日置だけでなく、他地区の集会所でもやる。これは復興計画というよりも、「まちのかたち」の方に皆さん載せられているので承知している。

**市長：**

復興計画の中に自主避難所についての色々な見直しがあったと思うので、もう一度計画内容を確認しておく。取り組んでいかないといけない。

**参加者：**

仮設住宅のスロープについて、雪などが降ると滑る恐れがあるため、滑り止めをつけてほしい。

**環境建設課：**

環境建設課で対応を考えているところで、スロープの部分に滑り止めのテープを付けて滑らないようにできないか考えている。一旦やってみて、効果を見てもらいたい。凍ってしまうのであれば「むしろ」の方がいい。「むしろ」の方が安いけど、結局滑るとの意見もあり、対策は考えている。

**市長：**

対策を考えている間に気温も零下になるので早く考えるように。

**環境建設課：**

先週テープを貼りに行ったが雨で貼れなかった。テープも確保できているので対応する。

**参加者：**

風呂（ユニットバス）に鏡がない。若山の仮設住宅には付いている。

**環境建設課：**

県に対して統一されていないことを報告し、揃えるように対応を要請している。

**参加者：**

折戸の場合、仮設の1号棟から8号棟の脇にある浄化槽まで、排水ポンプ2か所を経由する。停電になるとポンプが動かないので、トイレも使えなくなる。非常用の電源を確保するなど、停電対策をした方が良さそう。

**市長：**

停電対策は、中々難しい。ちょっと考える。倒木による停電、落雷による停電も結構あるので、検討する。

**参加者：**

日置公民館は避難所としての設備が整っていなかった。改善して欲しい。発電機も水もなく、最低限必要なものは用意しておいて欲しい。

**市長：**

日置公民館は指定避難所でもあり、現在の状況が良い状況とは言えないので見直す。設備等についても検討していきたい。

以上

## 令和6年度 第3回珠洲市復興計画策定に係る意見交換会 協議記録

日 時	2024年12月16日(月) 18:00~20:20
場 所	飯田小学校 体育館

参加者:25名程度

マスコミ:5社程度

泉谷市長

区長会長 泉谷 信七(南町区長)

市議会議員 中坂 秀一郎

市役所担当

総務課 加賀課長

環境建設課 大宮課長、川角課長補佐、新係長、高橋主幹、樋口主任技師、高濱主幹

福祉課 三上所長

企画財政課 山口課長

復旧・復興本部 濱野局長、西次長、河原係長

計画情報研究所 米田、喜多、田村

建設技術研究所 伊藤

### 【開会のあいさつ】

泉谷区長会長：

飯田町の復興について、若い人たちやまちづくりに関わっている人たち、商店街や町内会も含めて話し合い、色々な意見が出た。今日は詳しい話が聞けると思う。町内会としては、明日19:00から飯田町として協議会を立ち上げたいと思っているので、時間のある人は来て欲しい。各地区で進められた意見をまとめて、飯田町の意見として出したい。

市長：

復興計画の策定に向け市内10地区について2巡し、今回3巡目となる。発災から間もなく1年となるが、まだまだ厳しい状況が続いている。9月には豪雨災害もあった。復興計画は皆さんからいただいたご意見を反映させながら、見直しを行った。実現不可能なものは見直し、だいたい煮詰まってきたと思う。復興計画において一番大事なのは、「新たなまちのかたち」をどうするかだ。飯田町においては「まちのかたち」をどうするかについて、色々な形で議論していただいている。まだ議論に加わっていない方もいると思うし、どういう形にイメージがまとまっているのか、本日改めて、まとめたものを示す。当初は、行政の方で、この道路は拡幅するなどの案を出してもらった方が議論しやすい、との意見もあったが、皆さんで集まって意見を出し合って、非常に良い形で進んでいる。復興計画はそろそろまとめたい想いもあるが、10地区細かく言うと24地区の「まちのかたち」については、これからも継続して議論を重ねて欲しい。道の拡幅や土地のやり取りなど、もっと具体的な話になってくるだろう。資材費や人件費の高騰で、新築の坪単価がどんどん上がっていることや、金沢のハウスメーカーだと珠洲は遠いから滞在費も掛かるため、割増料金になるということもあり、10月の臨時議会では、自力再建に向

け、珠洲市住まい再建支援金制度を設けた。自力再建と道路の拡幅がチグハグにならないように進めたい。自力再建したいけど、道路などの計画が遅くなって諦めることが無いよう、うまく調整できればと思っている。自分のコミュニティがこれからどうなるかも気掛かりだと思う。詳細な意向調査を進めながら、こことここが空き地になるなど、イメージを持ってもらいながら議論を重ねていきたいと考えている。公費解体は飯田地区で半分ほど完了した。本日は、こちら側からの説明部分が多くなるが、最後まで宜しく願いたい。

### 【復興計画案の説明】

#### 復旧・復興本部：

策定委員会や意見交換会等でいただいた意見をできるだけ反映させる形でとりまとめを進めている。この計画は、今後、珠洲市が進める総合的な施策について整理している。復興方針図に基づき、優先順位をつけながら、各地区のまちづくりを進めていく。来年1月にはパブリックコメントを実施し、皆さんからご意見をいただきたい。年度内には復興方針図をある程度固め、復興計画の資料編として公表していきたい。ただ、その後も復興方針図については、引き続き、議論を進めていきたい。

<資料に基づいて復興計画案の施策内容を説明>

<飯田地区の復興まちづくり内容を説明（計画情報研究所）>

<年明けからの意向調査ご協力をお願い（計画情報研究所）>

<住まいの再建と災害公営住宅について説明（環境建設課）>

### 【参加者からの意見】

#### 参加者：

若い世代で、多い時に週1回程度、14~15人で意見交換をして、飯田町をこういうふうにしたいと夢を語っている最中。自分たちが飯田に残って住んでいる中で、今後、自分たちの子どもに珠洲に帰って来てもらったり、今残っていても、やっぱり珠洲にいてももうダメだと出ていく若い世代を出さないよう、飯田の町を盛り返すためにみんなで意見を出している。100%実現するとは思わないが、どれだけ実現するのか。ただ集まって話をして、結果、不可能だからやりませんよとなったら無駄骨になる。珠洲市として実現可能ですよという反応がないと、正直だいが会議に対するモチベーションが下がってきている。

#### 市長：

若い方で議論した内容は、大体復興方針図に出ているとのことで、ちょい飲み横丁にしてもイメージ写真のようなものならば実現可能と考えている。建物が大きくて屋内でとなると、何億円かかるのだろうと財源の問題もあるが、財源と照らし合わせて、予算の確保ができるかどうかも含めて実現性を探していきたい。あとは、シーサイドをどうするかについて。1案、2案、3案と色々出してもらえるとありがたい。お祭り会館の話は、2007年頃から、もっと前からあった話。珠洲駅の跡地で、のと鉄道の検修庫をお祭り会館にできないかという要望があった。ただ、祭りというのは動いてなんぼ、展示されている山車やキリコを見るだけの交流人口拡大というのはどうなのかなと議論した中で、今の「すずな

り」の形になっている。再度、お祭り会館でキリコを展示することが魅力アップになるのか、お客さんが来てくれるのか。あるいは、管理していく中で収支の問題などもある。シーサイド跡地については、津波の問題もあるので、そこをどうするか。お祭り会館もちろん良いが、他にも色々なアイデアが出されれば、その中で、これだったら上手くいくのではないかと、というのが出てくればそれでいきたいという思いがある。シーサイド跡地に運動場というアイデアは、珠洲市には 400mトラックが入るちゃんとした陸上競技場がないということがある。色々なアイデアを出してもらった方が、より実現性につながると思う。ちょい飲み横丁についても、パターンを増やして、イメージをどんどん膨らませていただきたい。整備する場所は、まだこの辺が良いなという段階で、土地の所有者との交渉はこれからだと思う。地権者との調整等があるが、一番大事なものは、これから 20 年、30 年運営していけるかどうかということ。そういうことも含めて、また活発に議論いただきたい。これからの復興に向けて、これは良いアイデアだなというものは財源の問題はあるが、具体化していきたい。お互いにキャッチボールしながら進められたら良い。今のところ、ここはこうします、といったところはほとんど無い。災害公営住宅の場所も、旧専売公社跡地を寄付頂いたので有効活用したい。ただ、あそこも津波が来ているので 1 階は駐車場やピロティにして、2 階を住居にするような形で、20 戸程度整備する方向で基本計画を練っている。飯田地区に 55 戸必要という推計値もあり、不足分をどこにするかという課題もある。

**参加者：**

80 歳以上の独居老人が災害公営住宅に入る。家賃が発生することが分かっていない人もいる。応急仮設住宅に家賃無しで、ずっと住めると思っている人もいる。若手でアンケートをしようと考えている。誰かが常駐しているグループホーム的なものが必要と考えているが可能か。

**市長：**

似た話の構想はあったが、色々と難しい問題もある。

**福祉課：**

バリアフリーの災害公営住宅は可能なのかなと思うが、管理運営という面で、誰かが常駐というのは難しい。福祉施策として市直営で行うのは難しい。民間運営が基本になる。

**市長：**

イメージはシェアハウスみたいなものだと思うが、そのような仕組みや取り組みは良い。ただ、珠洲市が建築するという訳にはいかないと思う。

**建設技術研究所：**

類似事例として、シェアハウスではないが、災害公営住宅の一角に高齢者の見守りをする介護ステーションを設ける事例はある。ただ、高齢者向けの施設となると、先ほど言ったような課題は出てくる。イメージと少し近いようなものはあると思う。

**参加者：**

自分の町内では、仮設住宅で個人の家に集まってコーヒーを飲むことが流行っている。共有スペースがあるようなアパートができれば、若い人たちも見守りに参加できる。公民館みたいに自由に使えるスペースがあれば良い。ただのアパートではなくて、そういうふうなことも考えた方が良いという話が結

構出る。

**市長：**

シェアハウスみたいな形でグループホーム形式が良いのか、集合住宅だが共有スペースがあるタイプでも良いのか。相馬市では、長屋タイプだが皆さんで井戸端会議ができるスペースがある。色々な例があり、皆さんの意見を反映しながら、画一的な災害公営住宅を整備するつもりもないので検討を進める。飯田の町でこの場所が良いなどの意見もあれば出して欲しい。コミュニティは維持した方が良いが、飯田の町の中で、というこだわりはあるのだろうか。

**参加者：**

町会ごとに災害公営住宅を配置して欲しいが、数がまとまらないので4町会程度まとめる考えとなった。

**参加者：**

津波の被害を受けたが、堤防はどのようになるのか。市営住宅（吾妻団地）の建て替えはどうなるのか。現在計画中の災害公営住宅に優先して移るのか。災害公営住宅の間取りはどうなるのか。

**環境建設課：**

飯田地区の海岸、上戸地区の海岸等は石川県が管理しているが、今回の地震で甚大な被害を受けて、国土交通省が権限代行で復旧工事を進めている。年度内に沖合 30mの位置に消波ブロックを再設置する。4月以降に海岸堤防の修繕に着手すると聞いている。

**参加者：**

堤防の高さは嵩上げするのか。

**環境建設課：**

L1（数十年から百数十年の頻度で比較的発生頻度の高い津波）の高さで対応、整備する。下がった堤防は嵩上げして、高さを揃えると聞いている。コンクリートの水叩き部分と水路についても補修する。

**市長：**

今までの高さで復旧するというのが石川県の考え方。堤防の高さをどうするか決めるのが石川県、堤防の復旧整備は国土交通省。防潮堤みたいに何mもの堤防を作る必要があるかを検討した結果になると思う。堤防が高いと安心だが、高すぎても海が見えなくなる。自分は震災のだいぶ前に、奥尻島も見に行ったが、十数mの堤防に囲まれていて要塞のようだった。あとは、元々あった市営住宅の老朽化に伴う建て替えを検討していた。土地の寄付も受けていた。そこの地面を有効活用することを考えていたが、災害公営住宅になると災害によって家を失くした方が対象になる。既存の市営住宅にお住いの方が、災害公営住宅に移るということにはならない。基本的には公募するということになる。災害公営住宅の間取りは資料にある通りで良いものにしていきたい。外観等についても魅力的な住宅にしていきたい。

**参加者：**

解体が進んで更地になってきている。元々空き家だったところの雑草が気になっている。再建するか

考えているが、自分だけポツッと再建して、周りは草だらけとなっても・・・と考えている。建てるならみんながいる所に建てたい。

**市長：**

その通りだと思う。土地の管理は、所有者が基本的に管理することになる。これから意向調査を丁寧に行うことで、どのようになるのか、ある程度見えてくるのではないかと考えている。土地のやり取りが行えたら良いが、行政は介入できず、何か良い方法がないかと考えている。明日、(飯田町)全体で集まるとのことだが、町会単位で集まることが出来るのであれば、集まった方がよいと思う。

**参加者：**

飯田の仮設に住んでいるが、外灯はつかないのか。

**市長：**

外灯もさることながら、雪や雨が入ってきてしまうので「ひさし」をつけて欲しいとの話もある。

**環境建築課：**

外灯は石川県にお願いしているところだ。この冬、すぐに対応できないかもしれないがご理解頂きたい。

**市長：**

仮設住宅の事業主体は石川県なので、外灯の設置についても要請はしている。何か良い方法がないか考える。仮設住宅も資材費高騰等の煽りを受けたため、石川県も財政的にひっ迫しているようで難しい面もあるのだろうと思っている。県と協議する。

**参加者：**

飯田地区で災害公営住宅への入居を希望しているのが約 55 戸。今はっきりしているのは、専売公社跡地で 20 戸くらい。残り 35 戸になるが、入居条件を揃えたら、災害公営住宅入居希望者は必ず(飯田地区に整備される住宅に)入居できるのか。

**市長：**

珠洲市全体で言うと大体 700 戸必要。もし自分が住んでいたコミュニティではなく、利便性の良いところに住みたいという意向があれば、それにも応えなくてはいけない。

**環境建設課：**

飯田地区などの中心市街地に利便性を求めて入居したいというニーズもある。今の 700 戸は、全壊や半壊の戸数の振り分けによる推定値になっている。来年 1 月に記名式の意向調査を行なうことで、どの地区にどれだけの戸数が必要か具体的に出てくる。100%答えてもらえるか分からないので、一部推定になるところもあるが、精度は上がっていく認識だ。飯田町で 55 戸となっているが、もっと増えるようであれば、今の候補地に加えて他の土地も検討していく。意向調査を行なった上で、不足してはいけないので、要件に合う方の入居を市としても考えている。

**市長：**

意向調査を記名式で丁寧に繰り返しやると、気持ち揺れる方も出てくる。東日本大震災の時は、きめ細やかにやったので、この地区にはこれだけ必要ということが大体掴めて、その通りに整備を進め、狙い通り皆さん入居できたという事例もある。そういう形で進めていくしかない。飯田町で 55 戸必要になるだろうとのことだが、55 戸だけ作ってもダメなのだろう。珠洲市全体で「飯田町に住みたい方」という聞き方をしていかないとダメ。そうすれば、みんな希望通りに入れる。単に 55 戸分の用地を見つければ良いという訳ではない。

**参加者：**

脚の不自由な自分の母親をイメージして質問した。高齢者は 2～3 階は厳しいと思う。こういったことも考慮して欲しい。

**市長：**

先ほど専売公社跡地で 1 階は駐車場にして、住居は 2、3 階になると言った。階段で登らないといけないかという訳ではなく、エレベーター設置を考えている。そういうところも配慮しながら進めていく。

**参加者：**

今まで空き家だったところで、半壊に至っていない建物がある。管理している会社から持主に言ってもらっているが、地震後ブルーシートなどもされていない。自分たちから見て完全に管理不全の空き家と思っているが、市として何か展開するのか。

**市長：**

これだけの震災だったので、「災い転じて」にしていきたい。より快適なまちづくりを進めていきたい。ずっと前から残っている空き家で、今回半壊まで至ってないところはずっと残る。これを機会に公費解体で解体撤去できれば良いが、持主と連絡が取れない、そういう物件で、何故半壊以上にならないのかという思いもある。今後の課題と認識している。解体した方が良い建物は、今後、丁寧に進めていかなければならない。建物性がない、財産と言えないとなれば色々やり方はあるが、しっかり建っていると中々難しい。半壊未満だと公費解体の対象にもならない。外観上は建っているけど、中を見ると地割れがあり一発全壊になったケースもある。空き家の持主がどこに住んでいるかなどの情報はこちらでも把握して、連携して進めていきたい。また相談いただきながら対応したい。

**参加者：**

子どもが土日や長期休みに外で遊ぶ場所、社会教育の場や息抜きの場が無いように思える。子ども達にどこか連れて行ってくれと言われて金沢や市外に出る。子ども達には、もう 1 年、もう 2 年待ってくれという訳にはいかない。どのように考えているか。

**市長：**

市民図書館のキッズランドは通常営業しているが、そんなに広い訳ではない。雨でも雪でも遊べるような、かほく市の「かほくくる」や金沢市の「あめるんパーク」のような全天候型施設を珠洲市に作れないか考えている。2 年待ってくれという訳にはいかないと言われたが、そういったものを建てようとすると、そのくらいの時間はかかる。ただこれからのことを考えると、若い方の定着につながるように

整備したいと考えている。今しばし、お待ちいただきたい。

**参加者：**

春日神社のお宮さんの脇とかを公園化して、子どもたちが遊ぶ場所にするようなイメージをしている。

**市長：**

自分達が子供の頃は、お宮さんだったり、色々な所で遊んでいたが、今は外で遊ぶなくなってきている。屋内で遊べる場は必要だと思うので、計画を練って考えている。外で遊ぶということであれば、野々江総合公園には仮設住宅を建てなかったので利用して欲しい。

**福祉課：**

子供が安心して遊べる場を設けようと、ある団体が旧正院保育園をプレーパークとして開放しているため利用していただきたい。健康増進センターのプレイルームも、現在は物資で一杯になっているが、年内には空けたいと思っている。少しずつ整備していきたい。

**市長：**

応急仮設住宅だと子ども達も思いつき遊べないということもあると思う。対応できたらと思う。

**参加者：**

住まいの再建について、良い資料をもらった。もっと配布なり周知しても良いのではないか。

**市長：**

自力再建したいという人は結構いる。しかし、建築費が高騰している。また、業者不足から着工が2～3年先という話も聞いている。補助制度をうまく組み合わせて、再建を促していきたい。

**参加者：**

自分の子どもは飯田高校2年生だが、金沢に進学する子ども（高校生）が今後増えるのではないか。飯田高校野球部は助っ人を集めて、石川県大会に出た。自分の子も知っている今の中学3年生に飯田高校に入学するよう進めている。輪島の門前高校は誘致をしているが、珠洲市としても飯田高校のバスの定期的補助などはしていると思うが、存続に向けて何かしていないのか。

**市長：**

生徒の全国募集も自治体と県立高校が連携しないと中々進められないところがある。今まで飯田高校は正式な全国募集をしていない。令和8年入学に向けて、今から準備していこうということは進めていきたい。外から来られた入学者の住まいの確保が問題になる。何億円かけて寮を作らなくても、トレーラーハウスなどの形で対応できないか考えている。飯田高校は致命的な損傷がなかったから良かった。なんとか大丈夫であってほしい。あとは、魅力をどう高めていくか。

**企画財政課：**

飯田高校の存続に向け企画財政課、教育委員会事務局、市内の中学校の校長先生、そして飯田高校の校長先生らと中高連絡会を設置し、飯田高校の魅力向上について意見交換を進めている。例えば、市外

からの通学者の交通費の3割補助を5割補助にできないかという話もあった。飯高応援団を通じて、実現に向けて検討している。あとは、金沢大学能登学舎での活動、金沢大学への働きかけ等を進めている。今までなかったような動きもできたら良いと思っている。

**ガクソー（北澤氏）：**

ガクソーは、申請している段階であるが、みんなの家（飯田地区）を計画中。飲食店付きのコミュニティスペースを目指している。商店街の方も子ども達も集まれる場所を作れたら良いと思っている。飯田高校の魅力化プロジェクトは難しい問題。この町で新しいことをしたいという学生は結構いる。その一人一人に良い時間を過ごしてもらいたく支援しているところ。魅力化の話も3年くらい前からあるが、中々進まない。進めていけたら良いと思う。

**市長：**

珠洲市から高校を無くしてはいけなないと考えている。そこはしっかりやっていかなければならない。以前は能登町からの生徒も多かったが、最近は比率が下がってきている。その辺りも含めて対策を考えなければならない。

**参加者：**

普通科、ビジネスコースに魅力があるのか。美大出身者が移住してきている。美術科や芸術コースなど考えられないか。

**市長：**

北海道に例がある。全国から生徒を集めるには今の話のように、学科などの工夫が必要。県へ要望する形にはなる。自分の想いとすれば、飯田高校は学力を高めていかないと。「奥能登の雄」として学力を高めて欲しいと考えている。

**ガクソー（北澤氏）：**

歴史ある進学校だ。とても勉強に力を入れているのは分かる。自分達は芸術系の美大に行きたいなど、学校でできない美術系のところを支援しており、今年も1名が進学した。これを機に、学科から考えるのもありだと思う。部活動の地域移行も密接に関わると思う。

**参加者：**

土砂災害警戒区域になっており怖い。これから何か対応する計画はあるのか。飯田公民館の横だけ対策しているが、生涯学習センターの所や、家がある他の所は本当に崖みたいになっている。

**市長：**

必要であれば対策はする。公の施設を建設する上では、色々と配慮していかなければならない。対応していく。

**参加者：**

災害公営住宅はペットを飼っている人も入れるのか。

**市長：**

基本的には難しい。

**環境建設課：**

ペットは、従来の公営住宅だと近隣とのトラブルもあるので、基本的には認めていないところが多い。しかし、東日本での災害公営住宅でも、元々の仮設住宅の時からペットを連れて生活されていた方もいる。そういう世帯もいるということも考慮しなければならない。今後の意向調査の中で、ペットをお持ちの方で、災害公営住宅に住みたいという方がおり、近隣とのトラブルも考慮し、入居される方がきちんと理解した上で、ペットがいる方だけの災害公営住宅の建設は可能性としてはある。

**市長：**

ペットがいる方にとっては家族同然だと思うので、色々と考えていきたい。

**参加者：**

震災後の道路状況を見て、とても運転できないと思い、自分も80歳過ぎということもあったため、自動車の免許を手放してしまった。不便を感じている。まちなかバスの運行が始まった。病院へ行く場合は助かるが、買物が大変。重たいものは買えない。まちなかバスが出て助かるが、9時のバスの次が13時のバス。夕方もう1便増やしてもらえれば、買物に行こうという気持ちになる。

**企画財政課：**

すずバスでは、マイクロバス6台、ハイエース2～3台で運行している。まちなかバスすずらんは6台の（マイクロバスの）うち1台が空いている時間帯に運行している。中々増やすのは難しいところもある。できるだけ工夫していきたいが、ドライバー確保の問題もあり、厳しいところもある。その辺りが解決できれば、ある程度柔軟に対応できるのではと思う。6ルートと飯田のまちなか、交通が不便なところを現在運行している。車両的には足りておらず、不便をかけている。ドライバーや車両の関係で都合がつくようであれば見直しをかけたい。

**市長：**

すずバスのマイクロバスは被災してダメになり寄付してもらった。

**企画財政課：**

マイクロバスが3台、津波をかぶって被災した。青のすずらんバスも途中で動かなくなり、三菱や日野自動車、ライオンズクラブなど、至るところから寄付してもらった。

**参加者：**

晴気台の市営墓地の地面の凸凹がひどい状態だがどうしたら良いか。お墓自体の損傷はなさそうだが、震災前からひどかった地盤がさらにひどくなった。

**環境建設課：**

コーポ晴気台の登り口、晴気台トンネルあたりについて、現時点で地盤変動があったことは承知しているが、詳細な調査ができていない。調査してからとなるが、お墓の復旧（地盤）は市の方での対応に

なるかと思う。

以上

## 令和6年度 第3回珠洲市復興計画策定に係る意見交換会 協議記録

日 時	2024年12月18日(水) 18:00~20:30
場 所	大谷小中学校 体育館

参加者:62名

マスコミ:6社程度

泉谷市長

区長会長 丸山 忠次(大谷町第2区長)

市議会議員 川端 孝

市役所担当

総務課 加賀課長

環境建設課 大宮課長、川角課長補佐、新係長、高橋主幹、和田主任技師、本多専門員、  
檜原主任技師

福祉課 三上所長

復旧・復興本部 濱野局長、西次長、河原係長

計画情報研究所 米田、田村

建設技術研究所 伊藤

### 【開会のあいさつ】

丸山区長会長：

今年もあと一週間となり、地震と豪雨の二度の災害に見舞われた。やっと仮設住宅ができた。水道は一部未開通だが、先が少し見えてきた。除雪が心配だが、行政側からも最大限努力すると聞いている。やることはまだまだたくさんあると思う。今日は復旧も考えながら、復興も考えなければならないとのことで行政側の計画を聞くと同時に、私たちもまちづくり協議会で想いを出している最中。皆さんの声を聞いたうえで、より良いまちづくりを目指していかなければならない。言ったことが全て通るとは限らないが、まずは自分たちの想いを出して、次のことを考える時期だと思う。今日は、より多くの方の意見を聞かないといけない。たくさん意見を出していかなければならない。今日の意見交換会を有効な場として欲しい。

川端市議会議員：

丸山区長からも話があったが12月2日から仮設住宅の入居が始まった。入居された方の顔も見られるようになり、少し大谷地区の活気が前より出てきたと喜んでいる。今日の意見交換会は3回目となり、最後となる。まだまだ皆さんの生活は不自由な点が多々ある。12月の定例会で私も質問した。災害公営住宅、避難路、今後の防災など新しいまちの形については、集落単位で今後も継続して話し合いをしていくとのことだ。今後の自分の住処を、安心して暮らしていけるよう忌憚のない意見をお願いしたい。このまちの未来について、考えていただきたいと思っている。

市長：

各地区の復興に向けた意見交換会は3巡目となる。1月1日の地震から1年となるが、大谷地区においては避難されている方もおいでるし、水道も通水できていない所もある。道路の状況もまだまだ十分とは言えない。豪雨災害により、ここ大谷地区では過酷な状況になっている。そうした中、参加いただき感謝している。応急仮設の完成も豪雨災害により2ヶ月遅れた。清水浄水場の配水エリアは、今も通水できていない。なんとか年内に大谷浄水場から配水できるよう頑張っている。水道については、この後に説明があるが、馬縹町では独立した水道にできないかという話が出ている。真浦町は輪島市議会の承認を経て、曾々木から水を持ってくる予定だが、業者の都合で春から工事に取り掛かるようだ。馬縹町は分散型の水道となるが、国土交通省では、循環型の上下水道の実証実験の話がある。一軒一軒のご家庭に、手洗いは手洗いで管をつないで循環させる、生活用水は生活用水で、もう一つシステムをつけて循環させる。実証実験として、国の費用で整備できればと話がある。ただ区長から水抜き井戸があるので、馬縹町と同じように、そちらから引っ張ってもらえないかという話もあった。国としては実証実験を試してみたいという想いもあるだろうが、これからの話になるので真浦町の皆さんと、やり取りしながら進めていきたい。自衛隊の入浴支援も10月5日から始めてもらって、12月15日で終了したが、未だ断水の問題は解決できていない。本日、大谷公民館にユニットバスを設置したので活用願いたい。今日は復興計画の説明を行う。最後になると言ったが、これからも色々な形で意見をあげてもらいたい。復興計画は皆さんからいただいた意見を反映しながら修正している。また、実現不可能なものは記載していない。「新たなまちのかたち」をどうするかが何よりも大事だ。市内を24のエリアに分けて議論していただき、大谷地区は4地区に分けて協議会を設置して意見をもらっている。今日初めてご覧になる方もいらっしゃると思う。付け足したいこと、こっちの方が良いのでは、などのご意見を頂きたい。「新たなまちのかたち」の議論は継続していただきたいし、行政もやり取りを続ける。自力再建の進め方、道路の拡幅、災害公営住宅の配置などを議論していきたい。手元の資料にあるが、市独自の住まい再建交付事業も始めている。災害公営住宅については、馬縹地区は既に地域でまとまっており、地域としてこの場所に作って欲しいなど、具体的な提案もあり、他の地区より先行しているので基本計画に着手した。他の地区でもご要望をいただいている。清水地区の方でも災害公営住宅をとという話もあるし、仁江地区では隆起した海岸を埋めた所に災害公営住宅をとという話を早い段階でいただいている。具体的な話があれば検討していきたい。今日は復興計画全体、新たなまちのかたち、住まいの再建について説明をした上でご意見を頂戴したい。

### 【復興計画案の説明】

#### 復旧・復興本部：

策定委員会や意見交換会等でいただいた意見をできるだけ反映させる形でとりまとめを進めている。この計画は、今後、珠洲市が進める総合的な施策を整理している。復興方針図に基づき、優先順位をつけながら、各地区のまちづくりを進めていく。

<資料に基づいて復興計画案の施策内容を説明>

<大谷地区の復興まちづくり内容を説明（計画情報研究所）>

<年明けからの意向調査ご協力をお願い（計画情報研究所）>

<住まいの再建と災害公営住宅について説明（環境建設課）>

## 【参加者からの意見】

### 参加者：

説明を聞いてそれで良いと思う。差し当たって、私たち集落は電気も水も来ていない。正月は、生まれた家で新年を迎えたいと思うので、年末までに電気を通してもらいたい。曾々木のトンネルまで電気が来ている。公営住宅については、地面が無いとダメということか、建てられないということか。塩田の地面が十分あると思うので、そこを整備して考えて欲しいと思う。水道も早く通して欲しい。

### 環境建設課：

北陸電力より電気が通せない理由が道路の状況であれば我々のところに情報として入ってくるが、今のところ確認できていない。北陸電力に確認する。

### 参加者：

北陸電力に聞いたら、これから雪も降るし、通すことができないということだった。私たちとしては、電気だけでも通して欲しいということだ。市の方からもお願いして欲しい。これまでも曾々木から電気が来ていた。あと何mの距離なので、何とかできないか。

### 市長：

震災前から、曾々木から電気が来ていたとのことで、改めて強く要望したい。塩田は、揚げ浜塩田の公園の所ということで、地区ごとに意向がある場合は、直接言っていただきたい。真浦に災害公営住宅が何戸必要で、どこを整備して欲しいという話がまとまれば、着手も早くなる。

### 参加者：

あともう一点聞きたいが、一部損壊の場合に30万円もらえるという話を聞いたがどうなのか。

### 市長：

川端議員からの要望もあり、制度を設けた。一部損壊の方だと修理・リフォームに20万円以上かかった場合、1割（上限30万円）を補助する。環境建設課が窓口となる。年内に要綱を作り、年明け位から受付を始める方向。これから修繕される方も、既に修繕された方も対象になるので相談して欲しい。あと、家の裏山が崩れて、土砂崩れの泥出しをボランティアに頑張ってもらったが、市にお願いしても遅いだろうと直接業者をお願いした人もいると思う。領収書などがあれば、その費用も市で負担するので申し出て欲しい。本来は、行政すべきことだ。

### 参加者：

真浦について、道路、河川、電気、水道について、未だ1箇所の復旧工事さえ終わっていない。工事予定、工事責任者の連絡先等を提示して欲しい。来年春から稲作、農業を再開できるのか。あと、真浦町の河川の護岸が崩れた。崩れたコンクリートが私有地に放置されている。6月に環境建築課から撤去すると言われたが、もう6ヶ月も経っている。本当に撤去してもらえるのか。3日かけて公費解体が終割る予定だった。豪雨で解体工事がストップして、工事を再開すると言われたが、国土交通省に確認したところ工事用車両が入れなくなり、解体も中断している。1～2月は県外からの業者は解体工事ストップと聞いている。春まで解体工事がストップすると、風で瓦が飛んだりする場合は考えられる。その

場合、珠洲市で修理するなどの責任を取ってもらえるのか。3ヶ月、4ヶ月も待たされると被害が出るのではないか。

**市長：**

道路とか河川の復旧について、応急的な復旧は進めていると思う。真浦にしても逢坂トンネルの向こう側まで埋まっている。下の方から土砂を取っても、上からまた土砂が崩れてくるため、当然上の方からやっている。自分としては、この工事は国の権限代行だからこそ出来る、よく頑張ってくれていると思う。国道249号の沿岸部は、国土交通省が復旧を一生懸命進めている。市道に落石が落ちていると思う。これは市で対応となる。応急的にはすべきだし、真浦だけでなく全体の話になるが、年内に災害査定が終わる。査定が終わらないと国の補助がもらえず、本復旧工事も発注できない。

**参加者：**

分かった。それらを文章に明記して示して欲しい。

**市長：**

それが中々難しい。査定が終わった、全て工事する、事業費が1,000億円超える、入札が全て一気に落札される訳でもなく、優先順位も出てくる。

**参加者：**

もう1年経つが、復旧すら終わっていない。家にも入れない。雨漏りもしているだろう。市道の1箇所だけでも早急に何とかならないのか（真浦の塩田の前）。

**市長：**

地元の方はゲートを開けて入れるはずだが確認する。何とか出入り出来るよう、国の工事との兼ね合いもあるが、皆さんも不便を感じているだろうし、確認をとる。本復旧を早く進めていきたいが、難しいところもある。下水道が整備されているところは、下水道や水道と合わせての復旧になるので中々難しいところもある。こちらとしても早く復旧を進めたいが、対応箇所が多くて中々進められないことはご理解いただきたい。今、ずっと査定を続けているところで、本復旧に取り掛かっているところはほとんど無く、ようやく発注が終わったところが数箇所ある程度。

**参加者：**

まずは道路、そして河川。土嚢を置いてもらっているが、10月6日に国へ確認したら、これは災害なので復旧工事になる。道路と同じ高さの幅のものしか作らないとのこと。川の法面の嵩上げをして、フェンスをつけるとか、一緒にしてもらえれば工事も1回で済み、経費なども少なくなるのではないか。

**市長：**

二次災害を防止するために、まずは応急的な対応をする。本格的に復旧工事をする際には、水量とか安全性などをきちんと設計してから対応する段取りになる。今は、まだ設計中だと思う。また同じような雨が降ったら被害が出るので応急的な対応になっている。

**参加者：**

高台が抜けているので雨が降るたびに土砂が川に流れ込み、川底が上がる。早急に対応して欲しい。

**市長：**

真浦の川は市の管理となるので、早急に対応したい。大谷川は国土交通省が権限代行で進めている。通常の場合、大谷川だと権限代行は難しいが、特例中の特例ということで国にも理解いただいて進めてもらう。仁江川の土砂災害対応も国土交通省に直轄で頑張ってもらっている。市管轄のところは中々手が回らなく申し訳ない。あと農地の復旧は、急いで進めていきたい。土砂や流木が入ったところで、可能なところから取り除いている。今年の春は、パイプラインや用水がやられて、半分程度しか再開できなかった。来年の春は、豪雨災害もありもっと厳しくなってくると思う。春までに復旧できるところは至急やっていく。被害の大きさに応じて、かかる時間が変わると思うが、早急に進めていきたい。あとは公費解体が途中で止まってしまったとのことだが、冬を迎えるにあたって、雪に慣れていない業者もいる。業者も雪が降ると作業をストップし、滞在していても、作業が入らなければ収支の帳尻が合わなくなる。石川県と相談し、県内業者に限り解体を進める予定だ。解体班が250班から50班に減る。解体が途中でストップして、強風で瓦などが飛び、近隣に迷惑をかけるかもしれないという話も、早く片付けて、やり遂げられたら良いが。

**環境建設課：**

公費解体については、解体の途中で瓦が飛んで損害賠償にならないように、一日も早く解体を進めた方が良いと思う。業者と調整して連絡する。

**市長：**

調整した結果を連絡する。

**参加者：**

西部小学校から崩れてきている土砂が9月の大雨により範囲が広がった。早く片付けて欲しい。工事自体は今後どうなるのか。大谷保育所の角から入る道路の土砂の撤去はどうなっているのか。あと個人的なことで再三お願いしているが、隣家が倒れ掛かっている、半壊の我が家を修理できないでいる。以前の話では公費解体が9月という話だったが豪雨があった。11月11日の時点で、環境建設課長から再考すると言われたが、その後の話がない。皆さんに尽力いただいているのは分かるが、このような対応されると不信感が募る。返事を早くいただきたい。

**市長：**

隣家が倒れ掛かってきていて危ないという話は、緊急性があるので早く撤去しなければならない。

**環境建設課：**

西部小学校下の崖は林野庁で対応してきたが、作業途中で豪雨が来た。これについては、年内を目途に排水管の工事も含めて、仮復旧を終えると聞いている。大谷地区で大量に崩壊した土砂の撤去について、12月2日から国土交通省で対応してもらっている。12月20日に大谷郵便局周辺の土砂撤去が終わる。終わり次第、そのまま保育園周り、大谷郵便局から海側の土砂を撤去。その後に公費解体という流れとなる。海側の土砂撤去は、年明けも作業が続くだろう。その状況を見ながら公費解体がいつ頃入れられるかの話ができると思う。11月11日にメール頂いた時点では、国土交通省とのやり取りで土砂をどう

するかまだ言えないことも多かったことから、回答できなかった。順番に土砂撤去を行っており、終わり次第、公費解体に入る。目処が立ったらまた連絡する。

**市長：**

最初の目処は3月末だが厳しい部分もある。4月を目指して撤去していくと国土交通省も頑張ってくれている。自分としてはありがたいし、大谷の中心部をしっかりと再生していきたい。

**参加者：**

解体業者は、水害の土砂が多く、土砂を出せないと言っていたが、結果として出してくれた。業者は辛いと言っていた。お寺の復興を頑張っていたが、奥さんが亡くなった。大谷地区からお寺が一つも無くなってしまった。憩いの場所、お参りできる場所を検討してもらえるのか。

**市長：**

家が半壊で公費解体する場合は、宅地に流れ込んだ土砂は解体工事と併せて撤去する。業者としては、解体に係る費用は上がるだろうが、それを見込んでの支払いとなる。お寺の復興は、石川県の復興基金により3/4補助できる。ただ、お宮さんのここは対象になるが、ここは対象にならないなど難しい部分もあるので、個別に相談いただきたい。お寺になるともっと難しい。お宮さんであってもコミュニティ施設でなければならない。お寺としては、地域として色々な集会用に使っていたと言えれば良いが、基本は宗派の人だけが使うイメージになる。難しい問題なので相談して欲しい。

**参加者：**

元総代で先代からお聞きしていることだが、場所は変わるが集会所として再建したいと聞いている。一軒くらい寺は残ると思う。門徒として、少しでも協力できるかは別問題としてある。具体的になった時に、総代だけでなく、世話役や残っている方で集まって話をするようになると思う。時期は分からないが、地域のコミュニティ施設の一つとして、何かあった時は利用できるお寺を作りたいと言っていた。

**市長：**

中々元の場所に再建というのは難しいかもしれない。

**参加者：**

キリコの倉庫の屋根が落ちたが補助は出ないのか。見積もりを出して申請は出したがOKが出ない。

**市長：**

簡単に出るものもあるし、額によって異なる。150万円位の修繕であれば早く出るはずだ。

**企画財政課：**

申請は出していただいている。今週の土曜日に打合せをすることになっており、交付される見込み。

**参加者：**

お寺の再建に関わる質問。お墓が崩れてしまい、谷間にあるので入れない状況だ。市ではお墓の被害について状況把握しているのか。大谷だと建てる土地が無い所もあるが、構想のようなものはあるのか。

国との話もあると思うが、東日本大震災の時のように特区のようなことは出来ないのか。

**市長：**

特区としての制度も中々無い。東日本の時も、特別措置で進んだものだった。どちらかというとも熊本地震に近い進め方になる。東日本は特例中の特例が多く、東日本の時はこうだったからどうにかできないか、という話になっても中々難しい。墓の復旧について、実態はつかめていない。地域で共同墓地をと皆さんで要望いただければ考えていきたい。お寺も合わせて、そうして欲しいということであれば、ありがたいというか、皆さんの総意にもなる。

**参加者：**

集会所と共同墓地はどこかに整備すると考えているのではないか。

**復旧・復興本部：**

県の復興基金があるので、合葬墓については総務課に相談いただきたい。

**総務課：**

お墓を集約化する方法は色々あるが、珠洲市なら三崎町の大屋に大きな合葬墓がある。他には共同の納骨堂がある。行政がこうしなさいということは無いし、補助メニューがあるので、改めて相談いただきたい。

**参加者：**

ぜひ実態を把握してもらい、動き出してもらえたらありがたい。特区について、地域公共交通の再建のところで、道路事情が悪く復旧が進まない所もある。ライドシェアの構想の話もしていたが、自動運転の実証実験の場として介入しやすいような、若者の働き手にもつながるような環境を作れるような大きな構想を作って欲しい。

**市長：**

復興に向けて、先駆的な技術もどんどん取り入れていきたい。魅力ある復興にしていきたい。またアイデアがあれば言って欲しい。

**参加者：**

計画は立派で良いと思うが、人がいてこそだと思う。人口流出の報道もあったが、現在、流出は止まってきているのか。周りには珠洲を出て行きたいと言う人も多い。人が出ていかない対策も必要だと思う。若い働き手がいてこそ。

**市長：**

中々厳しい。今年1月から11月までで転出が942名、転入が168名。これまでの珠洲市の動向だと自然減少が多く、生まれてくる子とお亡くなりになる方の差の方が大きかった。転入と転出の差は100名程度だったと思う。社会減少だけで774名となると、例年の7～8倍となり、今年に入ってからと比べると転出がとんでもなく多い。それは今まで抑えられていたこともあるが、この震災で人口が減少している。これを止めるためには、住まいの再建や生業の再建が必要。応急仮設住宅の建設も遅れている

が、地震における住宅は年内には完成する。豪雨災害における住宅は 22 戸を野々江に建設中で、完成は 2 月中になる。復旧も早くしないと戻ってきてもらえない。住まいも生業も復旧も遅れていることが人口減少につながっているところもある。出られた方が戻ってきてもらえるよう、しっかり取り組んでいく。珠洲でもう一回頑張ろうと思っていただくためにも、魅力ある復興にしていかなければならない。

**参加者：**

今回の地震で大谷地区が孤立した。道路の強靱化をお願いしたいが、珠洲市としては市道しか触れないのか。

**市長：**

触れないが、(国、県に対しても)言うことは言うし、既に言っている。国道にしても県道にしても、単なる復旧ではなく、より頑丈になるよう復旧して欲しいと伝えている。実際に元と同じような形で復旧するのではなく、より頑丈にしてもらえるとと思っている。

**参加者：**

地震で孤立したところを優先的に強靱化して欲しい。同じようなことが起こっても、まず大谷地区の方々が逃げられるようにして欲しい。

**市長：**

自分もそういう想いでいる。一方で、国の財政から見ると、反対の事を考える人もいる。そうなると困る。既に人もそんなにいないのではないかとか、コスト面でどうなのかとか言われるが、そうではなくて、孤立した場所ほど頑丈にすべきだと思うし、再生しなくて良い地域なんて無いと思っている。皆さんがいる以上、再生すべきだと思う。国の考え方は色々あるが、そういう方向にいかないよう自分も動いていきたい。

**参加者：**

なんとか家の前の道は開通したが、自宅から角間まで上がるのに 5～6 箇所水路が暗渠で横断しているところがあるが、閉塞しており、道路上に水が出ている。このままでは大丈夫なところも崩れてしまう恐れがあり、危険だと思うところが 1 箇所ある。

**環境建設課：**

河川や道路は全て確認している。他の地域でも言われたが、県道、市道全て合わせて復旧工事を依頼済みで、優先順位を決めて対応中。復旧済みかどうか、いつ工事に入るかまでは確認できていない。

**参加者：**

放っておくと崖の高さが 20m くらいになる。法面の方が急で高い。何とかして欲しい。詰まった水の影響で、そんなふうになっている。詰まった流木や土砂は早急に撤去して欲しい。

**市長：**

猫ヶ岳の所まで復旧していかなければならない。角間までの至る道は、しっかり直す方向だ。早く手当しないと同じことになるので、今のうちに早くした方がいい。業者も手が回らないところもあると思

うが、早く手当してもらえよう要請する。

**参加者：**

あのままじゃ除雪もできない。命懸けになる。

**市長：**

何とか行けるようになったと安心していましたが、確かに危ないところがあるので対応する。

**参加者：**

あと大量の土砂を遠くに運んでいるようだが、どこに運んでいるのか。

**市長：**

大谷の土砂は、仮置きのため仁江まで運んでいる。

**参加者：**

学校前の海岸に埋めることはできないのか。グラウンドに出来るのではないか。

**市長：**

今後そういう案も出てくるようだ。目から鱗のアイデアで、グラウンドは良い考えだが、景観的に良いかという問題もある。

**環境建設課：**

国土交通省に聞くとところだと、土砂は仁江地区の方に仮置きしている。土砂と一緒に流木も大量に出ている。仮設住宅の方に臭いとかがいけないように、ちょっと離れたところに仮置きしたい意向があり、県と国土交通省で協議中。仁江についても限りがあるので、他の候補地を探していると聞いている。

**市長：**

国土交通省とまたやり取りする。皆さんの住まいの再建が整うまで、応急仮設住宅を解体することは無いようにしたい。あくまで学校のグラウンドに建てているので、自分はいずれ解体する想いでいるが、あれだけ立派なもの建てたのだから、そのまま残して欲しいとの声もある。皆さんと協議しながらと思っている。

**参加者：**

人数は少ないが、グラウンドはあった方が良い。

**市長：**

22人いた生徒が5人になり、戻ってきて欲しいと思う。市内の生徒は3割ほど減少していることもあって、小中学校は統合した方が良いとの声が多い。先日、日置地区で意見交換会をした際に糸矢区長会長は嘆いていた。日置地区としたら、本当は学校が欲しいのだと思う。大谷もそうだろうと思う。

**川端市議会議員：**

今回の地震を受けて、この建物は学校だけではなくて、皆さんの命を守ってきた建物だと思った。学校としての施設でなくて、地域として残していくことが大切だと身に染みた。

**参加者：**

復興計画案の説明があった。地元の意見を良く聞いてくれていると思う。ありがたいと思っている。川端議員にお願いしたいのは国の力が大きいということ。国の力を借りるため、実現するために市議会として作戦会議をして欲しい。

**川端市議会議員：**

早速会派に持ち帰って、議員に声を掛け合いながら陳情に行きたい。

**参加者：**

ハザードマップはできているのか。

**市長：**

地震、豪雨災害があった。石川県が見直した後に市町が見直すことになる。もうしばらくお待ちいただきたいが、県がいつまでに見直すか期限が決まっておらず、市としても見直し中。

**参加者：**

公営住宅や家を建てるにしてもハザードマップがないと見通しが立たない。早く見直すよう県にお願いして欲しい。

**市長：**

県にお願いしていく。

**珠洲警察署長：**

大谷駐在所の運用と豪雪時の対応についてお話ししたい。大谷駐在所は現在、駐在員が常駐していない。元日の地震発生以降、被災家屋からの窃盗など便乗犯罪が多発している。犯罪抑止のため全駐在員を珠洲警察署に集めて、4月から3交代制で対応にあたっているためだ。一方で、駐在して欲しいという意見、要望もたくさん頂いている。私も必要性を感じており、6月から日中に、できるだけ駐在所で活動するようにしている。大谷駐在所については、3交代制の勤務日の日中に事件・事故の取り扱いがなければ、駐在所を拠点に駐在所の活動を行っている。公費解体業者の出入りが多く、人の出入りが多いと犯罪も多くなるので、パトロールを中心に活動を続ける。一部で駐在所が廃止になるのではないか、という話が出ているようだが将来的に復活できると考えている。

豪雪時の対応については、1月1日の地震で道路が寸断し、警察官が辿り着けなかった。9月21日の豪雨時も同様だった。こうしたことを教訓に、今後は当面、大雪時は大谷駐在所を外浦の活動拠点としていきたい。大雪の予報が出た際や、孤立の恐れが予想された際、複数の警察官が衛星電話を持って外浦地区に入り、大谷駐在所を拠点にパトロールをしていきたい。SUVタイプのパトカーも運用していきたい。大谷駐在所には、災害時に必要な装備や食料、燃料を配備した。孤立するようなことが万一あれば、消防分団や区長等と連携協力しながら、外浦地域の治安維持に当たりたい。情報共有を含めて協力願いたい。

**市長：**

「新たなまちのかたち」については、これからも4つのエリアで議論していただきたい。

**計画情報研究所：**

まずは今の復興方針図に載っているものを1月～2月にかけて、市役所の方々と出来る、出来ないを検討して、3月頃に皆さんと議論できる時間を作りたい。

**市長：**

これからも地区ごとでアイデアを出して欲しい。「新たなまちのかたち」の方針を実現していくことが大事。より魅力のある最先端の復興に向けて具体的に進めていきたい。

以上

令和6年度 第3回珠洲市復興計画策定に係る意見交換会 協議記録

日 時	2024年12月19日(木) 18:00~20:40
場 所	上戸小学校 体育館

参加者:54名

マスコミ:2社程度

泉谷市長

区長会長 中川 政幸(上戸町第2区長)

市議会議員 三盃 三千三

市役所担当

総務課 加賀課長

環境建設課 大宮課長、川角課長補佐、新係長、高橋主幹、和田主任技師、井上主任技師、  
本多専門員

福祉課 三上所長

復旧・復興本部 濱野局長、西次長、河原係長

計画情報研究所 米田、喜多

建設技術研究所 伊藤

【開会のあいさつ】

中川区長会長：

本日は第3回目の復興計画にかかる意見交換会にお集まりいただいた。上戸町は資料にある通り、8月下旬に区長会と各種団体で上戸地区まちづくり協議会を立ち上げた。9月に町民の皆さんに復旧復興についての意見や要望を出してもらった。多くの方に協力いただいた。9月21日から22日に豪雨被害もあった。少し予定より遅れたが11月16日と11月23日にまちづくり協議会を開催して、皆さんの集約した意見や要望を珠洲市に伝えた。本日は具体的な復旧復興についての話があると思う。まだ先行きが見えない。将来どうしようかと迷っている方も多くいると思う。これからの上戸町をどうするか、あるいは個人的な事でも構わないので遠慮せずに意見を出して欲しい。

三盃市議会議員：

今日は雪が降っており、これからの団地内の除雪や道路状況に気を付けて頂きたい。資料以外にも日頃考えていること、思っていることがあれば今日の機会を活かして意見を出して欲しい。

市長：

復興に向けた意見交換会も3巡目になる。1/1の震災から間もなく1年。9月に豪雨災害があった。上戸町においては小学校にある応急仮設住宅が床上浸水した。川の氾濫もあり、農地に大量の土砂や流木が入った。まだまだ厳しい状況の中、寒い中大勢に集まっていた。農地の復旧復興にしっかり取り組まないといけない。復興計画について、これまで多くの意見を頂いてきた。修正を加え実現可能なものは修正した。そろそろ内容について固めたいという気持ちがある。復興計画で大切なのは市内

10 地区（24 地区）の新たなまちの形をどうするかだ。議論を重ねて進めていくことが大事になってくる。上戸公民館をどうするかというのも重要な課題だ。上戸町の復興方針図を初めて見る方もいらっしゃると思う。皆さんの想い、ご意見を頂きたい。今後は災害公営住宅の建設を進めていく。どこに整備するかも意見を頂きたい。一方で自力再建を考えている方もいる。住まい再建支援金制度を 10 月議会で決めた。色々な支援ができるようになっている。12 月議会の承認を受け、一部損壊の方にも支援できるようになった。子育て世帯は 15%補助で上限 300 万円の支援制度を準備している。一部損壊、準半壊いずれも上限 30 万円の補助を用意しているところ。災害公営住宅も含め、住まいについても本日説明したい。資料の中に坪単価 80 万円とあるが相当上がっていると聞いている。改めて色々な意見を頂きたい。

### 【復興計画案の説明】

#### 復旧・復興本部：

策定委員会や意見交換会等でいただいた意見をできるだけ反映させる形でとりまとめを進めている。この計画は、今後、珠洲市が進める総合的な施策を整理している。復興方針図に基づき、優先順位をつけながら各地区のまちづくりを進めていく。

<資料に基づいて復興計画案の施策内容を説明>

<上戸地区の復興まちづくり内容を説明（計画情報研究所）>

<年明けからの意向調査ご協力をお願い（計画情報研究所）>

<住まいの再建と災害公営住宅について説明（環境建設課）>

### 【参加者からの意見】

#### 参加者：

復興方針図は、災害公営住宅の建設など要望があった箇所を図にまとめたものだと思うが、要望を市で選定した結果を単に掲載しただけのものなのか知りたい。市の主体性について知りたい。

#### 市長：

皆さんで上戸町をどうしていくかという議論が一番重要だ。それを取りまとめたものを示したものだ。復旧については、しっかり復旧していく。その上で、この道路は広げた方が良いとか、上戸町の公民館はこういうのが良いとか、色々な意見が出ている。こちらについては、できるだけ実現していきたい。そして、この議論はこれからも継続していただきたい。道路の幅を広げるとなると、近所同士で意見が合わないと中々前に進まない。あるいは、災害公営住宅にしても地権者の意向が大事になってくる。少し限られたエリアの中で、しっかり議論を続けることが大事になる。先ほど自力再建に対する支援の話をした。道路の拡幅とちぐはぐになってもいけない。こうした議論も、これからのに向けて大事になるので、皆さんとキャッチボールをしながら進めていきたい。

#### 計画情報研究所：

皆様からいただいた意見を復興方針図で示している。今後、これらの事業について短期であるもの、長期で検討していくものを区分して、まずやらなければならないことを皆様に示したい。1月に意向調査をさせてもらい、道路については家が建っているか、いないのか、現地を再度確認して、どこからできるか検討を進めていく。

**市長：**

意向調査により、更地になった場所で地面に執着もない方から、手放しても良いなど具体的な話も出てくる。個人情報に関わる場所にもなるが、皆さんがイメージしやすいように示していけたらと思っている。土地のやり取りも出てくる。珠洲市が不動産業としての介入はできないが、皆さんの間で、やり取りできるようになれば良いと思う。具体的に進めていけたらと思っている。

**参加者：**

復興方針図を見て腹ただしいな、こういう方針なのだと思った。提案したものがそのままではなく、市の考えも入れるべき。方針としては、実行段階ではないなと思った。緊急性などにこだわるのはやめましょうと国に話すと、優先順位があると言われる。優先順位も大事だが、1歩でも前に進むことが大事だ。1歩でも進めば、周りの住民もやる気になる。流木の除去などを手伝ってくれているボランティアから元気をもらっている。毎日これだけ進んだと実感できる。前に進めることが大事なので肝に銘じて欲しい。公民館の再建について9月21日の豪雨で建て直しが必要になった。4ヶ所候補地が示されているが、本当に建つのかなと思う。現時点で、建つのが望ましいと書いてある。公民館はコミュニティセンターとして重要な施設だ。コロナ前は年間1万人が利用していたと聞く。小学校も大事だが、早めに再建を進めて欲しい。方針が生煮えのまま出されてもどうなのかなと思う。飯田、宝立、直の公民館を見学した。上戸の公民館にはトイレがない、駐車場がない、看板すらかけられない。上戸は地域として活動ができていない状況。

**市長：**

おっしゃる通りだと思う。復興方針図は、皆さんが議論した現時点での「まちのかたち」を示したものだ。皆さんから頂戴した意見を検討して、こういった形で進める、というところまで固まっていない。今後も色々な意見が盛り込まれれば、更に良い「まちのかたち」になる。それに基づいて、具体的に進めていきたい。上戸町を考える上で、公民館をどうするかは大事な話と認識している。上戸公民館は震災前から老朽化が進み、令和6年度からは、旧上戸保育所に移転する計画を持っていた。ところが震災で、旧上戸保育所のグラウンドにも応急仮設住宅を建てた。駐車場のことなども含めて、このままの状態が良いのかと私もずっと悩んでいる。公民館を建てるのに上戸町の一番良い場所はどこなのか、皆さんで議論いただきたい。元々の場所で建て直すことも考えられるが、不便な場所であり、駐車場が手狭という問題がある。学校も児童数が少なくなっているが、私は地域と学校は一体のものだという考えを持っている。震災によって児童数も3割ほど減っている。各地区で意見交換をする中で、学校を統合すべきだという意見も非常に多い。しかし、一旦出た児童が、やはり蛸島小学校に通いたいと戻ってきたケースもある。学校が統合して地域から無くなるのはどうかと思っている。統合といっても、来年からという訳にはいかない。校舎も傷んでいるところがあり、ここは復旧していかなければならない。これから学校はどうか、慎重にしっかりと議論して、次のことを考えていきたいと思っている。悩ましいが重要なこと。自分とすれば皆さんが一番良いと思っている場所に公民館を建てたい。

また旧上戸保育所の仮設住宅については、原則2年だが、他の地域の事例から、住まいの目処が立つ

まで3～5年延長される可能性がある」と認識している。そのため、公民館の敷地とするのも問題がある。そういうところも含めてしっかり考えていきたい。

**参加者：**

トイレと駐車場だけでも何とかならないか。

**環境建設課：**

現在、仮に使用している旧上戸保育所のトイレは、浄化槽が壊れており、園児用と男女区別のない状態になっている。真ん中で男女を仕切り、大人用として使えるようにするための設計が明日終わるところ。年明けに発注して、春頃の完成を目指している。

**参加者：**

(公民館の) 看板がかけられない理由はどうしてなのか。

**総務課：**

条例で上戸公民館はどこそこにあると住所を表記する必要がある。条例で地番を変えれば、簡単にかけることができる。

**市長：**

まだまだ震災の対応で、そこまで至っていないで申し訳ない。正式に上戸公民館を旧上戸保育所に一旦設置することで固まれば、3月議会で設置条例を変更して、看板をかけることは可能であるので、また意見をいただければありがたい。

**参加者：**

山王橋の復旧が示されている。基礎まで崩壊している。どうなっているのか。早急に実行していただきたい。

**市長：**

道路も上下水道、海岸の護岸等全て同じだが、本復旧に向けて調査設計を進め、災害査定を受けているところ。年内に全ての災害査定が終わるよう進めている。査定が終わり次第、本復旧に向けて入札に進んでいく。規模や箇所の関係で、入札が完了し、発注できるかが懸念点である。再度災害への対応については、応急的な対応で、可能な限り安全性を確保していく段階。中々手が回っていないところもあると思う。

**環境建設課：**

先ほど言っていた道路は、9月21日の豪雨で大きく崩れた箇所のことだと思う。現状としては、地上から海に向かって右側の部分の護岸、海岸護岸は応急復旧してもらった。ご指摘の山王川の左岸側が大きく崩れているところだと思うが、地元業者をお願いしているところだが、中々手が回ってない状況。緊急に対応すべきものなので、契約なしで進めており、緊急で直して欲しいと依頼済みだが、まだ復旧までには至っていない。

**参加者：**

緊急を要する被害になっているので、被害が大きくならないうちに工事して欲しい。

**市長：**

おっしゃる通りで、早急に取り組んでいく。

**参加者：**

経済的な不安もあったが、準半壊も補助があると聞いて安心した。既に工事が終わったものでも対象になるのか。

**市長：**

既に工事が完了したのも対象になる。1月1日以降に修繕した部分について、申請いただけたら良いが、まだ申請の準備中で、年明け以降の受付となるため、もう少し待ってほしい。一部損壊、準半壊の方で耐震補強の工事は250万円定額で市が補助する。一部損壊の方は、20万円以上の工事が対象になる。そこに300万の耐震工事を含めた工事の場合、250万円は耐震工事としての補助が出る。はみ出た部分の50万円の1割補助で、5万円を加えての補助となり、うまく組み合わせて活用してほしい。上限は30万円。準半壊は、100万円を超えた場合が対象となる。こちらも耐震工事を含めると250万円以上の補助となる。地盤が傾いて、直す場合は900万円余りまで補助が出る。個人負担は50万円と残り2割。一部損壊なども対象となる。色々な支援があるので相談して欲しい。環境建設課が窓口になる。

**参加者：**

公費解体により風が直接当たるようになった。ボランティアをお願いして、4回ブルーシートを屋根に張ってもらったが、ブルーシートがめくれる。しっかり張ってもらって、もう大丈夫だろうと言われても風が吹くと不安になる。屋根瓦の工事を早急にしたいが、何らかの対応をお願いしたい。また、道路の轍掘れにより、解体工事業者のトラックの振動が大きい。大型トラックだと砂利も飛んでくる。

**市長：**

ブルーシートについて、最初の1回は緊急修繕で5万円の補助があった。2回目以降は補助がなく、ボランティアに依頼しないといけない。その間に瓦の修理が終われば良いが、業者も手が回っていないため、我慢してもらわないといけないかと思う。また、道路は碎石を入れただけで、アスファルト舗装はされていないとのことだが、環境建設課の方で現地確認し、対応したい。

**参加者：**

上戸町のまちづくり協議会で議論していただき感謝したい。まとめたという資料を本日見せてもらった。農家の立場で話したい。合意形成が一番肝心なところだと感じた。たたき台という説明だった。復興方針図の中で、私が住んでいるところが豪雨災害からの復旧ということで破線表示されている。私の想定では、破線の辺りまでが田んぼとして復元が比較的やり易いということで整備されたのだと思う。復旧無くして復興は無いので、市単独ではなく、県なり国の予算を含めた災害復旧をしっかり行なって欲しい。破線から外れたところに約3,500㎡の田んぼを持っている。復旧が難しければ、田んぼから畑にしようかと思っていたところだ。調査するのであれば立ち会うので、点線の範囲を、基盤整備した範囲を含むような形に修正して、災害復旧事業として対応して欲しい。もう1点、復興計画について、災

害に強いまちづくりが第一に挙げられていて安心した。SDGsなどの施策もどんどん進めて欲しい。復旧が遅いと感じている。里山海道の復旧や作業員向けの宿泊施設不足があるのではないか。奥能登2市2町挙げて対応して欲しい。道路は迂回路なども作ってほしい。

**市長：**

復興方針図の赤い破線については、大体この辺りというイメージで、破線外の箇所はやらないということではない。被災した農地は復旧していくので安心してほしい。来年の作付けに間に合うよう、復旧ができそうな所と時間がかかりそうな所が出てくる。石川県の方で、ここだったら頑張れば、来年の作付けに間に合うという所から復旧を優先し、その後2年ほどかけてやる所、時間がかかりそうな所と区分けして進めていくのが石川県の方針だ。この春も被災して、頑張って復旧し、5割程度は作付け出来たと思う。刈り取りの矢先に豪雨により被災しているので、来年できるようにやっていかないと収入が得られないという問題も出てきている。色々な補助制度もあるので、相談いただければ案内できる。農業用の機械の再取得など、再建については自己負担が1割になる制度となっている。色々な制度があるので活用して欲しい。トキの放鳥に向けても計画しており、田んぼを復旧する時には、餌場にできるよう農林水産省に要望を出している。具体的に進むよう働き掛けていきたい。ボランティアや作業員向けの宿舎は、上戸町では業者の方が泊まれるように整備を進めている。民間は民間で色々取り組んでいる。能登里山海道は2007年の能登半島地震の時に大きくやられたが、復旧し強靱化した。強靱化した箇所については今回被害が出ていない。その時に被災していなかった箇所が今回やられてしまった。里山海道、能越道については、国の権限代行で復旧が進められるので強靱化されるものだと思われる。これを機会に、珠洲道路も高規格道路に昇格するよう働きかけているところだ。より強靱なインフラ、快適な町並みになるよう取り組んでいきたい。

**参加者：**

土砂の撤去や、流木の撤去を一体的に進めて欲しい。国・県を挙げての対応をお願いしたい。

**環境建設課：**

一体的な土砂や流木の撤去は、県が小規模な場所からやっっていこうとのことで、コマツ石川のところから何とか進めている。水が多くて、中々進まない状況ではあるが、石川県の協力もあり、県外、市外から業者が来て対応してくれている。

**市長：**

大臣や副大臣、政務官、国会議員等もどんどん来られている。その時に、できるだけ清水の現状も見てもらっている。大谷町は山一つが崩れ、土砂が酷い状況だが、道路の部分は国土交通省に土砂撤去を進めてもらった。本来であれば、農地や宅地周りの土砂は、珠洲市が農林水産省、あるいは国土交通省の補助をもらいながらやる場所だが、お願いをして国土交通省に一括して撤去していただけることになり、作業を進めてもらっている。土砂撤去は、権限代行ではないので、後で珠洲市に請求書が来ると思うが、県はじめ、国の支援をいただけるよう努めたい。基本的には、珠洲市が事業を進めていかなければならない。

**参加者：**

警察の前の道路だが、トラックの往来が激しい。振動が大きく、家が揺れる。市に相談したら県土木

が所管だということだった。県土木の話だと市の下水道（マンホールの空洞）が原因ではないかとのこと。復旧を早急に進めてもらいたい。この前の、国会中継を見て思ったが、準半壊と半壊の違いは大きい。

**市長：**

修繕については、一部損壊、半壊と準半壊で生じる差を補填する制度にした。地盤の改良や耐震補強にも制度を用意したので、活用して欲しい。マンホールが飛び出て、車が通れないような所は、マンホールの切り下げを進めてきた。朝の5時半くらいから解体関係のトラックが通るので、目が覚めてしまう方がいらっしやると思う。何度も解体業者に注意喚起をしているが、難しい状況だ。現地を確認する。

**参加者：**

振動により、家の修繕費が増えないか心配している。

**市長：**

現地を確認する。マンホールの対策をすることで、変わりそうなら対応できればと思う。

**参加者：**

解体業者がゴミを落としすぎる。解体業者に言えないのか。シートをバタバタさせて走っている。

**市長：**

既に何度も言っているが、改めて強く注意していく。スピードを落とせば、揺れの問題も少なくなる。健康増進センターの前で解体業者のトラックが横転し、停電まで発生させた。改めて要請していく。これから雪が降る。雪道に慣れていない業者もいる。石川県構造物解体協会と相談して、1月～2月は県内事業者だけに絞ってやってもらうようにした。250班体制から50班体制になるため、解体のスピードは落ちるが、珠洲市は進捗が早いため、来年10月には完了できると思う。鉢ヶ崎の仮置き場も満杯だ。トラックの数を減らせば、道路の修繕もできると思う。一方で、解体した後の更地を見て、解体しなければ良かったという方もいる。解体の申請をしても、心変わりがあれば解体を取りやめることができるので相談して欲しい。

**参加者：**

液状化について、市はどのように考えているのか。

**市長：**

液状化対策の方法は2つある。一つは、行政での対応（10軒以上で3,000㎡以上）である。この方法は、対策しても一生水を抜き続けられないといけない。ランニングコストもかかってくる。かほく市では何百億円という話だ。エリアの全員の同意も必要なので、工事も長期化する。熊本では8年かけても、未だに工事中という状況である。国土交通省に問い合わせた。液状化の対策は、方法に関係なく、公ですか個別ですかということだった。珠洲市においては、エリアを括って対応するのは難しく、補助制度を使って個別に対応していただきたいと考えている。液状化ハザードマップも公開されているが、メッシュが粗いため、より詳細な調査を要望している。更地にして新築する場合は、地盤調査が費用の中に入っていると思う。

**参加者：**

上戸第4団地に住んでいる。飯田方面に出ようとすると縁石が邪魔になっている。何とかして欲しい。

**市長：**

県道なので県と相談して、対応できるようであれば対応したい。タイヤがぶつかりそうになるか。

**参加者：**

タイヤが当たる。

**市長：**

早急に対応する。

**参加者：**

正月の災害以来、危険ゴミ（乾電池やスプレー缶）の収集が始まらない。あと、水害において耕作地の表土が流されたが、どうすれば良いか。

**環境建設課：**

危険ゴミの収集は、燃えないゴミで出していただいて良い。来週月曜に回収予定である。

**市長：**

11月から危険ゴミの回収を再開している。畑の土が川の氾濫で流れてしまったとのこと。また調べて回答する。堆積した土砂のことばかり考えていたが、元々の土が流されることも被害になる。

**参加者：**

珠洲に足を運んでいる専門家が、これだけ遅れている被災地を見たことがないと言われた。行政が悪いと思っははいない。市役所の皆さんも被災者であり、工事を担う業者の方も被災者であるから中々復旧が進まない。じゃあどうするかと言うと、県外業者を呼ばないといけない。予算がついても業者がいない。お金が合わないという理由で県外業者も来てくれない。1年かかって、補正予算が成立した。色々なチャンネルを利用して復旧・復興を早く進めて欲しい。国は能登の復興に本腰を入れていないと思う。過疎地に見合った復興という言葉も聞いた。補正予算もついたとのことで、何とか働きかけをして欲しい。

**市長：**

国の姿勢に対しては誤解があるように思う。岸田前総理より予備費7,000億円を発災直後から、補正予算を通さずに充当してもらっている。そのお金で応急復旧を進めている。応急復旧なので、調査、設計、入札、発注をせずに随意契約で進めている。単価が合わないからやりませんという話にはならない。実際に動いてもいる。国が本腰を入れていないということはない。本腰を入れていないという話は国（財務省）ではなく、財政審の小委員会での話だ。私としては、それぞれの地域の再生をしっかりと成し遂げていきたい。ここは世帯数が少ないから、ここから先は道路を復旧しない、ということはダメだと思っている。国土交通省等がよくここまでしてくれているなど、国の対応にありがたい話は多くある。石

川県がやらなければいけない国道 249 号の復旧は、権限代行で（国に）行なってもらっている。大谷川も豪雨で大変なことになった。本来なら、大谷川の規模の川だと国は手を入れないが、権限代行で復旧を手掛けてくれている。海岸堤防も同じだ。真浦と仁江も寸断されて、トンネルの出口をふさいでいる土砂の量はとんでもないことになっているが、国の方から依頼された建設会社が対応してくれた。補正予算が通る前に予備費で迅速に対応してもらったことを理解していただきたい。復興基金は、熊本地震の時よりも 200 億円ほど多く創設してもらっている。私としては、同額くらいだったらありがたいと思っていた。今まで国が何もしてくれなかった、予算をつけてくれなかったということはないのでご理解いただきたい。

**参加者：**

豪雨災害による公費解体の受付は始まっていないと聞いた。いつ頃になるか。私有地の畑に流木が流れ込んだ。道路の流木は片付いているが、畑の流木撤去はどうなるのか。県道から市道に格下げになった道路に風力発電の電線が埋設され、掘り返された。そこをトラックが通行し、水や土砂が溜まっている。掘り返された所も直して欲しい。

**市長：**

時間がかかるかもしれないが、道路はしっかり復旧していく。対策がいつになるかはっきり言えないが、対策は講じていく。豪雨災害による解体は、半壊以上を対象とすることまで決まった。要綱を早急に整備して、できるだけ早く受付を始めたい。私有地の流木撤去は、珠洲市で対応しないといけない。ボランティアの方が一生懸命やってくれてありがたいが、本来は行政がやるべきこと。珠洲市の対応が待てないようであれば、自分で業者をお願いして、施工代を立て替えてもらうこともできる。既に撤去された方も対象になるので、環境建設課に相談していただきたい。

**参加者：**

旧上戸保育所の信号がある交差点から、学校に向かうと丁字路があり、カーブミラーがある。コンクリートブロックが倒れ、カーブミラーも倒れている。市に言ったが、全然動いていない。手で触ってもブロックが動くので危ない。それと納屋が倒れて、道路が狭くなっている所がある。市で対応することはできないのか。カーブミラーと同じ地主で、連絡はもう取れない。

**市長：**

危険性のある、道を塞いでいる、隣の家寄りかかっているものについては、申請があれば、早急に対応できる。申請が出ていない、所有者と連絡がつかない、相続されていない等については、所有者不明などの手続きを踏まえて、やれないことはないので対応していきたい。大事な課題だと認識している。後ほど具体的な場所について確認したい。

**中川区長会長：**

まだまとまり切れていない点もある。地図で示されているものは、できるだけまとめたが、更にまとめていくのがこれからの課題だ。皆さんとこれから協議、相談を重ねながら、まとめられるところはまとめていたいと思っている。色々な意見があり、とりまとめにどうしても時間はかかるため、3月までにまとめるのは難しいと思うが、協力していただきたい。市とのやり取りも、もっと綿密にしていきたい。

**市長：**

「まちのかたち」の議論は、年度を跨いでも問題ないので、細かい部分は丁寧な議論も必要になる。しっかりと煮詰めて、具体的に進めていきたいと思っている。

以上

## 令和6年度 第3回珠洲市復興計画策定に係る意見交換会 協議記録

日 時	2024年12月20日(金) 18:00~20:30
場 所	蛸島小学校 体育館

参加者:50名

マスコミ:2社程度

泉谷市長

区長会長 梧 光洋(仲町区長)

市議会議員 堺 健司

市役所担当

総 務 課 加賀課長

環 境 建 設 課 大宮課長、川角課長補佐、新係長、高橋主幹、樋口主任技師、井上主任技師、  
高濱主幹

福 祉 課 三上所長

復旧・復興本部 濱野局長、西次長、河原係長

計画情報研究所 米田、喜多

建設技術研究所 伊藤

### 【開会のあいさつ】

梧区長会長：

いよいよ第3回目ということで、災害公営住宅等について、少しずつ具体化されている。皆さんの意見が反映されていると思う。忌憚のない意見をお願いしたい。

市長：

各地区において、復興計画についての意見交換会が3巡目となった。地震から1年になろうとしている。9月には豪雨災害もあった。環境が大きく変わって、まだ厳しい状況だと思う。復興計画については、これまでご意見をいただいていた。そろそろ、まとめていきたいという思いがある。改めて説明するので、意見や要望を聞かせていただきたい。復興に向けて大事なものは、市内10地区の「新たなまちのかたち」だ。6月～7月に開催した最初の意見交換会の時から、珠洲市から離れている方もおり、話し合いが難しい中、蛸島地区は熱心に話し合いをされている。初めて見る方もいると思う。ここはこうした方がよいなどの意見をいただきたい。蛸島町の解体は早く進んでおり、およそ75%(766棟中579棟)を超えてきている。災害公営住宅の整備を進めていくが、自力で再建したい方もいる。資材や人件費の高騰が起きている。珠洲市では住宅再建支援金制度を設けた。一部損壊や準半壊の方にも、地盤改良に関する補助金や修繕に対する補助制度なども設けた。遡って適用が可能なので、活用いただきたい。復興計画について、「新たなまちのかたち」について、災害公営住宅を含めた住まいの再建について説明する。様々な意見や要望をお願いしたい。

### 【復興計画案の説明】

#### 復旧・復興本部：

策定委員会や意見交換会等でいただいた意見をできるだけ反映させる形でとりまとめを進めている。この計画は、今後、珠洲市が進める総合的な施策を整理している。復興方針図に基づき、優先順位をつけながら各地区のまちづくりを進めていく。

<資料に基づいて復興計画案の施策内容を説明>

<蛸島地区の復興まちづくり内容を説明（計画情報研究所）>

<年明けからの意向調査ご協力をお願い（計画情報研究所）>

<住まいの再建と災害公営住宅について説明（環境建設課）>

#### 【参加者からの意見】

##### 参加者：

今、地域の方の意見を聞いて反映させたと説明があった。要望通りにできないことも多々あると思っている。行政側で検討した後で示してもらった方が良い。豪雨災害があった。災害対策が一番肝心で、それを示してもらわないと、まちづくりにならないのではないか。行政としてどう考えているのか。若い人が出ていくと、残った人たちの税金が高くなると聞いたが本当か。

##### 市長：

皆さんが蛸島のまちをどうしていきたいかが大事だ。たくさんの意見や要望をいただき、地図に落とし込んだ段階。これで終わりではなく、これから検討を進めていく段階。道路を拓げることなどは、丁寧な検討が必要だ。皆さんの方で土地をやり取りすることも出てくると思う。大がかりになれば、土地区画整理事業も必要になる。まずは、意向調査を記名式で行い、詳細に進めながら煮詰めていきたい。もう少し時間がかかる。しかし、早く家を再建したいという方もいる。早く示して欲しいという方もいる。まずは皆さんの意見を復興方針図にまとめた。復興プランについて、今日も意見をいただいて加えていきたい。これからの災害対策として、復旧はしっかりやっていく。蛸島川の復旧、海岸堤防の復旧はしっかりと進める。若い人が出て行ったら税金が高くなるなどの話について、そういったことはないので安心して欲しい。

##### 参加者：

県の災害援護資金貸付金制度（石川県）について、家を再建する際に350万円を借り入れすることができると聞いている。市の総務課に聞いたら、珠洲市では今止めているとのこと。社会福祉協議会の生活福祉貸付金の150万円をやっているから、珠洲市では県の貸付制度について受け付けていないとのことだ。もう少し使う人にとって情報を分かりやすくできないか。350万円と150万円では、支援金額の差も大きい。解体が終わったあとに義援金をもらう計画でいる。貸付金制度も使いたいと考えている。

##### 市長：

珠洲市でなぜできないのかも含め、詳しく調べた後に回答する。

**福祉課：**

個別で相談対応していきたい。貸付だけでなく義援金や支援金の話とか、家の状況によって相談に乗らせて欲しい。

**参加者：**

県の災害援護資金貸付金制度は受付終了したとある。

**福祉課：**

世帯主が全治1か月以上の重症を負った場合や住宅や家財に大きく被害を受けた場合など、発災直後で緊急性を必要とする制度のため、現在終了しているのもであろうと思う。他の制度も絡めて個別で対応する。

**市長：**

援護の融資であって、新築とはまたジャンルが違うのかもしれない。調べて回答する。

**参加者：**

震災後1年となるが、失ったものが多く不安が募る。市のホームページを見ると支援するという言葉が多い。一方で、支援金は決まり事が多すぎる。罹災証明は建物への被害に対してだ。心の復興に対する支援が少ない。珠洲市の独自の義援金などあれば、罹災証明に関係なく平等に配布してほしい。

**市長：**

義援金は14億円程度ある。配分計画通りだと赤字になる状況である。最初8億円頂いた時に、全壊の方は50万円という基準で計画し、14億円の配分計画を作った。既に6億円不足していたため、ふるさと納税などで賄おうと決断した。未だに義援金が残っているという状況ではない。言われていることはよく分かる。しかし、基本的には、どこで起きた災害でも全壊で家を失われた方に手厚くというふうになってしまう。石川県では皆さん大変な思いをされただろうからと、義援金の配分を全壊でも一部損壊でも一人5万円と打ち出された。その後、全壊の方に手厚く配分した。準半壊、一部損壊の方にももう少し配分できないかということで、石川県の義援金の第3次配分では手厚く配分した。全壊の場合は、県180万円、市50万円ですべて230万円となっている。半壊だと県が45万円、市が10万円ですべて55万円、一部損壊は県が10万円、市が3万円ですべて13万円。義援金に余裕があれば、市の2次配分として一部損壊、準半壊の方にも可能な限り手厚く支援できるようにはしていきたい。準半壊、一部損壊の方向けの制度も設けたので活用いただきたい。

**参加者：**

道路が液状化して周囲の宅地が斜めに下がった。それにつられて建物も傾いた。地盤改良にお金を払いますという話だ。環境建設課に行ったが、更地でないと駄目だと言われた。

**市長：**

対応した職員が間違った回答をしている。建物が残っていても使える制度になっている。

**参加者：**

建物を耐震化しないと駄目なのか。

**市長：**

建物の耐震は250万円まで出る。宅地だけの改良で、耐震化しなくても8割補助は出る。大規模修繕で、地盤とは別に建物で800万円以上かかった場合は、1割補助（上限100万円）が出る。色々な組み合わせをすれば、結構な額になると思うのでまた相談して欲しい。

**参加者：**

中規模半壊でも大規模半壊でも半壊の場合、解体すれば全壊並みの支援金がもらえると思う。私の周りの半壊の方でも、その情報を知らないという人もいる。広報を含め、きちんと説明して欲しい。生活再建支援法の適用で基礎支援金と加算支援金があると思うが、支援金や義援金の違いについても説明して欲しい。県からも頂けると思っているが、自分が勘違いしているのか分からなくなる。

**市長：**

半壊であっても解体撤去した場合、全壊と同じ扱いになる。義援金は、一旦半壊の分として振り込んでいると思うが、解体完了届が出た段階で、差額分を振り込む形になる。被災者生活再建支援金も半壊で解体した場合は、全壊と同じで、そこから新築する場合は加算支援金が出る。お話されたのは、地域福祉推進支援臨時特例給付金のことかと思う。こちらについても色々条件がある。

**参加者：**

聞きたいことはその給付金じゃなくて、市と県からもらえるかどうか。

**総務課：**

生活再建支援金は国の制度。珠洲市で受け付けて、石川県を経由して国から支払われるもの。珠洲市が100万円、県が100万円とかではなく、生活再建支援金は全壊、もしくは半壊以上で解体する場合に基礎支援金が100万円、これ以上の上乗せはない。新築等をした場合は、最大200万円が加算支援金として支払われる。合わせて300万円となり、それ以上の上乗せはない。

**市長：**

勘違いされたのも分かる。昨年令和5年5月の時は、全壊が40戸で義援金も手厚く配分できなかったこともあり、国の被災者生活再建支援金と同額分を珠洲市が独自に上乗せしたので、ダブルで支払われた。おそらく、その制度と混同されているものと思われる。今回は、あまりにも全壊戸数が多いので、珠洲市の財政のこともあり、そこまでするのは中々難しい。今回は、市が国と同額分を上乗せすることは考えていない。ただ、先ほど申した通り、市独自のものではないが、地域福祉推進支援臨時特例給付金もあるので、活用いただけたらと思う。

**参加者：**

島の地の一部を水害対策、蛸島川は洪水被害もあり、床上浸水したところもある。河川を拓げないといけないと考える。これまで度々浸水している。地球温暖化も含めて、よりリスクが高まっている。これまでのように護岸を直すだけでは再建できない。そのような場所で自宅を再建して良いか分からない。3年かかると制度が使えなくなる。川の工事はどうなるのか。

**環境建設課：**

蛸島川の復旧方針は、国の補助事業を受けるため災害査定を終えた。来年工事発注し、令和8年完成を目指している。災害復旧工事は、今の川幅、護岸の高さの原形復旧が基本になる。しかし、一部浸水したところは災害復旧と改良工事、例えば部分的に嵩上げする、上流に遊水地を設ける、下流側に分水路を設けるなどが挙げられる。蛸島地区の皆さんの土地を買収してからの形でないと、中々事業化できない。復旧工事、改良工事だけで100%対応できるか、となると難しい。ハードとソフト、避難していただくことも含めて、検討していかなければならないと思っている。現時点では、こういう回答しかできない。被災者生活再建支援金は令和9年2月までとなる（発災から37ヶ月）。約束できないが、資材や職人が不足していることから、状況を踏まえて段階的に伸びる可能性がある。住宅の応急修理制度も国の制度だが、現時点では令和7年12月完成となっており、1年伸びている。

**参加者：**

補助金は使えないと頭から言われたので、解体を選ぶしかなかった。期間が延びるのであれば、解体申請を取り下げた。上から目線で対応しないで欲しい。

**市長：**

皆さんに寄り添った対応ができるように徹底していく。蛸島川の復旧が遅れると新築をためらう。そうすると、生活再建支援金の期間が過ぎて、もらえなくなるようなことがないように、見通しを示しながら進めていく。

**参加者：**

島の地に住んでいる。この間の協議会で、水害対策は難しいと言われた。宅地整備の要望を出したが現時点で支援金を使えるのは令和9年2月まで。それまでに宅地整備して、建てていいですよとも、あと2年程度しかなくて、家が建つ未来が見えない。現状、契約だけしていれば良いのか教えてほしい。

**総務課：**

生活再建支援金の加算部分は、申請時点で契約が終わっていれば、完成していなくても大丈夫である。ただし、場所は決まっている必要はある。

**参加者：**

それまでに宅地整備の候補地は考えてもらえるのか。

**市長：**

「新たなまちのかたち」で災害公営住宅と住宅地の整備・造成もやってほしいというエリアもある。地権者との調整が必要だが、宅地造成できるのであれば対応していきたい。島の地に誰もいなくなって、コミュニティとしてどうなのか、ということになるが、その辺りも含めて、島の地の方々での議論も必要だと思う。年明けに記名式の意向調査を行うため、協力をお願いしたい。島の地には何軒くらい再建するのか等、様子が分かってくると、考えが変わることも、考えが固まることもあると思うので、丁寧にやり取りしながら進めていきたい。できる限りの水害の対策や、蛸島川の復旧に取り組んでいきたい。

ただ、宅地の場所が決まっても、造成にも時間がかかるし、用地の取得にも時間がかかる等もあるかと思う。要望に沿って、可能な限り対応したい。

**参加者：**

まず考えなければならないのは、液状化被害と水害への対策をどうするかだ。これらの抜本的対策をしなければ、復興計画にならない。蛸島川については、堺議員も質問しているが、復旧工事だけでは再び浸水する。三面張りの護岸工事が終わった後に浸水している。汚水が井戸に入るなど、大変な被害があった。今回も豪雨のためと言うが、世界的な温暖化の影響だと思う。もう少し真剣に考えないと、復興にならないと思う。環境建設課の説明では、そのまま直すとのことで、それは当然だと思うが、それは通常の災害でのこと。将来の蛸島川のことを考えると、抜本的な改良が必要だ。分水路を設けるのが本来の復興だ。そうすれば蛸島港も浅くならないし、最良の解決方法じゃないかと思う。もう一つ、建築の支援が問題になっている。国は東北、あるいは熊本、広島などの地震や水害と同じ扱いをしている。おかしい。能登は数千年に一度の地殻変動が起こった。国はもう少し能登に目を向けて、支援金も横並びではなく、能登を大事にして欲しい。総理大臣は被災者に寄り添って、と言うが言葉だけだ。2~300万円の家は建たない。大阪万博を控え、作業員や資材がひっ迫している。このままでは珠洲が傷つく。もう少し国が力を入れれば、復興の兆しが見えてくる。あと定住したくても働く場所がない。これが若者流出の原因。生業再建は大きな課題だ。説明のあった復興計画は、画一的なものだ。珠洲独特の珠洲らしい提案があると非常にありがたい。蛸島地区に105戸の災害公営住宅が必要と説明された。現在70戸が蛸島に住んでいると聞いている。300戸が離散してしまっている。ポツンと一軒家を建てる人はいない。その辺りも考慮して、提案してもらいたい。市長には、国にも県にも要望してもらいたい。一番は蛸島川の大改修。

**市長：**

蛸島川の線形改良は難しいと思う。今言ったように、バイパスをつけるのであれば何とかなるのかなとも思う。

**環境建設課：**

蛸島川は災害復旧だが、提案のあった分水路整備などは別メニューの改良工事に対応予定である。その場合は、用地買収に協力していただくことになる。その際には協力をお願いしたい。

**市長：**

国土交通省や専門家に専門的なご意見をお聞きしたいと思う。どうすればリスクを抑えることができるのか、専門的な知見について、国土交通省に投げてみる。液状化対策は、エリアを区切って公的に行うものと、個別に行う方法がある。公的に行う場合は、エリア全員の地権者の同意と、長い工事期間が必要になる。熊本では8年たっても工事中と聞く。かほく市、内灘町でもニュースにあるが、この先ずっとポンプで水を抜くことになる。このコストを地域で負担するか、公共で負担するかという問題もある。大掛かりにやる時は、公的でやらなければならないかと思っていたが、国土交通省に聞くと、液状化の度合いではなく、個別でやるのか、エリアでやるかという選択の話になるとのことだった。公的に行う場合、かなりのお金が必要となるので、個別で対応してもらえないかと考えている。若者については、住まいを再建してもらうために、思い切って家を新築する場合は、上限300万円の補助制度を用意した。なんとか再建を考えてもらえたらなと思っている。仕事の話は、地震の前からの大きな課題だ。

珠洲市の魅力を活かして、働く場を増やすよう進めてきた。地震で大きな被害が出た。色々な可能性を実現することにより、雇用を増やすことを考えていきたい。既存の生業をどう守っていくか、どう再建を進めていくかも大事だ。そういったところを取り組んでいく。「新たなまちのかたち」でも、蛸島漁港で生業の拠点を作ろうとしている。こういった辺りは、国に要望していく。国に対する要望については、地震直後から、多くの大臣が来ている。色々な要望を出しているが、大体迅速に対応してもらっている。国には多くの協力をいただいている。国土交通省の直轄事業も多い。蛸島漁港は石川県だが、色々な機関に尽力いただいている。被災者生活再建支援金の増額を国に要望して欲しいという話だと思うが、今後も、より手厚い支援をいただけるよう言うべきことは言っていく。

**参加者：**

資料では坪単価が 80 万円となっている。実際は、坪 150 万円とか 200 万円という業者がいるようだ。市として、安価で良心的な業者を選定して、早く建築したい人に斡旋すべきだ。個別に業者を見つけて契約しなさい、では若者は金沢に行ってしまう。金沢や白山に家建ててしまうと戻ってこない。蛸島だけの問題ではない。早く復旧するには、それが一番大事だと思う。

**市長：**

先程のご意見で、災害公営住宅が 105 戸必要で自宅にいるのが 70 世帯くらい、残りの方は誰もいなくなると言われたが、蛸島地区は自力再建の意向がある人が比較的多い。そういう人が多くいる方が良いと思うし、自力再建に向けた制度を設けてはいるが、問題は業者だ。今年度始めは、奥能登のデータを調べたら 80 万円だったが、今は 5 割増しと聞く。住まいの再建支援金を設けないと珠洲市で再建しようと思ってもらえないと考えて用意した。早く対応できる工務店を珠洲市が斡旋できれば良いが、中々難しい。坂茂さんが、上質で手頃な価格の住宅を提案したい、という話も出ている。石川県も年明けからになると思うが、これくらいの価格で、これくらいの家が建つというカタログみたいなものを用意したいとのことだ。こうしたものを参考に、再建を考えていただきたい。住まいの再建は、本当に大事だと思う。

**参加者：**

復興計画を考えるにあたり、蛸島川の他にも、道路の問題もある。4 m 以下の道路を拡幅するとあるが、難しいと思う。できるのか。

**市長：**

用地買収があるので、地権者の方がどう捉えるかだ。自分の土地に執着がなければ、進めやすいと思う。そういったところは、しっかり丁寧にやらないといけない。

**参加者：**

道路拡幅する場合は、買収か寄付か。

**市長：**

色々なパターンがあると思う。

**参加者：**

買収にしても寄付にしても難しいと思う。相続未登記の土地がたくさんある。公民館から県道までの道路は未だに登記されていない。公民館を建てるために協力してください、ということで昭和 50 年代に寄付した。しかし、未だに登記されていない。税金を払っている。あと、公民館から島の地までの道路と橋ができた。橋は登記できているが、道路は登記できていない。5～6年前の話になるが、こんな調子で本当にうまくできるのか。

**市長：**

それぞれ地権者の方があるので、丁寧に対応しなければならないと考えている。かなり前から空き家の所があると思う。そういったところは、ご理解いただき、お譲りいただけるのではないかと考えている。本格的にやる場合には、土地区画整理事業を入れれば良いと考えている。色々あためてみて、途中で難しいとなれば次の手段を考え、工夫しながら進めていきたい。買収か寄付かは、色々なパターンがあるので一概には言えない。進めながら考えていく。

**参加者：**

今話を聞いて、私は本当に復興が進むのであれば、土地の寄付など協力していきたいと考えている。そうしないと復興が止まってしまうと思う。(一部会場より拍手)

**参加者：**

豪雨災害で床上浸水したので、蛸島川の復旧を進めて欲しい。地震後に、蛸島駐在所前の信号機が倒れて撤去された。再度信号機をつけるのが可能であれば、つけていただきたい。右側は視界良好だが、左側は車を大分前を出して、一旦停止しないとイケない。もう一つ、公費解体が進んでいるとのことで感謝する。しかし、道路を通ると、木くず程度なら良いが、柱やコンクリートブロックが落ちていることがある。先日も野球場の入り口のところに、大きな柱が落ちていて、自分でどかした。業者にも色々いる。しっかり養生している業者もいれば、していない業者もいる。しっかり要望を出していただきたい。

**市長：**

私も信号ないな、危ないなと思っている。信号は公安の管轄であり、本日、珠洲警察署長も来られているため、ご意見を聞かせていただきたい。

**珠洲警察署長：**

信号の再設置は既に要望が出ており、本部に伝えてある。本部も現地を確認し、調査をしている。変則な交差点（5か6差路）なので、交差点改良があるのか、ないかを含めての検討になると思う。小学生の通学路ということ踏まえれば、押しボタン式が良いのかなどの選択肢もある。強い要望は出している。来年以降になるかと思うが、本部で進めている。

**市長：**

原形復旧で迅速にできないものか。

**珠洲警察署長：**

今のところは停止線しかない状態だと思うが、見通しが良い部分もあり、これから雪の季節になるの

で、来年以降と聞いている。自分も蛸島出身なので早くして欲しいが、中々そういうことにもならず、本部に要望を出している。

**市長：**

解体業者が散らかしているという話について、解体が始まって以来の懸案事項になっている。先日は、健康増進センターの前で解体業者のトラックが派手に横転した。通学路ということもあり、厳重に注意した。これから雪が降る。雪に弱い業者もいる。業者も待機が多く、仕事ができなくなることも想定され、収支の帳尻が合わなくなる可能性もある。私は、市民の皆さんの安全の確保が心配だったため、協議をして、1～2月は石川県内の業者だけで解体を進めることにした。解体スピードは5分の1に落ちるが、その間に、仮置き場にある大量の木くずなどを搬出しようと考えている。3月以降にペースを戻せば、来年10月末に終える予定は達成できそうであり、その間に行儀の悪い業者は来なくて良いという調整をしようと考えている。珠洲道路の損傷箇所も直していきたいと考えている。

**参加者：**

公民館から県道までの道路に下水道が敷設されていない。公民館というのは避難場所でもある。まちづくりの一環として、下水道を入れていただきたい。蛸島公民館だけ下水道が整備されていないのが不思議だ。

**市長：**

私が市長就任当時、蛸島地区まで下水道を入れられないという引継ぎだった。珠洲市の財政状況からいくと、蛸島までは難しいとの話だったが、ビーチホテルのこともあった。遡って色々話を聞くと、ビーチホテルのことも含めて、下水道の整備に強い要望があることを把握した。財政のことはさておき、やらなければ駄目だろうと、やることにしたが、費用対効果の問題もある。国土交通省との絡みもある。蛸島地区全体に下水道整備は難しいということになり、エリアを限定して整備することで折り合いがついたことをご理解いただきたい。下水道が良いのか、浄化槽が良いのか、中々難しい。宝立地区は、津波被害で下水道管に砂が入り、復旧が相当難しく難航している。下水道が災害に強いというものではない。浄化槽は地震に強いと言われていたが、液状化で浮く等の被害があった。住宅の密集具合に応じて、区分して整備するのが一番妥当ではないかと考えている。

**参加者：**

このニュースを聞いた時は薔薇色に思えたが、住宅ローンを利用した場合、お年寄りの場合、亡くなれば支払いが必要なくなるという話もある。借りる時に銀行は、担保を取る。内灘とここでは地価が全然違うと思うが、土地の担保価値で決まるのか。建物を建てたいが、希望の金額まで出してもらえるのか。

**市長：**

色々な方法がある。おっしゃったのはリバースモーゲージの話だと思う。修繕についても適用になるし、利息は国が肩代わりするという話もある。自分の認識では、地面の価値は違うと思う。新築する建物が担保となる。融資率が違ってくるのかもしれない。珠洲の融資率は60%、ローンで払いながら亡くなった場合は、担保として取られる。息子さんなどの子孫に建物を残す場合は、残りの借金を払えば住むことができる。皆さん、先々のことを考えていると思う。

**福祉課：**

災害公営住宅の家賃を本日お示しました。これを見て、自力再建するか悩まれると思う。住宅金融公庫が毎月説明会を開いている。お気軽に来ていただければ、丁寧に説明させていただきます。

**市長：**

リバースモーゲージも上限があったと思うが、そういう融資も活用してもらえればと思う。

**参加者：**

解体が進むにつれ、地面が空いてきている。再建を進める場合のネックは、周りの土地の管理だ。ポツンと一軒家になることに対する悩みがある。

**市長：**

行政のサービス（水道、下水道、除雪等）は、これまでしてきたことは引き続きということになるので心配しないでほしい。解体後、同じ場所に建てようと考えても、周りがどうなるか気になっていると思う。1月下旬から記名式の意向調査を行う。自分の町内会の様子など、色々な情報が見えてくると思うので、伝えられるところは伝えていく。基本的には、解体が終わった土地の管理は、土地の所有者が管理することになる。行政が草を刈ることにはならない。更地になると固定資産税も上がる。今後の課題と考えている。意向調査で把握して、皆さんと協議しながら進めていきたい。

**参加者：**

皆さんは地震だと思うが、私は地震と床上浸水だ。代わりの土地があれば、住宅を建てたいと思っている。床上浸水した所は、妻が嫌だと言っている。何とかならないのか。洪水が来たから解体することにした。土地を斡旋してもらえないのか。

**市長：**

中々難しい問題だ。宅地を造成するという要望もあるので、検討していきたい。基本的に行政としては、有償で分譲することになる。その辺りも申し訳ないが、検討してほしい。

**参加者：**

下水道のポンプ（の制御盤）が私の敷地内にある。何とかしてもらいたい。

**市長：**

個別に相談させていただく。

**参加者：**

掲示板を道路寄りから小学校側に移してもらえないか。道路に接近していて、事故の心配がある。これは復興計画と関係ないと思うが。

**市長：**

現地を確認の上、対応する。

**参加者：**

解体後の状況を見ると、基礎コンクリートを取り出しているので宅地の嵩が下がる。仮置き場等に置いてあるコンクリート殻をもらえないか。

**環境建設課：**

基本的に大丈夫だが、コンクリート殻なので放置しておくとかチカチになる。解体業者の完了立ち会い前に相談いただければ、材料は無償でお渡しできる。

以上

令和6年度 第3回珠洲市復興計画策定に係る意見交換会 協議記録

日 時	2024年12月23日(月) 18:00~20:20
場 所	正院小学校 体育館

参加者:51名

マスコミ:5社程度

泉谷市長

区長会長 濱木 満喜(西浜区長)

市議会議員 向山 忠秀、小谷内 毅、濱田 隆伸、浦 秀一

市役所担当

総務課 加賀課長

環境建設課 大宮課長、川角課長補佐、新係長、高橋主幹、樋口主任技師、檜原主任技師、  
本多専門員

福祉課 三上所長

復旧・復興本部 濱野局長、西次長、河原係長

計画情報研究所 米田、田村

建設技術研究所 伊藤

【開会のあいさつ】

濱木区長会長：

あと1週間で今年も終わる。地震で被害を受けたところがたくさんあるが、負けることなく、新しい年を迎えられるよう願っている。ここまで頑張ってきたのだから、新しく、元気な珠洲市を作るために頑張っていきたいので、本日は遠慮なく意見を言って欲しい。

向山市議会議員：

議員を代表して挨拶させていただく。今日は第3回目の意見交換会になる。日頃から生活再建、生業再建など色々な不安を抱えていると思う。忌憚のない意見、要望を出していただきたい。

市長：

各地区における意見交換会は、3巡目となる。発災から間もなく1年となる。正院地区においては、令和5年5月の地震でも大きな被害を受けた。さらに9月21日の豪雨災害でも被害を受けた。度重なる被災で厳しい状況の中、意見交換会に参加していただき、感謝申し上げます。珠洲市の復興計画は様々な意見を反映しながら、修正を加えてきた。実現不可能なものは見直し、実現可能なもので作っている。大事なことは、各地区の「新たなまちのかたち」である。復興に向けたプロセスなど、色々なご意見をいただいている。6月、8月の段階では、集まるのが中々難しかったと思うが、正院では正院復興塾なども開かれている。「新たなまちのかたち」について、今日初めて見る方もいると思う。ご意見をいただきたい。住まいの再建についても説明する。災害公営住宅は、これから各地区で整備していく。加えて、自力再建も進めていきたい。悩みも多いかと思う。正院地区では1,036棟の申請のうち、715棟の解体

が完了し、全体の7割が終わっている。更地が増えてきた。復興計画は年度内に策定したいが、今後も引き続き、協議は進めて欲しい。各地区の「新たなまちのかたち」は、実現に向けて具体的に進めていきたい。自力再建について10月の議会で支援制度を設けた。一部損壊、準半壊の方に対して、もう少し支援がないのかとの要望もあり、12月議会で補助制度を設けた。他にも色々な補助制度を組み合わせながら、再建を目指していただきたい。

### 【復興計画案の説明】

#### 復旧・復興本部：

策定委員会や意見交換会等の意見をできるだけ反映させる形でとりまとめを進めている。この計画は、今後、珠洲市が進める総合的な施策を整理している。復興方針図に基づき、優先順位をつけながら各地区のまちづくりを進めていく。

<資料に基づいて復興計画案の施策内容を説明>

<正院地区の復興まちづくり内容を説明（計画情報研究所）>

<年明けからの意向調査ご協力をお願い（計画情報研究所）>

<住まいの再建と災害公営住宅について説明（環境建設課）>

### 【参加者からの意見】

#### 参加者：

自分はこの先、どうやって住まいを確保するのかと皆さん考えていると思う。災害公営住宅の候補地に丸をつけているが、実現に向けての具体的な取得方法について教えて欲しい。

#### 市長：

飯田町で「新たなまちのかたち」をどうするかという中で、専売公社の跡地が良いという話になり、現在計画を進めている。馬縹町では、細かく地元で意向調査をして、入居希望のある世帯数と場所を決めている。また、耕作放棄地の所有者との話までまとめている。そのため、先行して基本計画を進めている。そういう事例もあり、正院地区において、それぞれの町で議論を重ねる中で、詳細に計画が進むようであれば、行政としても進めやすい。あるいは、今回のように、こういった所が良いと皆さんで候補地を出していただき、場所が決まれば、珠洲市として地権者と調整することになる。用地の交渉などの調整に時間がかかる場合も出てくる。候補地において、地主まで分かり教えていただければ対処しやすい。他の地域では、ここが良いとなっても、まだ地権者とのやり取りが出来ておらず、ふわっとしたイメージまでのところもある。年明けに意向調査を行う予定にしている。ふわっとしたアンケートではなく、記名式のものなので、より詳細に地権者の意向が把握できるものと考えている。災害公営住宅の必要戸数や土地を手放したいなどの意向も分かってくると思う。必要な情報は共有していきたい。

#### 参加者：

（災害公営住宅建設）候補地は耕作放棄地（田んぼや畑）でも良いのか。

**市長：**

地盤改良等でコストが別に必要となる可能性がある。用地取得費は補助対象外となっているが、国に要望を繰り返す中で、造成費は補助対象となったので、選択肢は広がってきている。畑であったり、耕作放棄地であっても十分に候補地として選択肢になると思う。

**参加者：**

もう一つ質問になるが、公民館の場所を動かして、集まりやすい公民館を作りたいという話が出ている。要望として受け付けてもらえるのか。（公民館の）駐車場も壊れている。

**市長：**

提案や要望は、どんどん言っていただきたい。正院公民館は建て替えが必要かどうか検討している。修繕で済むのか、一旦壊して地盤を改良して、同じ場所で建てるのか。皆さんの中で、同じ場所ではちょっと、ということなのかどうかもある。違う場所に建てることになれば、用地が必要となる。こちらの復興図では、山側に移転して、今の公民館の場所に災害公営住宅を建設するような提言になっている。皆さんの提言通り進めていくか、山側に災害公営住宅を建設して、公民館の場所は変えない方が良いのか、色々な検討をしていきたい。

**参加者：**

数日前に正院町で8か所、液状化調査のボーリングをすると聞いた。ある新聞では、広域で対策するのは費用がかかるので、個人で対応して欲しいという話だった。個別対応で行う場合、対策工法の検討は、市で行うのか、個人でそれぞれ行うのか。

**市長：**

中々難しい問題だ。液状化については、その場所で建てて良いのかというところから始まると思う。現状では、国土交通省が調べた液状化ハザードマップというものがあるが、少し精度が粗い。もう少し詳細な調査をしてもらえないかと、発災直後から私も国土交通省に言っていた。この年末・年始あたりから、宝立、飯田、野々江、正院から蛸島でやることになった。行政としてエリアを区切って、公共工事として対応するのか、個別対応とするのかという話については、公共工事に対応する場合は、時間と費用が掛かる。エリア全員の同意も必要になる。個別の対応については、国・県の補助制度に珠洲市も独自に上乘せしている。個人負担は、50万円の控除分を除き、2割負担でできるようにしている。例えば、1,050万円かかった場合、50万円は控除分として、残りの1,000万に対して8割の補助が出るので、個人負担は250万円になる。業者を行政が連れてきてくれるのかという話については、ずっと要請しているが難しいようだ。せめて、(対応可能な)業者をリスト化して欲しいとお願いしており、それは色々検討してもらえていると思う。しっかりと実績のある業者を紹介できるかどうか、あるいはそういった業者にやってもらえるかどうか、まだまだ課題として残っている。その辺りを含めて、国や県に申ししていきたい。個別で対応出来ないような酷い所は、公共事業として大々的にやらなければならないのかを国土交通省に問い合わせたところ、状況で変わる訳ではなく、公共と個人、どちらを選択するかということだった。色々なやり方がある。地盤が悪い場所だと1,000万円以上かかる場所もあるかもしれない。その辺りは何とも言えない。

**浦市議会議員：**

災害公営住宅について、3年間は3万5千円の家賃、その後は12万円に上がることで不安に思う人が多い。珠洲市で（高額な家賃を）払える人がいるだろうか。3年経った後、珠洲から出ていくことになる。家賃を払えない場合はどうなるのか、退去後の対応についても教えてほしい。

**市長：**

70代のご夫婦2人世帯で年間510万円以上の所得がある方は、珠洲市にはあまりおられないと思う。どんなものだろうか。一定以上の収入がある方は、家賃が上がるといって、ある程度の収入がある方は、出来るだけ自力再建を進めて欲しいという話だ。公営住宅は収入が少ない人向けのもので、出ていけとか、そういうことではなく、国の決まりである。多少調整できるとすれば、収入が少ない人の範囲をどう設定するか、という話はある。多少緩めることはできるか。

**環境建設課：**

現時点での珠洲市の公営住宅の条例の中で、障がい者を抱えている、未就学児がいる、60歳以上の方という場合などで緩和措置をしている。例えば、就学前の子がいる場合という範囲を広げて、就学している世帯で検討することも考えられる。60歳以上の方は、珠洲市として既に上限を上げているところもあるので、年金以上の収入がなければ、従来の公営住宅の家賃で災害公営住宅にも入居できる。

**市長：**

市の財源で、多少緩和できるか検討していきたい。基本は公営住宅の考えであり、理解いただきたい。

**環境建設課：**

来年1月の意向調査で世帯年収を聞く予定なので、災害公営住宅を希望している方で、所得超過の方がどれくらいいるか把握できる。そこを踏まえて、家賃の検討をしていきたい。

**浦市議会議員：**

もう一つ確認したい。45平米の災害公営住宅だと13.6坪になる。坪80万だとしたら1,100万円位で建つのではと考えている。10年、20年住んだら譲渡できるのか。災害公営住宅を将来払下げしてもらえるのか。

**環境建設課：**

法律上、公営住宅として使用しなければならない期間がある。構造によって耐用年数も異なる。木造戸建ての場合、7.5年を過ぎると、払下げの検討はできるが、10年間かけて得た家賃収入で、建設費を回収する計画としている。10年以上経てば、行政としても、ずっと空き家として持っておく訳にもいかず、違う手法での活用も考えられる。その時に、払い下げるといって選択肢があればと思う。市としては、10年間維持・管理して、借金を返した上で、その後は維持管理費に充てるため家賃をもらっていくことになる。10年を経過したタイミングで（払い下げの）検討はできるが、事業費によっては15年など、タイミングが変わってくることもある。

**市長：**

資材や人件費の高騰で坪単価も上がってきており、災害公営住宅の建設にも影響してくる。建築費が高くなっても、収入が多くない方にとっては安い家賃で住めるが、10年経てば払い下げると一概には言

えない。譲渡する、払い下げということは法律上可能ではある。

**参加者：**

災害公営住宅のタイプによって家賃は変わるのか。

**環境建設課：**

配布資料には、熊本地震での事例を示している。家賃は、集合と戸建てで大きな差が出ることは無い。

**市長：**

戸建てであろうが長屋であろうが、集合住宅であろうが、概ね家賃は変わらない。密集していて用地が確保できなければ集合、津波の心配があるところはピロティ形式を検討している。飯田の専売公社跡地に建設予定の災害公営住宅はこのタイプ（ピロティ形式）である。

**参加者：**

私の土地に公営住宅を建ててもらって、10年後に払下げしてもらえることはできるのか。

**市長：**

そうできれば一番良い。2007年の地震の時に、輪島市で4件整備された事例がある。災害公営住宅を建てる時に、土地を無償で提供してもらい、住宅を建てて、所有者がそこに入って家賃を払う。10年経ったら土地も建物も返すというものであるが、その後の東日本や熊本地震等の大規模災害ではこのような事例は無い。必要戸数が膨大である場合は、非現実的である。公営住宅であり、基本的に入居は公募となるため、この手法は難しい。代わりにということではないが、リバースモーゲージが使えることになった。利息分も県が補助してくれるので、心配なくて良い。珠洲市では災害公営住宅の建設を700戸予定している。以前の輪島市のような手法は、現実的に対応できない。リバースモーゲージを活用してもらった方がスムーズだと思う。

**参加者：**

リバースモーゲージは分かったが、銀行はお金を貸してくれるのか。

**環境建設課：**

資料の中に示してある。住宅金融支援機構が貸してくれることになる。利率も他の金融機関より安くなっており、来年1月に説明会もあるので利用いただきたい。

**福祉課：**

毎月、住宅金融支援機構の方が来ている。1月15日に健康増進センターで説明会を予定している。予約不要なので、気軽に相談いただきたい。

**参加者：**

災害公営住宅に入ろうと思っていたが、建設途中で意向が変わり、希望を取り下げることができるのか。また、災害公営住宅に入ったが、何年か経って空室が出た場合はどうなるのか。

**市長：**

応急仮設住宅に空きが出た場合、家賃をいただくことになるが支援者向けの住宅として、目的外使用できないか考えている。珠洲を応援したい、珠洲で頑張りたいという方もいるが、現状住まいがない。災害公営住宅は、一旦は住宅を失った方に入ってもらい、その後の活用方法は、国や県と相談しながらになると思う。先ほど10年経ったら払い下げる、という話もしたが、自分のものにしないで良い方は、家賃を払ってもらい、住み続けることも可能。色々な手段を考えて、災害公営住宅をできるだけ早く整備したいと思う。

**環境建設課：**

災害公営住宅の入居要件となるのは、家を失われた方。まずは（3年）家を失った方に入居していただいて、その後は公営住宅として利用する。部屋数が足りない状況は避けたいし、作り過ぎて、空き部屋ができると10年間で償還できなくなるので、何度も意向調査をしていく。意向の変化もあると思うので、家賃収入が少ない方で、要件に当てはまる方は、3年以降も入居し続けることは可能である。

**市長：**

説明が足りなくて、4年目から家賃が上がりトラブルになるケースもあるので、珠洲市としては災害公営住宅の入居を待つのが良いか、再建した方が良いかの判断材料になれば良いと思い、今回説明させていただいた。

**参加者：**

災害公営住宅を建てる場所について、市は無償提供が望ましいと言っている。無償で提供する人と、無償提供には応じないという人がいた場合どうなるのか。

**市長：**

基本的に用地買収には、金額が生じるもの。道路も含めて、皆さんが望む場所を優先して、建設を進めていきたい。無償提供だとありがたいという話で、無償提供でなければ建設しないということではない。理想的な場所を優先する。

**参加者：**

土地を提供した人は、災害公営住宅に入れるのか。

**市長：**

具体的になりそのようなケースになる場合は、個別に相談いただきたい。普通はお譲りいただいた方が入れない、となるとどうかなと思うが、公営住宅の入居は抽選が原則なので、はっきり言えない。

**参加者：**

12月9日に公民館で協議会が開かれた。コンサルから災害公営住宅の候補地を聞かれた。公民館が高台移転した場合のことも意見した。地権や地盤のことが解決しても、ハザードマップ上は浸水区域だ。公営住宅を浸水区域内に建てても良いものなのか。公民館も避難所になるのであれば、安全な浸水区域外に建てるべきではないか。

**市長：**

ハザードマップ上、安全な所に建設するという話になると思う。津波、河川の氾濫区域を避けて整備することになる。しかし、ハザードの問題は残るが、土地を取得しやすいという場合は、1階をピロティにするなどの工夫をすることになる。公民館は、皆さんが一番立ち寄りやすい場所にあるのが良い。公民館を建て替えるということであれば、集まりやすい場所、どこにするのかという話になる。今の公民館を修繕していけるのかどうかもあるが、かといって全てが安全という訳でもない。考えていきたい。

**参加者：**

前回の意見交換会で仮設店舗について話をさせていただき、来月オープンになる。機会があれば国土交通省の方に、地域からの声として公共交通の話をしていただきたい。

**市長：**

承知した。

**参加者：**

基本方針2、暮らしとコミュニティの再建の4番目、学びの環境の再建について。先ほどの説明で学校集約という言葉聞き、おっと思った。まだ青写真だと思うが、基本方針（教育）を決めた経緯を聞きたい。

**市長：**

私は、地域と学校は一体と考え、そういう想いでいる。児童数は減ってきているが、地域に小学校があった方が良いと思っている。正院小学校の児童が避難されている方に、コンサートを開くという取り組みがあった。自分は直接見ることはできなかったが、ニュースで見て感動したし、こういう話は素晴らしいと思う。理想からいけば、正院地区には正院小学校があった方が良い。一方で、震災後、児童数が3割減っている。子供たちが可哀想だと学校再編の声も大きい。4月から統合しますという話にならないが、検討会を立ち上げて議論していかなければならないと考えている。どちらかが正解という訳ではないので難しい。

**参加者：**

保育所で一緒になって、1年生に上がった時にバラバラになる。正院小学校は、6年生が8名卒業して、来年6年生がいないと聞く。どうなのかと思う。

**市長：**

つばき保育園は5か所の保育園を統合して1か所にした。震災後、保育士も不足しており、宝立と三崎は開くことができず、市内でつばき保育園しか動いていない。保育園を統合したのも、自分とすれば、保育と教育は違うという考えからである。島根県の、とある自治体では自分と同じ考えで、保育園は統合するが学校は統合していない。ただし、保育園で友達になって、再度小学校でバラバラになるという問題はある。中々難しい課題だ。

**参加者：**

この前の協議会と今日の話聞いて、地域から意見を出して欲しいと言われるが、住民との合意形成

が大事だ。合意形成を進める段階で、分断してしまう心配がある。全町民が参加する公式の協議会を立ち上げたいと思っている。若者で準備を進めており、市に公認いただきたい。

**市長：**

こちらからも是非お願いしたい。

**参加者：**

復興方針図に書かれているグリーンの道路に接している家は、各自で修繕して欲しいということか。

**計画情報研究所：**

緑で示している道路は、幅員が4 m未満になるが、制度上も道路として指定はされておらず、建て替える場合に今後どうするか一緒に考えていきたい道路である。黄色の道路は、避難路を兼ねる4 m未満の道路なので、優先的に拡げていきたいと考えている。緑の所で、建て替えの際に不自由があれば、道路として指定することで、センターから2 mセットバックして建てられるような道路にすることもできる。拡げることを今後、検討することもあるかもしれない。緑の道路は4 m未満で、2 項道路と位置付けられておらず、建て直しの時に協議が必要になる。

**参加者：**

緑の道路は、道路中心から2 m下がってくれということか。

**計画情報研究所：**

そういうふうに拡げることもできるので、検討していきたい道路である。赤と緑が4 m未満の道路になるが、赤については2 mセットバックすれば建てても良い道路となっているが、緑はそうっていない。緑は、道としての指定などを今後考えていきたい道路である。

**参加者：**

公民館のところで道路が地滑りしているが、道路の復旧はどのような予定になっているのか。

**市長：**

現在、応急復旧の段階だ。崩落していて辿り着けないところもたくさんあり、辿り着けるように応急復旧してきた。まだまだ十分ではないので、これから本復旧を進めていく。年内に国の査定が終わる予定。年明けから本復旧の発注を進めていく。埋設管や道路の拡幅などは一緒に進めた方が良く考えている。出来るだけ早く、復旧を進めていきたいと思っている。

**環境建設課：**

ご指摘の道路について、本復旧の見通しは立っていない。本復旧に向けて、下水道の復旧、河川護岸の着工時期、橋の架け替えなどがある。どのように本復旧していくか協議が必要となっている。地滑りについては、災害復旧とは別に、現地を確認しないとこの場では申し上げられない。道路や宅地で地面が動いているようだという状況があれば、環境建設課まで連絡いただきたい。

**参加者：**

住宅再建のことを考えている。皆さん平屋で再建という話を聞く。平屋にすると、電力の引込線が今より低くなり、キリコ巡行の際に引っかかってしまう懸念がある。住宅再建の時は気をつけて欲しい。

**市長：**

なるほどと思った。そういった点は気をつけたい。

**参加者：**

公式の協議会に活動費の補助は出るのか、他地区の立ち上げ状況はどうか知りたい。

**福祉課：**

石川県の能登半島地震地域コミュニティ再建事業で手続きしていただければ、かかった経費に対して、最大 100 万円まで補助される。イベントのみの補助金ではなく、まちづくりの事務関係費など、様々な用途で使用できる。本来のコミュニティ支援ということで県からも内諾をいただいている。

**市長：**

個別にやり取りをお願いしたい。正式に協議会がスタートしているのは飯田地区。「まちのかたち」については、全地区それぞれで議論を進めてもらっている。

以上

## 令和6年度 第3回珠洲市復興計画策定に係る意見交換会 協議記録

日 時	2024年12月24日(火) 18:00~20:20
場 所	宝立小中学校 体育館

参加者:90名

マスコミ:2社程度

泉谷市長

区長会長 多田 達郎(上八幡区長)

県議会議員 平蔵 豊志

市役所担当

総務課 女田室長

環境建設課 大宮課長、川角課長補佐、田中参事、新係長、高橋主幹、樋口主任技師、  
檜原主任技師、本多専門員

産業振興課 上根参事

福祉課 三上所長

復旧・復興本部 濱野局長、西次長、河原係長

計画情報研究所 米田、喜多、田村

建設技術研究所 伊藤

### 【開会のあいさつ】

多田区長会長：

たくさんの方に集まっていただき、感謝申し上げます。震災からもう1年たった。私は、1日1回、公民館へ行っているが、公民館から見る景色もずいぶん変わった。見附島が見えるようになった。内浦一体の景色が本当に変わった。解体が進んできたんだな、これからどんなまちになるんだろうな、という想いでいる。まちづくり協議会で2回ほど議論した。その中身が今日説明されると思う。皆さんからの意見を聞きながら、1歩でも2歩でも前に進めたい。

市長：

各地区での意見交換会は3巡目となる。1月1日の地震から1年が経とうとしている。加えて、9月21日の豪雨災害もあった。まだまだ厳しい状況だ。クリスマスイブにも関わらず、多く集まっていた。復興計画の方は、様々な意見をいただき、反映しながら、修正を加えてきた。実現不可能な事業については見直しをした。年度末までには仕上げたいと考えており、本日皆さんからまた意見を賜りたい。一番重要なのは、「新たなまちのかたち」をどうしていくかだ。宝立町を3つのエリアに分けて議論を進めてもらっている。本日、初めて見る方もいると思う。鶴飼・春日野地区を中心に、宝立町では津波対策も大切になる。鶴飼大橋や港橋は架け替えとなる。そのことも含めて今後どうしていくかが大事になってくる。宝立町では納屋なども含め、解体撤去は6割近く(1,413棟中814棟解体)まで進んでいる。珠洲市全体でも6割を超えてきたところ。更地が目立つようになってきた。宝立町を再生していくつもりだ。これからの住まいの再建について、どこに災害公営住宅を整備するかが大切になる。でき

れば、自力再建も考えて欲しい。年明けに意向調査を記名式で行う。どこにどれだけの災害公営住宅が必要かなどしっかり把握して、整備が進むように取り組んでいきたい。色々な支援制度があるが、珠洲市独自の住まい再建支援金を設けた。資料中 80 万円／坪とあるが、資材と人件費の高騰により、坪単価が上昇していると聞く。色々と組み合わせて活用いただきたい。

### 【復興計画案の説明】

復旧・復興本部：

策定委員会や意見交換会等でいただいた意見をできるだけ反映させる形でとりまとめを進めている。この計画は、今後、珠洲市が進める総合的な施策を整理している。復興方針図に基づき、優先順位をつけながら各地区のまちづくりを進めていく。

<資料に基づいて復興計画案の施策内容を説明>

<宝立地区の復興まちづくり内容を説明（計画情報研究所）>

<年明けからの意向調査ご協力をお願い（計画情報研究所）>

<住まいの再建と災害公営住宅について説明（環境建設課）>

### 【参加者からの意見】

市長：

補足すると、宝立地区における公共下水道は独立している。津波の被害も甚大で、下水道管が砂で固まって詰まっており、流れない状況。公共下水道として全てを復旧するのか、エリアを少し改めて一部を合併浄化槽として復旧するのか考えていかないといけない。ある程度の範囲で、土地区画整理事業を行うのが良いか、範囲を区切って行った方が良いのか、個別にやり取りするのが良いか考えていかないといけない。「新たなまちのかたち」の議論は、年度内にこだわらなくても良いと考えている。これからも継続して煮詰めた議論を、範囲を区切って進めていく必要も出てくる。善野地区の上水道の復旧が困難な状況になっている。大規模に崩れた土砂を撤去するのが難しく、そのまま車は乗り越えて通ってもらっているが、そこに水道管を通していくのは今後の復旧に向けてもかなり難しい。一つの手段として、循環型の上下水道がある。各家庭にシステムをくっつけて、トイレはトイレで循環し、生活用水は生活用水で循環していく。その装置がうまく機能すれば、断水の心配は今後なくなる。国土交通省がモデル的に行いたいという意向がある。復旧についても努力するが、そういう形での新たな取り組みも考えていただきたい。

参加者：

仮設住宅のスロープが雪で結構滑る。何か対策はあるのか。

市長：

これから雪も積もっていく。仮設住宅の除雪をどうするか。除雪車が入れるところは除雪する。棟の間は除雪車が入れず、市でスコップ等を準備したので、皆さんの協力をいただきたい。

**環境建設課：**

仮設住宅の階段については、マットを注文して納入待ちである。届いたら順次階段に並べたい。スロープは今のところ、特に対策しないが、わくわく広場に麻袋を用意している。麻袋を1回見ていただいて、対策になるか試行していただこうと考えている。厚みがあって、逆に転んでしまうこともあるかもしれない。どうしても転ぶことがあると思うので、なるべく手すりの近くを歩いて欲しい。

**金田副市長：**

麻袋は集会所まで持ってきた方が良いのではないかと。

**市長：**

わくわく広場まで来て試すのではなく、麻袋は集会所に持っていくこととする。それぞれの応急仮設住宅で試してもらい、必要な枚数をお渡しする。早めに集会所までお持ちする。

**参加者：**

公費解体も大分進んで、来年10月で概ね解体が終わると聞く。更地に自分の家を再建したいと考えている人が数人いる。未だにインフラ関係（電気・水道）の復旧が進んでいない。珠洲市としてどのように考えているのか。

**市長：**

電気と水道がないと再建が進まないと考えている。しっかりと早めに対応しなければならない。

**金田副市長：**

私も同様の疑問はずっと持っていた。北陸電力に何度か問い合わせているが、公費解体が進まないと電柱を建てる場所が決まらないと言われている。かなり公費解体が進んだことから、年明けから順次工事が始まると思う。水道も道路が片付いてくると順次、漏水調査を合わせてやっていくと思う。これから冬に向かうので、もうちょっと時間がかかると思うが、春頃には見えてくると思っている。

**環境建設課：**

公共下水道が使用できないため、FRP製のタンク、いわゆる合併浄化槽を地上に設置している。現時点で60基ほど設置しており、在宅で生活されている方のために仮設で設置している。公共下水道の修繕の方法が決まるまでは、再建を進める方には仮設の浄化槽を設置し、仮設の上水道を設置していくことを考えている。1～2月は解体ペースを落とす。3月からは解体ペースも戻すので、そこも含めて北陸電力と連携して復旧を進めていく。

**参加者：**

宝立全体のビジョン、ランドデザインが見えてこない。宝立全体のビジョンを示して欲しい。近場で安心して買い物ができる場所が無いと、生活に支障が出る。生活できる、買い物できる、というビジョンを示して欲しい。地震や津波、洪水で小さい河川が煩雑になって迷路になってしまい、上手く排水できない。道路の拡幅の話があったが、側溝も合わせて整備してもらえれば、排水もできると思う。何度か話したが、仮設住宅周辺は暗い。懐中電灯が無いと歩くことができない。一方で、明るい所はある。防犯の面においても解消していただきたい。

**市長：**

宝立町の「新たなまち」について道路をどうするか、中心をどうしていくか、鶴飼大橋の迂回路をどうするかが重要である。議論を詰めていかないといけないところも出てくる。宝立全体をどうするか、というビジョンも今後の議論と考えている。今は3つのエリアに区切っているが、全体で議論する機会を作って欲しい。買い物という話は、行政として提供するの難しい。地域でやろうという話があれば、行政として何ができるか考えることはできる。民業との関わりもあるので、そこを含めて対応させていただきたい。道路の復旧に合わせた排水対策は行っていきたい。道路であったり、護岸であったり、応急復旧が何とか進んで、本復旧に向けて、年末までに査定が終わるかどうかというところまで来た。年明けから本復旧に向けた発注を進めていく。道路の中に水道管や消雪装置もあり、全部合わせて調整していくので、年度明けたら直ちに、とは言えないか出来るだけ早く対応していく。

**環境建設課：**

応急仮設住宅の外灯は遅くなって申し訳ないが、石川県が整備することになっている。10日ほど前に各団地の図面を見ながら、設置箇所の打ち合わせをした。主だった道や駐車場に付けることになっており、今年度中に設置をするということで進めている。引き続き、石川県に要請していく。

**市長：**

中々業者がいなくて、手が回らないところもあるのだろうが、早くやってもらえるよう伝える。

**参加者：**

災害公営住宅の候補地が出ている。買い取りなのか、借上げなのか、無償譲渡なのか知りたい。災害公営住宅の集合や戸建てのタイプが示されている。宝立地区では、どのようなタイプになるのか。戸建てを望む人が多いのではないのか。要望したら戸建てを整備してもらえるのか、その辺りの考えを知りたい。家賃の目安が示されているが、高いのではないのか。3年後にこれだけ高くなるなら、住みたい人はいないのではないのか。

**市長：**

災害公営住宅はできるだけ最適な場所に建設していく。災害公営住宅の用地は、現在、私有地であっても、一度珠洲市の土地にする必要がある。借りるというよりは、譲ってもらう形になる。

**参加者：**

買い取りか。

**市長：**

土地に執着しないから珠洲市に寄付する、となるとありがたいが、そういったところに限定しない。無償譲渡してもらった土地だけに建てるのではない。

**参加者：**

買い取りの金額を具体的に出してもらえると、それなら良いと手を挙げる人もいる。ある程度の目安があると助かる。

**環境建設課：**

用地費については、不動産の平均的な評価額が公開されており、一般的にベースとなる。その価格で買い取りできるかは、具体的には決まっていないが、そこをベースとして協議となる。

**市長：**

災害公営住宅の整備費は3/4は国からの補助が出る。残りは珠洲市で負担しなくてはならない。要望して、何とか造成費も補助対象に認めてもらった。しかし、用地の取得費は補助対象外のため、安く入手できればと考えている。不便だけれど安ければ良いというものでもなく、皆さん、ここが良いという場所に建設していきたい。どこにするか、皆さんと議論できればと思っている。津波があった場所は、ピロティ形式も考えられる。馬縷地区では地元で検討を進め、建設場所の地主了解までもらっている。飯田地区では旧専売公社の跡地（珠洲市所有）がある。戸建てにすると6戸程度しか入らないので、集合タイプとする計画を進めている。宝立地区では、145戸必要という推計になっている。確保できる土地と戸数が調整できれば戸建て、確保できなければ長屋タイプということになると思う。あくまでも、公営住宅のため法律に則り、家賃は一定の収入がある方は4年目から上がることになる。一定の所得が無い方は、安い家賃で住み続けることができる。一定の所得がある方は、自力再建を進めて欲しいというのが国の考えだ。一定の所得水準の緩和については、珠洲市の裁量で可能ならば考えていきたい。

**参加者：**

お願いになるが、公民館の駐車場にトイレがあったが、撤去された。外部から支援に来ている方が、公民館の中のトイレを借りにくく、見附島のトイレまで行っている。駅の中でできれば良いが、できない状態。何とかならないのか。

**環境建設課：**

以前まで（仮設トイレを）置かせてもらっていたが、汲み取りは市で行っており、バキュームの手配やトイレトペーパーの補給、掃除など周辺の方に甘えていた部分があった。解体業者には、見附島公園まで行ってもらうようお願いしている。現時点では、昔ながらのタイプしかないが、汲み取りはするので、地域で協議の上、管理していただけるのであれば設置を検討する。

**参加者：**

旧鶴飼駅のトイレは直らないのか。

**環境建設課：**

旧鶴飼駅のトイレは、上水道が復旧していないので使うことができない。上水道の復旧ができれば、浄化槽は設置してあるので、使うことができる。ただし、上水道の復旧の目途が立っていないため、時期については何とも申し上げることができない。

**市長：**

旧鶴飼駅の水を、何とか早く通るようにして、使えるように進めていきたい。

**参加者：**

遠慮なく入れるトイレって宝立に無いのか、とよく聞かれるのでお願いしたい。

**参加者：**

災害公営住宅の駐車場は、どの程度確保してもらえるのか。

**環境建設課：**

基本的に1住戸1台確保するのが原則であり、それ以上の整備はないことになる。ただし、珠洲市の地域特性を踏まえると、不足している部分もあると認識している。一定の駐車スペースが確保できるような配置計画を検討していきたい。

**市長：**

取得した用地の広さも関わってくると思うが、何か考えていきたい。1台は確保する、そしてプラスアルファができれば良い。

**参加者：**

見附の仮設住宅の駐車場は、追加整備されるのか。ボランティアの中に作家さんがいる。長期滞在して作品を作っているようだ。芸術祭以外で、アートに触れる機会があると良い。アーティスト・イン・レジデンスというものがあるので提案したい。あと、今回の地震では、外浦が地盤隆起した。ジオパークの認定を目指し、新たな観光の目玉にしたら良いと思う。隆起したのを見る機会は中々ない。使われていない学校の活用として、企業誘致ができないか。鳥取の廃校活用事例では、コ・ワーキングスペースや子育て支援施設として活用している。今ある資源を活用できると良い。市がアナウンスして欲しい。山で境界線が曖昧で、所有者不明地が多い。所有者と使いたい人のマッチングするような仕組みもあると良い。他地区では、林業で交流が増え、人口が増えているところもあると聞く。珠洲は山もたくさんあるところだし、取り組みとしてやってもらえたら人も入ってきやすい。

**市長：**

アート・イン・レジデンスの考え方は復興計画にも入っている。アートを取り入れた復興は、目指していきたい。2026年に奥能登国際芸術祭を開催することは、今のところ考えていない。芸術祭と今回の震災を結びつけて考えている人は多く、芸術祭を期待されている。アートによって、復興に向けての力になるような展開や、多くの方が犠牲になっているので、鎮魂に関わるものと考えていけたらとお願いしている。色々なアーティストと連携して、気軽にアートを楽しめるのも良いと思うが、グレードが絡んでくる。芸術で多くの方から評価をいただけるグレードがどうなのかなと思う。ある程度、今後に残っていくような作品を展開していただきたいということであれば、質とかグレードをどう維持していくのが大事になってくる。芸術祭では総合ディレクターである北川フラムさんにアーティストを選んでもらっていた。違う方も入りこみたい、ということもあったが、何とか調整してもらって抑えていた。ある程度のグレードが保てなければ、アートの取り組みも評価されないこともあるので、そこを考えながらになる。ジオパークの提案は、復興計画で取り組むことにしている。輪島市を含めて、取り組んでいきたい。日置地区では、トレイルウォーク（ロングトレイル）の話が出ている。活かしていくことも今後、進めていきたい。廃校活用は、これまでも取り組んできた。小泊の学校では、大学と連携した人材育成の場になっており、良い形での活用だと全国的に評価されている。大谷の旧西部小学校の体育館をシアターミュージアムにした。今後とも有効に活用できるよう動いていきたいが、地震で環境が変わ

った。上戸保育所も、もっと色々な活用策はあったが、今は応急仮設住宅を建てたので、中々施設としての活用は限られる。今後また考えていきたいので、アイデアがあれば、また言って欲しい。林業については、山の持ち主と山を使いたい人を結びつける国の制度が、数年前からあるので、活用できればと思う。

**環境建設課：**

駐車場がないことは重々分かっている。ただ、申し訳ないが、駐車場拡張は、現在のところ予定は無い。1住戸1台を確保しているが、不便な場所と認識している。

**参加者：**

見附公園の駐車場を使っている人がいて、仮設住宅までの間が暗い。外灯を整備できればお願いしたい。

**市長：**

以前から話は聞いており、石川県と交渉してきた。先ほどの回答では、年度内とのことだったが、出来るだけ早く整備してもらえよう県に強く要望していく。

**参加者：**

住職をしている。お寺（お墓）の被害が大きく、個人では対応できない状況だ。市としてどのように関与してもらえるのか。

**市長：**

県の復興基金のメニューにある。補助率 1/2 で上限 1,200 万円があるが、集落共有の墓地において、共同の通路等でしか使えない。お墓を建て直すのは、お金もかかるので「墓じまい」という話も出てきている。家もなくなり、墓もなくなると珠洲市との縁が完全になくなるというのも非常に心配。何とかしたいと考えているが、補助制度としてはこれしかない。合葬墓として何かできないか考えていきたいと思う。答えは出ていないが、頭に入れて考えていく。

**参加者：**

災害公営住宅の戸建てタイプは、最低限 10 戸の団地にしないといけないのか。見附の仮設住宅は、将来的に公営住宅になると認識している。3年後に家賃が上がるのか。

**市長：**

見附の住宅は、現在、応急仮設住宅で2年の期限となっているが、生活再建の目処が立つまで延長を要望していく。どこかで期限は切らないといけない。見附の応急仮設住宅を市の賃貸住宅に転用して、活用することはできる。

**環境建設課：**

災害公営住宅となると、基準に則った面積が必要になり、今の仮設住宅だと小さい所もあるので、そのまま公営住宅として活用するのは難しい。木造の応急仮設住宅については、恒久的に使えると県から聞いており、市が管理する賃貸住宅として活用することは可能である。災害公営住宅ではなくなるので、

公営住宅法の家賃設定ではなく、珠洲市として条例を制定して、家賃を設定することは可能。

**参加者：**

3倍くらいの家賃になるのか。

**環境建設課：**

計算式が異なるので、珠洲市独自の家賃設定になる。

**市長：**

災害公営住宅になると4年目からどっと家賃が上がると話したが、災害公営住宅ではなく、珠洲市が所有する賃貸住宅として転用していくことになる。今のコーポ晴気台のようなもの。コーポ晴気台は、年収要件がなく、逆に一定の収入がないと家賃が払えないこともあるので、上限ではなく、下限を定めている。家賃がどうなるかはこれからの話になるが、そういった形で転用していけるのではないかと思う。ただ、見附の仮設（木造）と宝立の仮設（プレハブ）の間で、不公平が出ないようにしていかないといけない。見附だとそのまま引越せせず、ずっと住み続けることができるが、小学校のプレハブだと5年くらい経ったら退去しなければならないこととなり、差が出てくる。一旦リセットをかける必要もあるかなと思う。色々と相談しながら進めていきたい。

**環境建設課：**

災害公営住宅は、珠洲市が管理していくもので、市営住宅として現在50戸管理している。今の推定でいくと、700戸をずっと管理していかなければならないので、集落でバラつきがあると管理が大変になる。珠洲市の方針としては、10戸単位で整備するというのを原則として考えている。10戸なければならないということではないが、管理面を踏まえても、出来る限り、まとまった形での整備が望ましい。

**市長：**

先ほどの合葬墓についても補助事業というよりは、珠洲市がどこかに地面を求めて、珠洲市全体としての共同墓地、合葬墓を整備するかどうかになると思う。

**参加者：**

今の墓を何とかしたいと考えていて、今の地面で考えている。

**市長：**

地域としての共同墓地にいたる道路等の修繕については、1/2の補助が出るが、今の話だと補助金としては難しい。やるとすれば珠洲市として、全体の共同のお墓を整備するという形になると思う。

**参加者：**

鵜飼漁港のところに遊歩道とあるが、新設されるのか。40cm下がっているとあるが、ブロック塀も合わせて、1m程下がっており、逃げる時に大変な思いをした。鵜飼漁港の護岸の復旧について聞きたい。

**産業振興課：**

鵜飼漁港の復旧について、40cm沈下しているので、元の高さに復旧する計画となっている。

**参加者：**

道も合わせて嵩上げするのか。遊歩道と一緒に嵩上げするのか。

**市長：**

遊歩道は、地区協議会の住民提案をいただいたところで、実際どこまで出来るかどうかになる。できるだけ皆さんからいただいた「まちのかたち」の実現に向けて、取り組んでいきたいと考えている。全てできるかといったこともあるし、整備の優先順位を含め、話し合いをしながら、今後の検討となる。鵜飼漁港について、復旧はしっかりやる。

**参加者：**

仮の橋を作ったらそのままになるという噂がある。港橋と鵜飼大橋はそのままということはないか。

**市長：**

それはあり得ない。本復旧に向けての仮橋である。仮橋は最終的には撤去し、本復旧を行うことになる。

**多田区長会長：**

宝立町としてのビジョンという話があった。今3つの地区で議論を進めている。今後、宝立町としての課題が出てくる。その時には、分かれていた協議会が一つになって考えていく必要がある。今後、地権者との調整も出てくる。意向調査を進める上で、もっと細分化して議論する必要もある。まちづくりを進めるにあたって、段階的にまちづくりを考えていくグループを作らなければならないと考えている。デタラメな情報があり、様々なデマが出回っている。市のホームページを確認するなど、出来る限り、正確な情報を取得するようにして欲しい。分からなかったら誰かに聞くなど、正確な情報かどうか自分で判断できるようにして欲しい。

**市長：**

真偽が分からない情報は、復旧・復興本部に問い合わせるなどして欲しい。12月17日に天皇、皇后両陛下にお会いし、お見舞いの言葉をいただいている。来年も前に進めるよう取り組んでいく。

以上